

S	芸術環境演習 I 科目コード： 30003
配当年次	1年次～
単位数	4
履修の前提条件	なし
開講日程・ 開講地・定員	芸術環境演習I(比較芸術学) 開催日程：2019年4月6日（土），2019年5月4日（土），2019年6月8日（土），2019年8月3日（土） 開催地：京都、受講料： ￥0、定員：なし 芸術環境演習I(文化遺産・伝統芸術) 開催日程：2019年4月6日（土），2019年5月4日（土），2019年6月8日（土），2019年8月3日（土） 開催地：京都、受講料： ￥0、定員：なし 芸術環境演習I(芸術教育) 開催日程：2019年4月6日（土），2019年5月4日（土），2019年6月8日（土） 開催地：京都、受講料： ￥0、定員：なし 芸術環境演習I(芸術環境計画) 開催日程：2019年4月6日（土），2019年5月4日（土），2019年6月8日（土） 開催地：京都、受講料： ￥0、定員：なし 芸術環境演習I(比較芸術学) 開催日程：2019年4月13日（土），2019年5月11日（土），2019年6月15日（土），2019年8月3日（土） 開催地：東京■、受講料： ￥0、定員：なし 芸術環境演習I(文化遺産・伝統芸術) 開催日程：2019年4月13日（土），2019年5月11日（土），2019年6月15日（土），2019年8月3日（土） 開催地：東京■、受講料： ￥0、定員：なし 芸術環境演習I(芸術教育) 開催日程：2019年4月13日（土），2019年5月12日（日），2019年6月16日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥0、定員：なし 芸術環境演習I(芸術環境計画) 開催日程：2019年4月13日（土），2019年5月12日（日），2019年6月16日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥0、定員：なし 芸術環境演習I(芸術環境計画(文芸)) 開催日程：2019年4月13日（土），2019年5月12日（日），2019年6月16日（日） 開催地：東京■、受講料： ￥0、定員：なし
担当者	池野絢子、加藤志織、大辻都、五島邦治、栗本徳子、金子典正、井上治、重田みち、小林善帆、上村博、松井利夫、伊達伸明、武井美砂、吉良智子、三上美和、皿井舞、森田都紀、野村朋弘、石神裕之、春日部幹、川合健太、田中尚史、伊藤譲治ほか

科目概要と到達目標

本科目では、二つの課題を通して、修了研究を進める上で必要とされる基礎的な研究手法を学びます。

第一の課題（授業の前半）は、芸術環境研究領域の学生がそれぞれの専門分野での修了研究を進めるにあたり、基礎的な考え方や研究の方法を身につけることを目標としています。そのため研究分野に応じたゼミ毎に教員の指定する共通の課題に取り組み、毎回のゼミの機会にそれぞれの作業結果を相互に検証する形で授業を進めます。

第二の課題（授業の後半）は、学生各自の修了研究を教員が指導し、十分な研究成果を挙げることを目標とします。そのため、研究分野に応じたゼミで、学生の研究報告と討論を繰り返す形で授業を進めます。この部分は、「芸術環境研究Ⅰ」と合同で進めます。

評価基準と成績評価方法

二つの課題の成績を総合して評価します。

第一の課題については、授業中の発表により評価します。授業での討論への参加度も評価に加えます。評価観点は以下のとおりです。

- ・ 課題の内容が十分に理解されているか。
- ・ それぞれの研究分野に必要な知識が得られているか。
- ・ 研究方法が明瞭に意識されているか。

第二の課題については、定期的な研究過程の記録や、授業中の発表および報告書により評価します。授業での討論への参加度も評価に加えます。評価観点は以下のとおりです。

- ・ 各自の研究・制作の目的が十分に意義あるものか。
- ・ 研究・制作の手順は妥当か。
- ・ 研究・制作経過の検証が十分になされているか。
- ・ 以上の諸点が明瞭な形で示されているか。

上記二課題の評価観点を全体として満足させていることが合格の条件となります。

予習・復習

予習：午前中の共通課題については、発表担当者は、指定された課題に沿って発表を用意してください。その他の学生も、課題に取り組み、積極的に討論に参加できる準備をしてきてください。

午後のゼミ発表については、各自の研究発表を準備し、配布資料をairUにゼミの3日前の13:00までに掲出してください。提出が間に合わなかった場合は、当日人数分をコピーして持参してください。また、他のゼミ生の配布資料に目を通しておいてください。

復習：午前中の共通課題については、発表において指摘された点は修正するとともに、議論となった点を各自でさらに掘り下げて考察を重ねてください。

午後のゼミ発表については、教員からの指導や学生間の討論を踏まえて、各自の研究の方向性や手法を練り直し、修了研究を進めてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	研究分野に応じたゼミ毎に指定します。
------	--------------------

テキスト	詳細は授業内で説明します。
参考文献・URL	各ゼミで必要に応じて紹介します。

課題

■第一の課題（授業の前半）

研究分野に応じたゼミ毎に教員の指定する共通の課題に取り組み、毎回のゼミの機会にそれぞれの作業結果を相互に検証する形で授業を進めます。

課題内容は、初回の授業で各ゼミ毎に説明します。

■第二の課題（授業の後半）

研究経過報告書Ⅰ

現在の研究の進捗状況を「テーマ」「概要」および「今後の研究手順と見通し」を中心にまとめ、airUに提出してください。分量は以下の通りです。書式はairUからダウンロードできますので、必ず指定書式を使用してください。

報告書は「論文」もしくは「研究活動実施報告書」のいずれかの形式で提出してください。

ご自身が「論文」「研究活動実施報告書」のいずれの形式で報告書を作成するかはゼミ時に担当教員からの指示にしたがってください。

【文字数】

論文12,000文字程度 もしくは 研究報告書4,000文字程度

※書式は「airU」上の課題提出ページで確認してください。

【提出期間】

9月2日（月）～9月9日（月）13：00

※ 研究経過報告書Ⅰは各自の進捗状況を把握し、方向性を確認するために提出します。必要な場合は、担当教員から講評を受けます。

※airUから提出してください。

授業計画

授業は、芸術環境研究領域用ページairUを利用しながら、対面授業（ゼミ）を中心に進められます。

【比較芸術学ゼミ】

京都 4月6日（土） / 東京 4月13日（土）

I 講時 オリエンテーション

II 講時 共通課題の説明

III～V 講時 研究報告および討論

京都 5月4日（土祝） / 東京 5月11日（土）

I～II 講時 共通課題の発表と討論

III～V 講時 研究報告および討論

京都 6月8日（土） / 東京 6月15日（土）

I～II 講時 共通課題の発表と討論

III～V 講時 研究報告および討論

京都・東京 8月3日（土）

I～V 講時 先行論文の扱い方

【文化遺産・伝統芸術ゼミ】

京都 4月6日（土） / 東京 4月13日（土）

- I 講時 オリエンテーション
- II 講時 共通課題の説明
- III～V 講時 研究報告および討論

京都 5月4日（土祝） / 東京 5月11日（土）

- I～II 講時 共通課題の発表と討論
- III～V 講時 研究報告および討論

京都 6月8日（土） / 東京 6月15日（土）

- I～II 講時 共通課題の発表と討論
- III～V 講時 研究報告および討論

京都・東京 8月3日（土）

- I～V 講時 先行論文の扱い方と修了生によるレクチャー

【芸術教育ゼミ】

京都 4月6日（土） / 東京 4月13日（土）

- I 講時 オリエンテーション
- II 講時 共通課題の説明
- III～V 講時 研究報告および討論

京都 5月4日（土祝） / 東京 5月13日（土）

- I～II 講時 共通課題の発表と討論
- III～V 講時 研究報告および討論

京都 6月8日（土） / 東京 6月16日（日）

- I～II 講時 共通課題の発表と討論
- III～V 講時 研究報告および討論

【芸術環境計画ゼミ】

京都 4月6日（土） / 東京 4月13日（土）

- I 講時 オリエンテーション
- II 講時 共通課題の説明
- III～V 講時 研究報告および討論

京都 5月4日（土祝） / 東京 5月12日（日）

- I～II 講時 共通課題の発表と討論
- III～V 講時 研究報告および討論

京都 6月8日（土） / 東京 6月16日（日）

- I～II 講時 共通課題の発表と討論
- III～V 講時 研究報告および討論

※ III～V 講時の対面授業は「芸術環境研究 I」と合同で行います。

※ 受講者数・発表者数に応じて開始・終了時間や運営方法が変更となる場合があります。各ゼミの担当教員の指導に従ってください。

■対面授業（ゼミ）

午前の対面授業では、課題に対する発表とそれをめぐる討論により、基礎的な研究手法を学びます。午後の対面授業（ゼミ）では、各自の研究発表に対する質疑応答や講評、また、学生相互の発表等を参考にしながら、自身の研究の方向性・手法を探ります。各ゼミの開講地において指定された全ての日程に出席してください。

初回ゼミでは、各自10分程度でそれぞれの修了研究のテーマを発表し、5分程度のディスカッションを行います。

■担当教員

比較芸術学ゼミ（京都）

池野、加藤、大辻

文化遺産・伝統芸術ゼミ（京都）

五島、井上、重田、小林、栗本、金子

芸術教育ゼミ（京都）

上村

芸術環境計画ゼミ（京都）

伊達

比較芸術学ゼミ（東京）

池野、武井、吉良

文化遺産・伝統芸術ゼミ（東京）

三上、皿井、森田、野村、石神

芸術教育ゼミ（東京）

松井、上村

芸術環境計画ゼミ（東京）

春日部、川合

芸術環境計画ゼミ（創作文芸）（東京）

田中、伊藤

■WEB（「airU」）

WEB上の芸術環境研究領域用ページairUを用いて研究報告を行います。airUの概要と利用方法については、初回ガイダンスで説明します。後述の「その他」にも注意事項がありますので、確認をしてください。

■発表のレジュメの掲出

各回のゼミ発表者は、ゼミの3日前の13:00までにairU上に課題に対する発表概要、その他参考資料を掲出してください。期限までに提出できなかった場合は、人数分をコピーしてゼミ当日に持参してください。ゼミの参加者はゼミの授業前に資料を閲覧してください。

■研究過程の記録（「研究記録」への記入）

定期的にairU上の「研究記録」に研究過程の記録をつけてください。平常点評価の対象となります。分

量は少なくとも結構ですが、基本的に毎週1回、最低でも年間で32週は、どこでどのような文献を調査したか、どのような作品制作をおこなっているか、またどのような課題に取り組んでいるか（テキスト科目の準備状況やゼミ発表の下書きなど）といった記録の書き込みを行ってください。書き込みの不足は減点の対象となります。「研究記録」は定期的に教員が閲覧します。また、教員、他の学生からコメントが付けられることがあります。

■報告書の提出

それまでの研究の進捗状況をまとめた「研究経過報告書」を提出します。それらの報告書に対し、必要な場合は教員の講評指導が加えられます。報告書の提出についての詳細は「課題」を確認してください。

受講にあたって

●持参物

- ・課題テキスト
- ・筆記用具
- ・レジュメ

airUより当日発表者のレジュメ（参考資料がある場合は資料も含む）をダウンロードして、印刷のうえ持参してください。

・発表者は適宜、発表用の資料（図版、資料、文献、制作物、パワーポイントデータなど）を持参してください。

●その他

■集合教室案内

当日の集合教室については、開講日の1週間前をめどにairU上に掲示しますので、必ず確認してください。

■ゼミ発表時の使用機材について

【大学が用意する機材】 パソコン（投影機を含む）、OHC（実物投影機）、スクリーン、マイク、ポインタ、手元ランプ

【ゼミ発表時のパソコン使用にあたっての注意事項】

- ・大学で用意するパソコンはWindows 7です（自身のノートパソコンの持ち込みは出来ません）。
- ・持参するデータ形式は「PowerPoint」（PPT）、「画像ファイル」（PNG、JPEG、GIF）、「PDF文書」（PDF）とし、USBフラッシュメモリまたはCD-Rにデータ保存したものを持参してください。また、データが読み込めないなどのトラブルも考えられますので、プリントアウトしたものも併せて持参してください。

■「airU」利用にあたっての注意事項

- ・芸術環境研究領域では学習用WEBサイト「airU」を利用して授業を行います。
- ・「airU利用登録通知」が必要です。「airU利用登録通知」の通知を入学時に全学生に送付しています。お手元にない場合は『学習ガイド』を参照して、再発行の手続きを行ってください。

・締切は厳守です。テキスト科目の提出や各種申込と同じく、airUを利用する場合も締切や提出期間が設けられています。所定の期間外での提出や投稿はいかなる理由でも受け付けられませんのでご注意ください（但し、理由が大学に起因する場合を除く）。また、トラブルの報告も締切後は受け付けませんので、問題がある場合は必ず締切前にお知らせください。

注意事項

「研究記録」は履修している科目の受講者の研究記録のみ閲覧可能です。

S	芸術環境演習Ⅲ		科目コード： 30005
	配当年次	1年次～	
	単位数	4	
	履修の前提条件	なし	
	開講日程・ 開講地・定員	芸術環境演習Ⅲ(比較芸術学) 開催日程：2019年10月5日（土）,2019年11月16日（土）,2020年1月18日（土） 開催地：京都、受講料： 〃0、定員：なし 芸術環境演習Ⅲ(文化遺産・伝統芸術) 開催日程：2019年10月5日（土）,2019年11月16日（土）,2020年1月18日（土） 開催地：京都、受講料： 〃0、定員：なし 芸術環境演習Ⅲ(芸術教育) 開催日程：2019年10月5日（土）,2019年11月16日（土）,2020年1月18日（土） 開催地：京都、受講料： 〃0、定員：なし 芸術環境演習Ⅲ(芸術環境計画) 開催日程：2019年10月5日（土）,2019年11月16日（土）,2020年1月18日（土） 開催地：京都、受講料： 〃0、定員：なし 芸術環境演習Ⅲ(比較芸術学) 開催日程：2019年10月13日（日）,2019年11月9日（土）,2020年1月12日（日） 開催地：東京■、受講料： 〃0、定員：なし 芸術環境演習Ⅲ(文化遺産・伝統芸術) 開催日程：2019年10月13日（日）,2019年11月9日（土）,2020年1月12日（日） 開催地：東京■、受講料： 〃0、定員：なし 芸術環境演習Ⅲ(芸術教育) 開催日程：2019年10月12日（土）,2019年11月10日（日）,2020年1月11日（土） 開催地：東京■、受講料： 〃0、定員：なし 芸術環境演習Ⅲ(芸術環境計画) 開催日程：2019年10月12日（土）,2019年11月10日（日）,2020年1月11日（土） 開催地：東京■、受講料： 〃0、定員：なし 芸術環境演習Ⅲ(芸術環境計画(文芸)) 開催日程：2019年10月12日（土）,2019年11月10日（日）,2020年1月11日（土） 開催地：東京■、受講料： 〃0、定員：なし	
	担当者	池野絢子、加藤志織、大辻都、五島邦治、井上治、重田みち、小林善帆、栗本徳子、金子典正、上村博、伊達伸明、武井美砂、吉良智子、三上美和、森田都紀、皿井舞、野村朋弘、石神裕之、松井利夫、春日部幹、川合健太、田中尚史、伊藤譲治ほか	

科目概要と到達目標

本科目では、「芸術環境演習Ⅰ」に続き、二つの課題を通して、修了研究を進める上で必要とされる基礎的な研究手法を学びます。

第一の課題（授業の前半）は、芸術環境研究領域の学生がそれぞれの専門分野での修了研究を進めるにあたり、基礎的な考え方や研究の方法を身につけることを目標としています。そのため研究分野に応じたゼミ毎に教員の指定する共通の課題に取り組み、毎回のゼミの機会にそれぞれの作業結果を相互に検証する形で授業を進めます。

第二の課題（授業の後半）は、学生各自の修了研究を教員が指導し、十分な研究成果を挙げることを目標とします。そのため、研究分野に応じたゼミで、学生の研究報告と討論を繰り返す形で授業を進めます。この部分は、「芸術環境研究Ⅰ」と合同で進めます。

なお、研究経過報告書Ⅱでは、次年度の「芸術環境研究Ⅰ」において修了研究を進めるための十分な準備ができているかどうかを判断します。ゼミに出席し、所定の報告書を提出していても、研究自体の進捗状況によっては本科目の単位が修得できない場合もありますので、各自計画性をもって研究に取り組んでください。

評価基準と成績評価方法

二つの課題の成績を総合して評価します。

第一の課題については、授業中の発表により評価します。授業での討論への参加度も評価に加えます。評価観点は以下のとおりです。

- ・課題の内容が十分に理解されているか。
- ・それぞれの研究分野に必要な知識が得られているか。
- ・研究方法が明瞭に意識されているか。

第二の課題については、定期的な研究過程の記録や、授業中の発表および報告書により評価します。授業での討論への参加度も評価に加えます。評価観点は以下のとおりです。

- ・各自の研究・制作の目的が十分に意義あるものか。
- ・研究・制作の手順は妥当か。
- ・研究・制作経過の検証が十分になされているか。
- ・以上の諸点が明瞭な形で示されているか。

上記二課題の評価観点を全体として満足させていることが合格の条件となります。

予習・復習

予習：午前中の共通課題については、発表担当者は、指定された課題に沿って発表を用意してください。その他の学生も、課題に取り組み、積極的に討論に参加できる準備をしてきてください。

午後のゼミ発表については、各自の研究発表を準備し、配布資料をゼミの3日前の13:00までにairU上に掲出してください。期限までに提出できなかった場合は、人数分をコピーしてゼミ当日に持参してください。ゼミの参加者はゼミの授業前に資料を閲覧してください。

復習：午前中の共通課題については、発表において指摘された点は修正するとともに、議論となった点を各自でさらに掘り下げて考察を重ねてください。

午後のゼミ発表については、教員からの指導や学生間の討論を踏まえて、各自の研究の方向性や手法を練り直し、修了研究を進めてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	研究分野に応じたゼミ毎に指定します。
------	--------------------

テキスト	詳細は授業内で説明します。
参考文献・URL	各ゼミで必要に応じて紹介します。

課題

■第一の課題（授業の前半）

研究分野に応じたゼミ毎に教員の指定する共通の課題に取り組み、毎回のゼミの機会にそれぞれの作業結果を相互に検証する形で授業を進めます。

課題内容は、授業内での指示に従ってください。

■第二の課題（授業の後半）

研究経過報告書Ⅱ

二度のゼミ発表での講評や質疑を踏まえ、今年度の研究の進捗状況を提出してください。分量は以下の通りです。

表紙については書式をairUからダウンロードできますので、必ず指定書式を使用してください。本文は以下の要項に従って設定してください。

報告書は「論文」もしくは「研究活動実施報告書」のいずれかの形式で提出してください。

（1）論文 本文2部

【本文】

12,000文字程度

- ・400字詰原稿用紙30枚程度（横書、縦書いずれも可）、
- ・A4縦版横書12枚程度（40字×25行、1ページあたり1,000文字）、
- ・A4縦版縦書6枚程度（二段組、一段35字×30行、1ページあたり2,100文字）、

上記いずれかの書式形態の論文（註・参考資料・図版・補遺などは字数に含まない）。

※テキスト科目の課題レポート書式（任意のA4用紙を使用する場合）とは異なりますので、注意してください。

※改行、改ページなどレイアウトの関係で上記枚数を超えてもかまいません。

（2）研究活動実施報告書 本文・報告資料 各2部

【本文】

4,000文字程度

- ・400字詰原稿用紙10枚程度（横書、縦書いずれも可）、
- ・A4縦版横書4枚程度（40字×25行、1ページあたり1,000文字）、
- ・A4縦版縦書2枚程度（二段組、一段35字×30行、1ページあたり2,100文字）

上記いずれかの書式形態の研究報告書（註・参考資料・図版・補遺などは字数に含まない）。

※テキスト科目の課題レポート書式（任意のA4用紙を使用する場合）とは異なりますので、注意してください。

※改行、改ページなどレイアウトの関係で上記枚数を超えてもかまいません。【当該報告資料】資料、作品写真、図面、他のメディア（DVD）等。

―――

【提出締切日】

12月2日（月）【必着】郵送もしくは窓口で提出

【提出先】

〒606-8271

京都市左京区北白川瓜生山2-116京都造形芸術大学大学院（通信教育）芸術環境研究領域研究室宛

※封筒表面に「芸術環境演習Ⅲ研究経過報告書Ⅱ在中」と記載すること。

※個別の到着確認は受け付けませんので、到着の確認できる方法で提出するようにしてください。

【書式】

本文は原稿用紙、本学指定のレポート冊子または、任意のA4用紙とする。

所定の「芸術環境演習Ⅲ表紙」を論文または研究報告書の本文に重ね、上部2箇所をダブルクリップ、ホチキス等でとめる。

※「芸術環境演習Ⅲ表紙」は、airUからダウンロードしてください。表紙は主担当用と副担当用の2種が1つのデータとなっています。提出された報告書2部は主・副担当の先生に1部ずつお渡しします。同じ内容の報告書を2部用意し、主担当用表紙、副担当用表紙をそれぞれ添付して提出してください。

※ 糊付け、紐綴じはしないでください。

※ 参考資料・図版・作品写真等が本文書式にまとまらない場合は、A4クリアブック（＝透明式ポケットファイル）にまとめ、本文とA4クリアブックまたはDVD等を提出してください。作品本体は送付しないでください。

※ 添付資料として音や映像を用いる場合は、全ての提出資料の統計が10分以内に収まるように編集してください（DVDでは最後にファイナライズ処理を行ってください）。

※ 資料の概要を報告書末尾に「添付資料一覧および概要」として一点につき400字程度で記述してください。

【講評】

「研究経過報告書Ⅱ」についての講評は1月のゼミで返却します。

授業計画

授業は、芸術環境研究領域用ページairUを利用しながら、対面授業（ゼミ）を中心に進められます。

【比較芸術学ゼミ】

京都 10月5日（土） / 東京 10月13日（日）

I～Ⅱ講時 共通課題の発表と討論

Ⅲ講時～Ⅴ講時 研究報告および討論

京都 11月16日（土） / 東京 11月9日（土）

I～Ⅱ講時 共通課題の発表と討論

Ⅲ講時～Ⅴ講時 研究報告および討論

京都 1月18（土） / 東京 1月12日（日）

I～Ⅱ講時 共通課題の発表と討論

Ⅲ講時～Ⅴ講時 最終講評（個別面談、もしくはゼミ発表）

【文化遺産・伝統芸術ゼミ】

京都 10月5日（土） / 東京 10月13日（日）

I～Ⅱ講時 共通課題の発表と討論

Ⅲ講時～Ⅴ講時 研究報告および討論

京都 11月16日（土） / 東京 11月9日（土）

I～Ⅱ講時 共通課題の発表と討論

Ⅲ講時～Ⅴ講時 研究報告および討論

京都 1月18（土） / 東京 1月12日（日）

I～Ⅱ講時 共通課題の発表と討論

Ⅲ講時～Ⅴ講時 最終講評（個別面談、もしくはゼミ発表）

【芸術教育ゼミ】

京都 10月5日（土） / 東京 10月12日（土）

I～II 講時 共通課題の発表と討論

III 講時～V 講時 研究報告および討論

京都 11月16日（土） / 東京 11月10日（日）

I～II 講時 共通課題の発表と討論

III 講時～V 講時 研究報告および討論

京都 1月18（土） / 東京 1月11日（土）

I～II 講時 共通課題の発表と討論

III 講時～V 講時 最終講評（個別面談、もしくはゼミ発表）

【芸術環境計画ゼミ】

京都 10月5日（土） / 東京 10月12日（土）

I～II 講時 共通課題の発表と討論

III 講時～V 講時 研究報告および討論

京都 11月16日（土） / 東京 11月10日（日）

I～II 講時 共通課題の発表と討論

III 講時～V 講時 研究報告および討論

京都 1月18（土） / 東京 1月11日（土）

I～II 講時 共通課題の発表と討論

III 講時～V 講時 最終講評（個別面談、もしくはゼミ発表）

※1月以外のIII～V 講時の対面授業は「芸術環境研究Ⅰ」と合同で行います。

※ 受講者数、発表者数に応じて開始・終了時間や運営方法が変更となる場合があります。各ゼミの担当教員の指導に従ってください。

■対面授業（ゼミ）

午前の対面授業では、課題に対する発表とそれをめぐる討論により、自身の研究の方向性・手法を探ります。

午後の対面授業（ゼミ）では、各自の研究発表に対する質疑応答や講評、また、学生相互の発表等を参考にしながら、自身の研究の方向性・手法を探ります。各ゼミの開講地において指定された全ての日程に出席してください。

初回ゼミでは、各自10分程度でそれぞれの修了研究のテーマを発表し、5分程度のディスカッションを行います。

最終回ゼミの午後では、「研究経過報告書Ⅱ」に基づく講評を個人面談の形式で返却します（ゼミによっては授業形式がゼミ形式になる場合があります）。

■担当教員

比較芸術学ゼミ（京都）

池野、加藤、大辻

文化遺産・伝統芸術ゼミ（京都）

五島、井上、重田、小林、栗本、金子

芸術教育ゼミ（京都）

上村

芸術環境計画ゼミ（京都）

伊達

比較芸術学ゼミ（東京）

池野、吉良、武井

文化遺産・伝統芸術ゼミ（東京）

三上、皿井、森田、野村、石神

芸術教育ゼミ（東京）

松井、上村

芸術環境計画ゼミ（東京）

春日部、川合

芸術環境計画ゼミ（創作文芸）（東京）

田中、伊藤

■WEB（airU）

WEB上の芸術環境研究領域用ページairUを用いて研究報告を行います。後述の「その他」にも注意事項がありますので、確認してください。

■発表のレジュメの掲出

各回のゼミ発表者は、ゼミの3日前13：00までにairU上に課題に対する発表概要、その他参考資料を掲出してください。期限までに提出できなかった場合は、人数分をコピーしてゼミ当日に持参してください。ゼミの参加者はゼミの授業前に資料を閲覧してください。

■研究過程の記録（「研究記録」への記入）

定期的にairU上の「研究記録」に研究過程の記録をつけてください。平常点評価の対象となります。分量は少なくとも結構ですが、基本的に毎週1回、最低でも年間で32週は、どこでどのような文献を調査したか、どのような作品制作をおこなっているか、またどのような課題に取り組んでいるか（テキスト科目の準備状況やゼミ発表の下書きなど）といった記録の書き込みを行ってください。書き込みの不足は減点の対象となります。「研究記録」は定期的に教員が閲覧します。また、教員、他の学生からコメントが付けられることがあります。

■報告書の提出

それまでの研究の進捗状況をまとめた「研究経過報告書」を提出します。それらの報告書に対し、教員の講評指導が加えられます。報告書の提出についての詳細は「課題」を確認してください。

受講にあたって

●持参物

- ・課題テキスト
- ・筆記用具
- ・レジュメ

airUより当日発表者のレジュメ（参考資料がある場合は資料も含む）をダウンロードして、印刷のうえ持参してください。

- ・発表者は適宜、発表用の資料（図版、資料、文献、制作物、パワーポイントデータなど）を持参して

ください。

●その他

■集合教室案内

当日の集合教室については、開講日の1週間前をめぐにairU上に掲示しますので、必ず確認してください。

■ゼミ発表時の使用機材について

【大学が用意する機材】 パソコン（投影機を含む）、OHC（実物投影機）、スクリーン、マイク、ポインタ、手元ランプ

【ゼミ発表時のパソコン使用にあたっての注意事項】

- ・大学で用意するパソコンはWindows 7です（自身のノートパソコンの持ち込みは出来ません）。
- ・持参するデータ形式は「PowerPoint」（PPT）、「画像ファイル」（PNG、JPEG、GIF）、「PDF文書」（PDF）とし、USBフラッシュメモリまたはCD-Rにデータ保存したものを持参してください。また、データが読み込めないなどのトラブルも考えられますので、プリントアウトしたものも併せて持参してください。

■「airU」利用にあたっての注意事項

芸術環境研究領域では学習用WEBサイト「airU」を利用して授業を行います。

- ・「airU利用登録通知」が必要です。「airU利用登録通知」の通知を入学時に全学生に送付しています。お手元がない場合は『学習ガイド』を参照して、再発行の手続きを行ってください。
- ・締切は厳守です。テキスト科目の提出や各種申込と同じく、airUを利用する場合も締切や提出期間が設けられています。所定の期間外での提出や投稿はいかなる理由でも受け付けられませんのでご注意ください（但し、理由が大学に起因する場合を除く）。また、トラブルの報告も締切後は受け付けませんので、問題がある場合は必ず締切前にお知らせください。

注意事項

「研究記録」は履修している科目の受講者の研究記録のみ閲覧可能です。

S	芸術環境研究Ⅰ 科目コード： 30021
配当年次	2年次～
単位数	8
履修の前提条件	修了研究・修了制作着手が許可されていること。
開講日程・ 開講地・定員	芸術環境研究Ⅰ(比較芸術学) 開催日程：2019年4月6日(土),2019年5月4日(土),2019年6月8日(土),2019年10月5日(土),2019年11月16日(土) 開催地：京都、受講料： 〃0、定員：なし 芸術環境研究Ⅰ(文化遺産・伝統芸術) 開催日程：2019年4月6日(土),2019年5月4日(土),2019年6月8日(土),2019年10月5日(土),2019年11月16日(土) 開催地：京都、受講料： 〃0、定員：なし 芸術環境研究Ⅰ(芸術教育) 開催日程：2019年4月6日(土),2019年5月4日(土),2019年6月8日(土),2019年10月5日(土),2019年11月16日(土) 開催地：京都、受講料： 〃0、定員：なし 芸術環境研究Ⅰ(芸術環境計画) 開催日程：2019年4月6日(土),2019年5月4日(土),2019年6月8日(土),2019年10月5日(土),2019年11月16日(土) 開催地：京都、受講料： 〃0、定員：なし 芸術環境研究Ⅰ(比較芸術学) 開催日程：2019年4月13日(土),2019年5月11日(土),2019年6月15日(土),2019年10月13日(日),2019年11月9日(土) 開催地：東京■、受講料： 〃0、定員：なし 芸術環境研究Ⅰ(文化遺産・伝統芸術) 開催日程：2019年4月13日(土),2019年5月11日(土),2019年6月15日(土),2019年10月13日(日),2019年11月9日(土) 開催地：東京■、受講料： 〃0、定員：なし 芸術環境研究Ⅰ(芸術教育) 開催日程：2019年4月13日(土),2019年5月12日(日),2019年6月16日(日),2019年10月12日(土),2019年11月10日(日) 開催地：東京■、受講料： 〃0、定員：なし 芸術環境研究Ⅰ(芸術環境計画) 開催日程：2019年4月13日(土),2019年5月12日(日),2019年6月16日(日),2019年10月12日(土),2019年11月10日(日) 開催地：東京■、受講料： 〃0、定員：なし
担当者	池野絢子、加藤志織、大辻都、五島邦治、井上治、重田みち、小林善帆、栗本徳子、金子典正、上村博、伊達伸明、武井美砂、吉良智子、三上美和、森田都紀、皿井舞、野村朋弘、石神裕之、松井利夫、春日部幹、川合健太、田中尚史、伊藤譲治ほか

科目概要と到達目標

本科目は、芸術環境研究領域の学生それぞれの修了研究を教員が指導し、十分な研究成果を挙げることを目標とします。そのため、研究分野に応じたゼミで、学生の研究報告と討論を繰り返す形で授業を進めます。

評価基準と成績評価方法

定期的な研究過程の記録や、授業中の発表および報告書、口頭試問により評価します。授業での討論への参加度も評価に加えます。

評価観点は以下のとおりで、これらを全体として満足させていることが合格の条件となります。

- ・各自の研究・制作の目的が十分に意義あるものか。
- ・研究・制作の手順は妥当か。
- ・研究・制作経過の検証が十分になされているか。
- ・以上の諸点が明瞭な形で示されているか。

最終成果物が修士の学位に値するものであるかによって本科目の合否を判定します。

予習・復習

予習：各自の研究発表を準備し、配布資料をゼミの3日前の13:00までにairU上に掲出してください。期限までに提出できなかった場合は、人数分をコピーしてゼミ当日に持参してください。また、他のゼミ生の配布資料に目を通し、印刷して持参してください。

復習：教員からの指導や学生間の討論を踏まえて、各自の研究の方向性や手法を練り直し、修了研究を進めてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	
参考文献・URL	

課題

年間2回、「論文」もしくは「研究活動実施報告書」のいずれかの形式で研究報告書を提出してください。最終成果物は修士の学位を申請するための「学位申請論文」または「学位申請研究活動実施報告書」となります。

■中間報告書Ⅰ提出

(1) 論文

本文 2部、要約 2部

【本文】

20,000文字程度

・400字詰原稿用紙50枚程度（横書、縦書いずれも可）、A4縦版横書20枚程度（40字×25行、1ページあたり1,000文字）、A4縦版縦書10枚程度（二段組、一段35字×30行、1ページあたり2,100文字）のいずれかの書式形態（註・参考資料・図版・補遺などは字数に含まない）。

※テキスト科目の課題レポート書式（任意のA4用紙を使用する場合）とは異なりますので、注意してください。

※改行、改ページなどレイアウトの関係で上記枚数を超えてもかまいません。

※提出された報告書2部は主・副担当の先生に1部ずつお渡しします。同じ内容の報告書を2部用意し、主担当用・副担当用の表紙をそれぞれ添付して提出してください。

【要約】

400文字程度の概要

（2）研究活動実施報告書

本文・報告資料 各2部、要約 2部

【本文】

6,000文字程度

・400字詰原稿用紙15枚程度（横書、縦書いずれも可）、A4縦版横書6枚程度（40字×25行、1ページあたり1,000文字）、A4縦版縦書3枚程度（二段組、一段35字×30行、1ページあたり2,100文字）のいずれかの書式形態の研究報告書（註・参考資料・図版・補遺などは字数に含まない）。

※テキスト科目の課題レポート書式（任意のA4用紙を使用する場合）とは異なりますので、注意してください。

※改行、改ページなどレイアウトの関係で上記枚数を超えてもかまいません。

※提出された報告書2部は主・副担当の先生に1部ずつお渡しします。同じ内容の報告書を2部用意し、主担当用・副担当用の表紙をそれぞれ添付して提出してください。

【当該報告資料】

資料、作品写真、図面、他のメディア（DVD）等。

【要約】

400文字程度の概要

【提出締切日】

- ・京都で受講の方 5月16日（木）【必着】 郵送または窓口で提出
- ・東京で受講の方 5月23日（木）【必着】 郵送または窓口で提出

【提出方法】

本文は原稿用紙、本学指定のレポート冊子または、任意のA4用紙とする。airUの書式より「中間報告書Ⅰ表紙」をダウンロードして、論文または研究報告書の本文に重ね、上部2箇所をダブルクリップ、ホチキス等でとめる。

※糊付け、紐綴じはしないでください。

※参考資料・図版・作品写真等が本文書式にまとまらない場合は、A4クリアーブック（＝透明式ポケットファイル）にまとめ、本文とA4クリアーブックまたはDVD等を提出してください。作品本体は送付しないでください。

【講評】

「中間報告書Ⅰ」は6月のゼミで返却します。

【提出先】

〒606-8271

京都市左京区北白川瓜生山2-116京都造形芸術大学大学院（通信教育）芸術環境研究領域研究室宛

※封筒表面に「芸術環境研究Ⅰ 中間報告書Ⅰ 在中」と記載すること。

※個別の到着確認は受け付けませんので、到着の確認できる方法で提出するようにしてください。

■中間報告書Ⅱ提出

(1) 論文 本文 2部、要約 2部

【本文】

32,000～40,000文字程度

・400字詰原稿用紙80～100枚程度（横書、縦書いずれも可）、A4縦版横書32～40枚程度（40字×25行、1ページあたり1,000文字）、A4縦版縦書16～20枚程度（二段組、一段35字×30行、1ページあたり2,100文字）のいずれかの書式形態（註・参考資料・図版・補遺などは字数に含まない）。

※テキスト科目の課題レポート書式（任意のA4用紙を使用する場合）とは異なりますので、注意してください。

※改行、改ページなどレイアウトの関係で上記枚数を超えてもかまいません。

※提出された報告書2部は主・副担当の先生に1部ずつお渡しします。同じ内容の報告書を2部用意し、主担当用・副担当用の表紙をそれぞれ添付して提出してください。

【要約】

2,000文字程度の概要

(2) 研究活動実施報告書 本文・報告資料 各2部、要約 2部

【本文】

8,000～40,000文字程度

・400字詰原稿用紙20～100枚程度（横書、縦書いずれも可）、A4縦版横書8～40枚程度（40字×25行、1ページあたり1,000文字）、A4縦版縦書4～20枚程度（二段組、一段35字×30行、1ページあたり2,100文字）のいずれかの書式形態の研究報告書（註・参考資料・図版・補遺などは字数に含まない）。

※テキスト科目の課題レポート書式（任意のA4用紙を使用する場合）とは異なりますので、注意してください。

※改行、改ページなどレイアウトの関係で上記枚数を超えてもかまいません。

※提出された報告書2部は主・副担当の先生に1部ずつお渡しします。同じ内容の報告書を2部用意し、主担当用・副担当用の表紙をそれぞれ添付して提出してください。

【当該報告資料】

資料、作品写真、図面、他のメディア（DVD）等。

【要約】

2,000文字程度の概要

【提出締切日】

・10月19日（土）【必着】 郵送または窓口で提出

【提出方法】

「中間報告書Ⅱ表紙」をairUよりダウンロードして、上記の提出物に添付の上提出してください。本文は原稿用紙、本学指定のレポート冊子または、任意のA4用紙とする。airUの書式より「中間報告書Ⅱ表紙」をダウンロードして、論文または研究報告書の本文に重ね、上部2箇所をダブルクリップ、ホチキス等でとめる。

※糊付け、紐綴じはしないでください。

※参考資料・図版・作品写真等が本文書式にまとまらない場合は、A4クリアブック（＝透明式ポケットファイル）にまとめ、本文とA4クリアブックまたはDVD等を提出してください。作品本体は送付しないでください。

【講評】

「中間報告書Ⅱ」は11月のゼミで返却します。この時点で研究の進捗状況が思わしくない場合、学位申請が認められない場合があります。

【提出先】

〒606-8271

京都市左京区北白川瓜生山2-116京都造形芸術大学大学院（通信教育） 芸術環境研究領域研究室宛

※封筒表面に「芸術環境研究Ⅰ 中間報告書Ⅱ 在中」と記載すること。

※個別の到着確認は受け付けませんので、到着の確認できる方法で提出するようにしてください。

■最終成果物（「学位申請論文」または「学位申請研究活動報告書」）

「芸術環境研究Ⅰ」の最終成果物は、修士の学位を申請するための「学位申請論文」または「学位申請研究活動実施報告書」（以下、「学位申請論文等」とまとめて表記）となり、以下のいずれかの形式で「修士論文等審査願」と合わせて提出します。

最終成果物の形式・形態については、以下の他、必ず『大学院ハンドブック2017』pp.13～19に記載の条件を確認してください。

【提出期間】

2020年1月7日（火）～1月9日（木）【必着】

【提出方法】

上記いずれかの形式により定められた提出物を一括して郵送もしくは窓口提出（『大学院ハンドブック』p.13参照）。

【提出形態】

『大学院ハンドブック』pp.14～23記載の条件に合わせ、紙ファイル（フラットファイル2穴）にとじたものを3部提出すること。この時点での紙ファイルは、自身で用意すること。

授業計画

授業は、芸術環境研究領域用ページ「airU」を利用しながら、対面授業（ゼミ）を中心に進められます。

【比較芸術学ゼミ】

京都 4月6日（土） / 東京 4月13日（土）

Ⅲ講時～Ⅴ講時 ガイダンス、各ゼミで各自の研究報告

京都 5月4日（土祝） / 東京 5月11日（土）

Ⅲ講時～Ⅴ講時 研究報告および討論

京都 6月8日（土） / 東京 6月15日（土）

Ⅲ講時～Ⅴ講時 中間報告書Ⅰの講評、研究報告および討論

京都 10月5日（土） / 東京 10月13日（日）

Ⅲ講時～Ⅴ講時 研究報告および討論

京都 11月16日（土） / 東京 11月9日（土）

Ⅲ講時～Ⅴ講時 中間報告書Ⅱの講評、修了制作展準備についての説明、研究報告および討論

【文化遺産・伝統芸術ゼミ】

京都 4月6日（土） / 東京 4月13日（土）

Ⅲ講時～Ⅴ講時 ガイダンス、各ゼミで各自の研究報告

京都 5月4日（土祝） / 東京 5月11日（土）

Ⅲ講時～Ⅴ講時 研究報告および討論

京都 6月8日（土） / 東京 6月15日（土）

Ⅲ講時～Ⅴ講時 中間報告書Ⅰの講評、研究報告および討論

京都 10月5日（土） / 東京 10月13日（日）

Ⅲ講時～Ⅴ講時 研究報告および討論

京都 11月16日（土） / 東京 11月9日（土）

Ⅲ講時～Ⅴ講時 中間報告書Ⅱの講評、修了制作展準備についての説明、研究報告および討論

【芸術教育ゼミ】

京都 4月6日（土） / 東京 4月13日（土）

Ⅲ講時～Ⅴ講時 ガイダンス、各ゼミで各自の研究報告

京都 5月4日（土祝） / 東京 5月12日（日）

Ⅲ講時～Ⅴ講時 研究報告および討論

京都 6月8日（土） / 東京 6月16日（土）

Ⅲ講時～Ⅴ講時 中間報告書Ⅰの講評、研究報告および討論

京都 10月5日（土） / 東京 10月13日（日）

Ⅲ講時～Ⅴ講時 研究報告および討論

京都 11月16日（土） / 東京 11月10日（日）

Ⅲ講時～Ⅴ講時 中間報告書Ⅱの講評、修了制作展準備についての説明、研究報告および討論

【芸術環境計画ゼミ】

京都 4月6日（土） / 東京 4月13日（土）

Ⅲ講時～Ⅴ講時 ガイダンス、各ゼミで各自の研究報告

京都 5月4日（土祝） / 東京 5月12日（土）

Ⅲ講時～Ⅴ講時 研究報告および討論

京都 6月8日（土） / 東京 6月16日（日）

Ⅲ講時～Ⅴ講時 中間報告書Ⅰの講評、研究報告および討論

京都 10月5日（土） / 東京 10月12日（土）

Ⅲ講時～Ⅴ講時 研究報告および討論

京都 11月16日（土） / 東京 11月10日（日）

Ⅲ講時～Ⅴ講時 中間報告書Ⅱの講評、修了制作展準備についての説明、研究報告および討論

※ 対面授業は「芸術環境演習Ⅰ・Ⅲ」と合同で行います。

※ 受講者数、発表者数に応じて終了時間に変更となる場合があります。各ゼミの担当教員の指導に従ってください。

■対面授業（ゼミ）

対面授業（ゼミ）では、各自の研究発表に対する質疑応答や講評、また、学生相互の発表等を参考にしながら進めます。各ゼミの開講地にておいて指定された全ての日程（5日程）に出席してください。

ゼミでは各自30分程度でそれぞれの修了研究のテーマを発表し、15分程度のディスカッションを行います。

■担当教員

比較芸術学ゼミ（京都）

池野、加藤、大辻

文化遺産・伝統芸術ゼミ（京都）

五島、井上、重田、小林、栗本、金子

芸術環境計画ゼミ（京都）

伊達

芸術教育ゼミ（京都）

上村

比較芸術学ゼミ（東京）

池野、武井、吉良

文化遺産・伝統芸術ゼミ（東京）

三上、皿井、森田、野村、石神

芸術教育ゼミ（東京）

松井、上村

芸術環境計画ゼミ（東京）

春日部、川合

芸術環境計画（創作文芸）ゼミ（東京）

田中、伊藤

■WEB（「airU」）

airUを用いて研究報告を行います。後述の「その他」にも注意事項がありますので、確認をしてください。

・発表のレジュメの掲出各回のゼミ発表者は、ゼミの3日前13：00までにairU上に課題に対する発表概要、その他参考資料を掲出してください。期限までに提出できなかった場合は、人数分をコピーしてゼミ当日に持参してください。ゼミの参加者はゼミの授業前に資料を閲覧し、各自ダウンロードして印刷のうえ授業時に持参してください。

■研究過程の記録（「研究記録」への記入）

定期的にairU上の「研究記録」に研究過程の記録をつけてください。平常点評価の対象となります。分量は少なくとも結構ですが、基本的に毎週1回、最低でも年間で32週は、どこでどのような文献を調査したか、どのような作品制作をおこなっているか、またどのような課題に取り組んでいるか（テキスト科目の準備状況やゼミ発表の下書きなど）といった記録の書き込みを行ってください。書き込みの不足は減点の対象となります。「研究記録」は定期的に教員が閲覧します。また、教員、他の学生からのコメントが付けられることがあります。

■報告書の提出

研究の進捗状況をまとめた「中間報告書」を年に2回（5月、10月）提出します。それらの報告書に対し、教員の講評指導が加えられます。報告書の提出についての詳細は「課題」を確認してください。

受講にあたって

●持参物

- ・筆記用具
- ・レジュメ

airUより当日発表者のレジュメ（参考資料がある場合は資料も含む）をダウンロードして、印刷のうえ持参してください。

- ・発表者は適宜、発表用の資料（図版、資料、文献、制作物、パワーポイントデータ等）を持参してください。

●その他

■集合教室案内

当日の集合教室については、開講日の1週間前をめどにairU上に掲示しますので、必ず確認してください。

■ゼミ発表時の使用機材について

【大学が用意する機材】

パソコン（投影機を含む）、OHC（実物投影機）、スクリーン、マイク、ポインタ、手元ランプ

【ゼミ発表時のパソコン使用にあたっての注意事項】

- ・大学で用意するパソコンはWindows 7です（自身のノートパソコンの持ち込みは出来ません）。
- ・持参するデータ形式は「PowerPoint」（PPT）、「画像ファイル」（PNG、JPEG、GIF）、「PDF文書」（PDF）とし、USBフラッシュメモリまたはCD-Rにデータ保存したものを持参してください。また、データが読み込めないなどのトラブルも考えられますので、プリントアウトしたものも併せて持参してください。

■「airU」利用にあたっての注意事項

芸術環境研究領域では学習用WEBサイト「airU」を利用して授業を行います。

- ・「airU利用登録通知」が必要です。「airU利用登録通知」の通知を入学時に全学生に送付しています。お手元がない場合は『学習ガイド』を参照して、再発行の手続きを行ってください。
- ・締切は厳守です。テキスト科目の提出や各種申込と同じく、airUを利用する場合も締切や提出期間が設けられています。所定の期間外での提出や投稿はいかなる理由でも受け付けられませんのでご注意ください（但し、理由が大学に起因する場合を除く）。また、トラブルの報告も締切後は受け付けませんので、問題がある場合は必ず締切前にお知らせください。

※「学位申請手続き関連事項」および「修了制作展 展示パネル概要について」はairU上で確認してください。

注意事項

「研究記録」は履修している科目の受講者の研究記録のみ閲覧可能です。

S	美術・工芸研究（日本画） 科目コード： 30023
配当年次	2年次～
単位数	8
履修の前提条件	なし
開講日程・ 開講地・定員	美術・工芸研究(日本画) 開催日程：2019年4月19日（金）～ 2019年4月21日（日）, 2019年7月19日（金）～ 2019年7月21日（日）, 2019年9月20日（金）～ 2019年9月22日（日）, 2019年12月20日（金）～ 2019年12月22日（日） 開催地：京都、受講料： ￥0、定員：なし
担当者	松生歩*、山田真澄、山田伸、吉川弘、八田哲、塚下秀樹 他

科目概要と到達目標

今まで積み重ねてきたものを基に、作品の幅と深さをさらに追及する。自己の内面に深く入り込みながら、より自由で力強い表現を求め、それを具現化する為の研究を進める。作品密度を上げる為のディスカッションを繰り返し、材料・技術的な面を含めより明快な自己表現を目指す。
最終的に自己の力を結集した150号の修了制作と制作研究ノートを上げること为目标とする。

評価基準と成績評価方法

- ・意欲的に授業に取り組むことができたか
 - ・目標を定めそれに向かう努力ができたか
 - ・制作の為に素材や表現の工夫ができたか
 - ・自己完結ではなく他者に伝えうる作品にする為の努力ができたか
- 上記の総合評価とする。

予習・復習

毎回スクーリングに参加する前に、修了制作を進めておく。制作研究ノートと実制作は、それぞれに進めながらフィードバックを繰り返すというプロセスが望ましいので、両方を教員と相談できるよう、毎回しっかりと計画をたてて臨む。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	なし

課題

【最終成果物】

学位申請論文等（美術・工芸領域では「修士制作作品および制作研究ノート」）を本科目の最終成果物とします。提出物の概要は以下のとおりですが、必ず『大学院ハンドブック2019』pp.15～16、p.22で文字数や書式、形態、部数、提出期間、提出先、提出方法などの詳細を確認し、規定どおりに、また遺漏のないよう、期間厳守で提出してください。

1. 制作研究ノート：本文文字数4,000字以上16,000字以内（書式等の指定あり）
2. 制作物：「修士論文等審査願」提出時には作品写真（形態等の指定あり）を、また、学位審査に関わ

る作品審査にあわせて作品本体を提出してください。作品審査についての詳細はスクーリング時にお知らせします。

授業計画

4/19（金）～4/21（日）京都

担当：松生歩、山田真澄、吉川弘、八田哲

下絵、制作、制作研究ノートの方角性についての相談

※このスクーリングまでに修士制作作品の草稿を仕上げ、持参すること。

7/19（金）～7/21（日）京都

担当：松生歩、山田真澄、山田伸、竹内浩一、八田哲

制作、制作研究ノート指導

7/20（土）は竹内浩一氏の特別講義（予定）

9/20（金）～9/22（日）京都

担当：松生歩、山田真澄、八田哲、塚下秀樹

制作、制作研究ノート指導、運筆実習

12/20（金）～12/22（日）京都

担当：松生歩、山田真澄、吉川弘、山田伸、八田哲

制作、合評、制作研究ノート指導

※「修士制作作品・制作研究ノート指導の流れ」を必ず確認してください。

受講にあたって

●持参物

以下のものをスクーリング時に持参してください。道具を含め、各自の制作に必要なものは、各自で準備してください。

※作品、制作に必要なものは大学が指定する日時着の場合に限り、事前に大学へ送ることを認めます。指定日時は「受講許可証・集合教室案内」でお知らせします。

4/19（金）～4/21（日）

修士制作作品の草稿、写生（このスクーリングまでに仕上げ持参）、各自の制作に必要な用具一式、制作研究ノートに関する資料等、ポートフォリオ

7/19（金）～7/21（日）

作品、各自の制作に必要な用具一式、ポートフォリオ、梱包材料

9/20（金）～9/22（日）

作品、各自の制作に必要な用具一式、ポートフォリオ、梱包材料
運筆に必要な用具一式（7月のスクーリング中に説明あり）

12/20（金）～12/22（日）

作品、各自の制作に必要な用具一式、ポートフォリオ、梱包材料

●その他

大型作品および制作に必要な道具は事前に送付可能です。スクーリング初日の1週間から2日前までに到着するよう大学へ送付してください。

・例えば、4月19日～4月21日のスクーリングの場合、4月12日～4月17日【必着】と指定してください。

・送料は元払い、送り状に分野および科目名を必ず明記したうえ、「通信日本画研究室」宛で送付してください。

S	美術・工芸研究（洋画） 科目コード： 30024
配当年次	2年次～
単位数	8
履修の前提条件	修了研究・修了制作着手が許可されていること
開講日程・ 開講地・定員	美術・工芸研究(洋画) 開催日程：2019年4月25日（木）～ 2019年4月28日（日），2019年8月6日（火）～ 2019年8月8日（木），2019年10月25日（金）～ 2019年10月27日（日），2019年12月8日（日）～ 2019年12月9日（月） 開催地：京都、受講料： ￥0、定員： なし
担当者	川村悦子*、奥田輝芳、山河全、押江千衣子、鶴田憲次、水口裕務

科目概要と到達目標

「美術・工芸演習（洋画）」で学んできたものをより確かなものへと拓げていく。
修了後を見据えて、何をどう描いていけばよいか、発想、表現、素材、技法などを学びながら、さらなる自身の内的要素の視覚化、造形化に努める。また、制作を深化させる上で、各自の修了制作に基づく制作研究ノートを作成し、創り描くことの根拠となるものを言語化することによって、制作と思考の両面から自作を捉え自己の表現を確立できるようになる。

評価基準と成績評価方法

- ・演習でのテーマを定め、表現を拓けようとするエネルギーが汲み取れるか
- ・構想、表現、素材を論理的に文章化する能力と、表現の客観性についての認識があるか
- ・制作発表の計画と社会や生活、地域文化との関わりについてどのように捉えているか
- ・積極的に表現の展開をはかりながら、精神的にいかに豊かに生きるかを実践されているか

本科目では、作品の講評や合評を通じて上記の項目について評価する。

予習・復習

初回スクーリングでは修了制作を目標としたエスキースを用意する。今までの絵画制作を経たなかで修了作と決定していけるよう計画を立てプレゼンできるように準備する。さらに、素材との息の長い対話のなかで育まれる自己の表現とは何かを思考し、「制作メモ」を作成する。また、それに基づいて制作研究ノートの準備を進める。「何を描くか」「どのように描くか」「何故描くか」という自己と制作の位置を確かめ、参考図書、画集、画家列伝など各自の資料となるものを準備する。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	なし

課題

【最終成果物】
学位申請論文等（美術・工芸領域では「修士制作作品および制作研究ノート」）を本科目の最終成果物とします。提出物の概要は以下のとおりですが、必ず『大学院ハンドブック2019』pp.15～16、p.22で文字数や書式、形態、部数、提出期間、提出先、提出方法などの詳細を確認し、規定どおりに、また遺

漏のないよう、期間厳守で提出してください。

1. 制作研究ノート：本文文字数4,000字以上16,000字以内（書式等の指定あり）
2. 制作物：「修士論文等審査願」提出時には作品写真（体裁等の指定あり）を、また、学位審査に関わる作品審査にあわせて作品本体を提出してください。作品審査についての詳細はスクーリング時にお知らせします。

授業計画

4/25（木）

1年次の総括をふまえ修了制作作品計画と制作研究ノートについてのプレゼンテーション

4/26（金）

修了制作と制作研究ノートの方向性についての面談、制作

4/27（土）

修了制作、エスキースを進める

4/28（日）

中間講評（各自の場所で）、制作研究ノート草稿①のための説明

8/6（火）

修了制作作品中間講評、制作および制作研究ノート草稿①の指導面談

8/7（水）

作品制作、制作研究ノート草稿①指導面談

8/8（月）

作品講評、制作研究ノートの個別指導

10/25（金）

作品制作、中間講評、制作研究ノート草稿②指導面談

制作研究ノート「題目届」確認

10/26（土）

作品制作、1年次展覧会見学、制作研究ノート草稿②指導面談

10/27（日）

1～2講時

制作研究ノート中間発表会

3～5講時

制作と制作研究ノートの個別指導

12/8（日）

修士制作作品の模擬設置と講評、制作研究ノート草稿③の指導と点検

12/9（月）

修士制作作品最終点検、制作研究ノート最終点検

※「修士制作作品・制作研究ノート指導の流れ」を必ず確認してください。

受講にあたって

●持参物

以下のものをスクーリング時に持参してください。

4/25（木）～4/28（日）

1年間の制作・研究・発表スケジュール、修士制作作品および制作研究ノートのレジюме・資料等、各自の制作（エスキース含む）に必要なもの

8/6（火）～8/8（木）

作品、各自の制作に必要なもの、作品搬送用梱包材料

10/25（金）～10/27（日）

作品、各自の制作に必要なもの、ポートフォリオ、作品搬送用梱包材料

12/8（日）～12/9（月）

作品、各自の制作に必要なもの、ポートフォリオ、作品搬送用梱包材料

●諸経費

授業時間内に美術館や博物館を見学する場合があります。その際の入館料と現地までの交通費は、各自でご負担ください。

●その他

大型作品および制作に必要な道具は事前に送付可能です。スクーリング初日の1週間から2日前までに到着するよう大学へ送付してください。

・例えば、4月25日～4月28日のスクーリングの場合、4月18日～4月23日【必着】と指定してください。

・送料は元払い、送り状に分野および科目名を必ず明記したうえ、「通信洋画研究室」宛で送付してください。

S	美術・工芸研究（陶芸） 科目コード： 30025
配当年次	2年次～
単位数	8
履修の前提条件	修了研究・修了制作着手が許可されていること
開講日程・ 開講地・定員	美術・工芸研究(陶芸) 開催日程：2019年5月18日（土）～ 2019年5月19日（日）, 2019年6月22日（土）～ 2019年6月23日（日）, 2019年7月27日（土）～ 2019年7月28日（日）, 2019年9月21日（土）～ 2019年9月22日（日）, 2019年10月26日（土）～ 2019年10月27日（日）, 2019年11月16日（土）～ 2019年11月17日（日） 開催地：京都、受講料： ￥0、定員：なし
担当者	清水六兵衛*、横山直範、他

科目概要と到達目標

「美術・工芸演習（陶芸）」では、自身の陶芸におけるスタンスを再確認することで、用途性の有無を超えた自己の表現を確立することをめざし、造形またはデザインの可能性を探った。
本科目ではそれをさらに発展させ、陶芸の世界において独自の表現を展開する基盤を確立することをめざす。スクーリングでは、修了制作展に向けて各自の作品・コンセプトを明確にし、教員とのディスカッションのもと制作する。同時に制作研究ノートの作成を通じて、自身のテーマやコンセプトといった自らの創造の原点の再確認を行う。

評価基準と成績評価方法

- ・発想力
- ・表現力
- ・理解度
- ・制作姿勢

作品について自己のスタンスが確立されているか。
制作研究ノートにおいて自己の制作概念が適切に論述されているか。

予習・復習

スクーリングの前には修了制作に向けての作品のエスキースやマケット、釉薬、素地のテストなどを考えておき、スクーリングでの制作、試作が有効に進むことを考える。また、制作研究ノートに関わる資料の収集も行なっておく。特別講師のレクチャーがある場合は講師やレクチャー内容に関する予備知識を持っておくこと。スクーリング後は明らかになった問題点を確認し、次回の授業に有効に関われることをめざす。

テキストと参考文献・URL

テキスト	無
参考文献・URL	無

課題

■最終成果物

学位申請論文等（美術・工芸領域では「修士制作作品および制作研究ノート」）を本科目の最終成果物とします。提出物の概要は以下のとおりですが、必ず『大学院ハンドブック2019』で文字数や書式、形態、部数、提出期間、提出先、提出方法などの詳細を確認し、規定どおりに、また遺漏のないよう、期間厳守で提出してください。

①制作研究ノート：本文文字数4,000字以上16,000字以内（書式等の指定あり）

②制作物：「2019年度 修士論文等審査願」提出時には作品写真（形態等の指定あり）を、また、学位審査に関わる作品審査にあわせて作品本体を提出してください。作品審査についての詳細は後日授業中にお知らせします。

授業計画

【5月18日（土）～5月19日（日）】

・1日目 担当：清水六兵衛

1～5講時 年間計画概要説明、制作研究ノートのテーマ、方向性の相談、修士制作作品の相談（スケッチ、マケットや、昨年度からの各自の制作活動がわかる資料を持参すること）制作

・2日目 担当：清水六兵衛、横山直範

1～2講時 制作

3～5講時 レクチャー（釉薬）

【6月22日（土）～6月23日（日）】

・1日目 担当：清水六兵衛

1～5講時 制作研究ノート指導、修士制作作品の相談（写真、スケッチ等を持参すること）、制作

・2日目 担当：清水六兵衛

1～5講時 制作

【7月27日（土）～7月28日（日）】

・1日目 担当：清水六兵衛

1～5講時 制作研究ノート指導、修士制作作品の相談（写真、スケッチ等を持参すること）制作

・2日目 担当：清水六兵衛、横山直範

1～2講時 制作

3～5講時 レクチャー、釉薬実習

【9月21日（土）～9月22日（日）】

・1日目 担当：清水六兵衛、横山直範

1～2講時 制作研究ノート指導、修士制作作品の相談（写真、スケッチ等を持参すること）、制作
3～5講時 レクチャー、釉薬実習

・2日目 担当：清水六兵衛

1～5講時 制作

【10月26日（土）～10月27日（日）】

・1日目 担当：清水六兵衛、横山直範

1～2講時 制作研究ノート指導、制作

3～5講時 レクチャー、釉薬実習

- ・2日目 担当：清水六兵衛
- 1～5講時 制作

【11月16日（土）～11月17日（日）】

- ・1日目 担当：清水六兵衛
- 1～5講時 制作研究ノート指導、制作

- ・2日目 担当：清水六兵衛
- 1～5講時 制作

※制作研究ノートについては「修士制作作品・制作研究ノートの指導の流れ」を必ず確認してください。

※作品制作や修士制作作品の焼成については、本科目掲載の【申込書一覧】に詳細を記載していますので確認してください。

受講にあたって

●持参物

以下のものをスクーリング時に持参してください。

【5月18日（土）～5月19日（日）】

各自の修士制作作品および制作研究ノートテーマに関する資料、修士制作作品のスケッチ・マケットなど、各自の制作に必要なもの

【6月22日（土）～6月23日（日）】

【7月27日（土）～7月28日（日）】

【9月21日（土）～9月22日（日）】

【10月26日（土）～10月27日（日）】

【11月16日（土）～11月17日（日）】

各自の制作研究ノートについての資料等、修士制作作品の状況がわかる写真など、スケッチブック、各自の制作に必要なもの

■制作に必要な道具は事前に送付可能です。スクーリング初日の2日前【必着】でお送りください。

●教材

■材料・道具について

各自の制作に必要な材料や道具は、各自で準備してください。

■陶土・石膏について

陶土・石膏は各自で準備してください。本学へ直接送付を希望する場合は、下鴨陶芸のみとなります。以下で締切日等を確認の上、【申込書一覧】の「スクーリング陶土申込書（本学送付用）」を使用し、下鴨陶芸宛てに郵送あるいはファックスにて注文してください。

なお、申し込みはスクーリングごとに行ってください。

■申込先

下鴨陶芸 TEL/FAX：075-781-5514

■申込用紙

「スクーリング陶土申込書（本学送付用）」

■料金支払

郵便振替（各自で下鴨陶芸へ支払う）

■受取

下鴨陶芸から本学へ直接送付

■申込締切日【必着】

申込みNo.院①：スクーリング日程5/18（土）～5/19（日）（申込締切日）5/3（金・祝）

申込みNo.院②：スクーリング日程6/22（土）～6/23（日）（申込締切日）6/7（金）

申込みNo.院③：スクーリング日程7/27（土）～7/28（日）（申込締切日）7/12（金）

申込みNo.院④：スクーリング日程9/21（土）～9/22（日）（申込締切日）9/6（金）

申込みNo.院⑤：スクーリング日程10/26（土）～10/27（日）（申込締切日）10/11（金）

申込みNo.院⑥：スクーリング日程11/16（土）～11/17（日）（申込締切日）11/1（金）

【その他の業者に注文し、自宅から本学へ事前送付を希望する場合】

各自で準備した陶土を大学まで持ち運ぶのが困難な場合は、本学への事前送付を許可します。

各スクーリングの前日午前着指定で通信陶芸添削室宛に送付してください。

それ以外の日程では受け取りできません。その際、以下の点にご注意ください。

※注意事項

- ・受講されるスクーリングで使用する分のみ送ること（複数回分など大量に送ることはできません）。
- ・元払いで発送してください。着払いの手続きが要る場合は受け取りできません。
- ・送付されたものは開梱しません。スクーリング当日にご自身で開梱してください。
- ・必ず箱の外側に学籍番号・氏名・スクーリング科目名を明記してください。

●諸経費

■焼成費について

大学で修士制作作品の焼成を行う場合は、別途焼成費が必要となります。後日指定口座より引き落としいたします。

●その他

■修士制作作品の提出について

陶芸分野では、修士制作作品の提出期間を設けています。ここでの提出物を以って、修士制作作品（学位審査用）としての提出の可否を判断しますので、2019年度末の修了を目指す方は、必ずこの期間内に修士制作作品を提出してください。なお、この期間に作品を提出されなかった場合、「2019年度修士論文等審査願」を提出することはできません。

【提出期間】

11/23（土・祝）～11/25（月）【必着】

※この提出期間のみ、特別に日曜日の受け付けをします。

【提出先】

①送付提出

送付先：通信陶芸添削室

住 所：〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116 京都造形芸術大学 通信陶芸添削室宛

電 話：075-791-9141（大学院（通信教育）代表）

FAX：075-791-9021

②窓口提出

提出先：通信陶芸添削室（NB棟地下2階）

受付時間：土・日曜日は10：00～15：00、月曜日は10：00～16：00

※注意事項※

- ・修士制作作品提出に先立ち、必ず11/6（水）～11/10（日）【必着】で、airUシラバスまたは、

『大学院シラバス2019』に収録の「修士制作作品提出アンケート」を提出してください。

- ・送付の際は送り状の備考欄に、必ず「大学院（通信教育）美術・工芸研究（陶芸）、修士制作作品」と明記してください。
- ・提出用段ボール箱の外側に、必ず学籍番号と氏名を明記してください。
- ・組み作品や設置の仕方に指定のある作品を提出する場合は、展示方法がわかるように、必ず写真またはスケッチを同封してください。
- ・提出期間外の受付はできません。必着するように運送会社の日時指定サービス等を利用してください。また、地域によっては、発送翌日に到着しない場合もありますので、余裕を持って発送してください。
- ・運送中に作品が破損した場合、大学側では一切責任は負えませんのでご了承ください。必要な方は、各自で運送保険をかけてください。
- ・運送による作品提出は、元払いで提出してください（返却は着払いとなります）。
- ・通信教育部の窓口（人間館 中2階）では一切受け付けできません。

■修士制作作品の焼成について

修士制作作品については本学にて焼成できるよう、日程を設けています。焼成を希望する場合は、申し込み期間にairUシラバスまたは、『大学院シラバス2019』「修士制作作品 焼成申込書」を提出してください。

【焼成日程、焼成申込み、作品送付期間】

窯No, 院①

焼成方法：酸化・還元

焼成日程：〈窯詰め～窯出し〉11/16（土）～11/19（火）

焼成申込期間〈必着〉：10/21（月）～10/25（金）

作品送付期間〈必着〉：11/9（土）～11/11（月）※日・祝日は窓口受付休止日

- ・各焼成とも焼成希望者全員での合い窯のため、焼成温度を酸化（1230℃）・還元焼成（1240℃）に統一します。
- ・施釉、窯詰め、窯出しは必ずご自身で行ってください。研究室では行いません。
- ・作品の焼成方法などについては、事前に担当教員と相談してください。
- ・焼成後の作品を修士制作作品として提出する場合は本学で保管しますが、それ以外の場合は焼成後、速やかに自宅へ発送してください。

【作品焼成申込方法】

申込先・申込方法：大学院（通信教育）美術・工芸領域研究室 宛てに、郵送もしくはファックス

申込み用紙：airUシラバスまたは、『大学院シラバス2019』「修士制作作品 焼成申込書」

※ コンプレッサー使用希望者は、通学部との使用時間調整のため必ず申込用紙にその旨記入してください。

申込変更・取消：申し込み内容の変更やキャンセルについては、ただちに「学習に関する質問票」あるいはメールにて、大学院（通信教育）美術・工芸領域研究室まで必ず連絡してください。

【焼成作品送付方法】

送付先：通信陶芸添削室 宛て

注意事項：自宅での制作作品

- ・生で提出の場合は、完全乾燥状態で提出してください。
- ・提出期間最終日の翌日に素焼きを行います。
- ・素焼きで提出の場合は、施釉日に持参することも可能です。

【作品焼成費】

焼成作品1点ごとに以下の焼成費が必要です。焼成費は、後日指定口座より引き落としいたします。計測は研究室で行います。大きさが換算できない場合、焼成作品全てを合計した大きさが金額を決定します。

作品の大きさ（縦＋横＋高さの合計）：75cm未満（作品1点あたりの費用）1,000円
作品の大きさ（縦＋横＋高さの合計）：75cm～100cm未満（作品1点あたりの費用）1,500円
作品の大きさ（縦＋横＋高さの合計）：100cm～125cm未満（作品1点あたりの費用）2,500円
作品の大きさ（縦＋横＋高さの合計）：125cm～150cm未満（作品1点あたりの費用）3,000円
作品の大きさ（縦＋横＋高さの合計）：150cm～200cm未満（作品1点あたりの費用）5,000円
作品の大きさ（縦＋横＋高さの合計）：200cm～250cm未満（作品1点あたりの費用）7,000円

〈窯について〉

電気窯：20kw/h

・有効体積 45（D）×80（W）×80（H）cm、棚板のサイズ 45（D）×40（W）cmが横に2枚

S	美術・工芸研究（染織） 科目コード： 30026
配当年次	2年次～
単位数	8
履修の前提条件	修了研究・修了制作着手が許可されていること
開講日程・ 開講地・定員	美術・工芸研究(染織) 開催日程：2019年4月13日（土）～ 2019年4月14日（日），2019年5月4日（土）～ 2019年5月5日（日），2019年6月8日（土）～ 2019年6月9日（日），2019年8月17日（土）～ 2019年8月18日（日），2019年10月26日（土）～ 2019年10月27日（日），2019年12月14日（土）～ 2019年12月15日（日） 開催地：京都、受講料： ￥0、定員：なし
担当者	久田多恵*、柴田博美、佐伯昭彦、木内小織、舘正明、石塚広

科目概要と到達目標

この授業の目標は、「美術・工芸演習（染織）」の成果を土台にして自分のテーマを確立し、作品制作と制作研究ノートによる論述を通して研究することである。成果をまとめ、発表することも重要視する。年間2作品を制作することとし、前半はテーマ「身に着けるもの」に沿って作品制作を行う。後半ではより高い完成度と各自の主題の充実をめざす。作品制作の方法論・テーマの掘り下げ方を確立することを到達目標とする。

評価基準と成績評価方法

- ・ 独創性のある自分のテーマを設定し、作品へと展開させることができたか
- ・ 色、かたち、素材、技法を吟味し、完成度を高めることができたか
- ・ 制作研究ノートにおいて、自分の作品について論理的に記述することができたか

授業出席と制作作品・研究ノートによる総合評価

予習・復習

スクーリングに参加する前に授業内容を確認し、それに沿った準備を十分に行ってください。研究ノートは実作に関連した内容を書き進めます。M1での調査研究を整理し、内容を検証しておきましょう。修了制作に向け今までの作品をしっかりと見直してください。修了作品も手許に置き講評の意味を反芻します。着物や帯などは、仕立てた後着心地を確かめてみましょう。

テキストと参考文献・URL

テキスト	無
参考文献・URL	無

課題

■自宅制作課題

自分の作品の制作動機、コンセプト、表現技法、作品形態、素材などについて論述した制作研究ノート。
文字数および書式形態は以下のとおり。

本文文字数は400字詰原稿用紙10枚分（4,000字）以上40枚分（16,000字）以内。縦書き、横書きいずれも可。ワープロの場合はA4縦判を以下の通りレイアウトする。本文文字数に目次、注釈、図版、挿図、表は含まない。

（縦書き） 二段組、一段35字×一段30行（1ページあたり2,100文字）

（横書き） 段組なし、40字×25行（1ページあたり1,000文字）

■提出について

10/26（土）～10/27（日）のスクーリング時に、ほぼ完成させた状態で提出

12/14（土）～12/15（日）のスクーリング時に、完成させたものを提出

■最終成果物

学位申請論文等（美術・工芸領域では「修士制作作品および制作研究ノート」）を本科目の最終成果物とします。提出物の概要は以下のとおりですが、必ず『大学院ハンドブック』で文字数や書式、形態、部数、提出期間、提出先、提出方法などの詳細を確認し、規定どおりに、また遺漏のないよう、期間厳守で提出してください。

①制作研究ノート—本文文字数4,000字以上16,000字以内（書式等の指定あり）

②制作物—「2019年度 修士論文等審査願」提出時には作品写真（形態等の指定あり）を、また、学位審査に関わる作品審査にあわせて作品本体を提出してください。作品審査についての詳細は後日お知らせします。

授業計画

【4月13日（土）～4月14日（日）】

・1日目

1～2講時 年間研究計画の発表と個別面談（久田）

3～5講時 ワークショップ：天然染料の色をさぐる（石塚）

・2日目

1～5講時 ワークショップ：天然染料の色をさぐる（石塚）

【5月4日（土・祝）～5月5日（日・祝）】

・1日目

1～5講時 ワークショップ：天然染料の色をさぐる（石塚）

・2日目

1～5講時 レクチャーとワークショップ（未定）

【6月8日（土）～6月9日（日）】

・1日目

1～2講時 作品及びノート指導・進捗状況確認（久田）

3～5講時 技法研究：（佐伯）染（柴田）織

・2日目

1～5講時 技法研究：（佐伯）染（柴田）織

【8月17日（土）～8月18日（日）】

・1日目
1～5講時 技法研究：（佐伯）染（柴田）織

・2日目
1～5講時 1作目 作品講評（久田・柴田）

【10月26日（土）～10月27日（日）】

・1日目
1～5 講時 技法研究：（館）染（木内）織

・2日目
1～2講時 作品及びノート指導・進捗状況確認（久田・館・木内）
3～5講時 技法研究：（館）染（木内）織

【12月14日（土）～12月15日（日）】

・1日目
1～5講時 技法研究：（館）染（木内）織

・2日目
1～5講時 作品・ノート発表（久田・館・木内）

授業内容は「美術・工芸演習」（M1）、「美術・工芸研究」（M2）とも同じ

受講にあたって

●持参物

以下のものをスクーリング時に持参してください。

※技法研究に必要なものは別途連絡します。

【4月13日（土）】

年間計画発表に必要なもの一ポートフォリオ（M1での成果物写真を付加したもの）、作品のアイデアスケッチ、草稿、試作サンプル、素材サンプル、制作を進めるために必要なもの「美術・工芸演習（染織）」において完成させた制作研究ノートと本年度の制作研究ノートのために必要な資料

【4月13日（土）～4月14日（日）】

筆記具・雑巾・スケッチブック（B4サイズ程度、出来上がったサンプルを添付するため）・両面テープ（サンプルを貼るため）・ゴム手袋・軍手・エプロン（汚れてもよい服装で）

※染料と被染物の量は追って連絡します。

【5月4日（土・祝）～5月5日（日・祝）】

作業をすすめるために必要なもの。

※5/5（日・祝）のワークショップに必要なものは別途お知らせします。

【6月8日（土）～6月9日（日）】

制作研究ノート資料

制作中の作品、制作を進めるために必要なもの

※技法研究に必要なものは別途お知らせします。

【8月17日（土）～8月18日（日）】

前半の完成作品、展示に必要な用品
制作研究ノート・題目案・修士制作作品名案（書式任意）

【10月26日（土）～10月27日（日）】

制作研究ノート資料（ほぼ完成した状態で提出）

後半作品のアイデアスケッチ、草稿、試作、試作サンプル、素材サンプル、制作を進めるために必要なもの

【12月14日（土）～12月15日（日）】

完成作品、展示に必要な用品

制作研究ノート、発表に必要なもの

制作に必要な道具は事前に送付可能です。スクーリング初日の2日前【必着】で送付してください。

●諸経費

・授業時間内に美術館や博物館を見学する場合があります。その際の入館料と現地までの交通費は、各自でご負担ください。

・ワークショップの際、教材費が必要になる場合があります。その場合は後日指定口座より引落いたします。

S	環境デザイン研究（建築デザイン） 科目コード： 30027
配当年次	2年次～
単位数	8
履修の前提条件	修了研究・修了制作着手が許可されていること
開講日程・ 開講地・定員	環境デザイン研究(建築デザイン)/横内スタジオ 開催日程：2019年4月6日（土），2019年5月5日（日），2019年6月2日（日），2019年6月30日（日），2019年7月27日（土）～ 2019年7月28日（日），2019年8月25日（日），2019年9月22日（日），2019年10月20日（日），2019年11月17日（日），2019年12月21日（土）～ 2019年12月22日（日） 開催地：京都・東京、受講料： ￥0、定員： なし 環境デザイン研究(建築デザイン)/堀部スタジオ 開催日程：2019年4月6日（土），2019年5月5日（日），2019年6月2日（日），2019年6月30日（日），2019年7月27日（土）～ 2019年7月28日（日），2019年8月25日（日），2019年9月22日（日），2019年10月20日（日），2019年11月17日（日），2019年12月21日（土）～ 2019年12月22日（日） 開催地：京都・東京、受講料： ￥0、定員： なし 環境デザイン研究(建築デザイン)/伊藤スタジオ 開催日程：2019年4月6日（土），2019年5月5日（日），2019年6月2日（日），2019年6月30日（日），2019年7月27日（土）～ 2019年7月28日（日），2019年8月25日（日），2019年9月22日（日），2019年10月20日（日），2019年11月17日（日），2019年12月21日（土）～ 2019年12月22日（日） 開催地：京都・東京、受講料： ￥0、定員： なし
担当者	（横内スタジオ）横内敏人*、鎌田秀章、豊田保之、（堀部スタジオ）堀部安嗣*、丸山弾、（伊藤スタジオ）伊藤寛*、及川敦子

科目概要と到達目標

この授業では建築設計の実際的なプロセスを学ぶとともに、建築設計の演習課題を通じて設計の考え方、何を手がかりにそれを進めるかについて学ぶ。つまり、クライアントから提示される実際的な要求を真摯に受け止めることからはじめ、基本設計から詳細の納め方、平面計画、構造・設備計画、外構計画に至るまで、現在進行形の設計の実務力を身につけることを目的とする。

評価基準と成績評価方法

- ・条件（施主の要望、敷地など）に対する回答の説得力
- ・設計コンセプトの明快さ
- ・計画の合理性・空間の魅力
- ・成果物の完成度
- ・プレゼンテーション能力

上記項目を各課題の成果物に対する総合評価および最終成果物に対する公開口頭試問によって、総合的に評価する。

予習・復習

授業時の直接対面指導をより効果的なものにするために、不足している知見を事前に十分補い、授業に臨む環境を整えておくこと。授業終了後は、授業時に得たアドバイスを速やかに整理し実践することで次の段階へ結びつける準備を進めること。

テキストと参考文献・URL

テキスト	前期・後期ともに各所属スタジオの図面見本（pdfファイル）を「airUマイページ」にアップロードします。各自ダウンロード・印刷したうえでファイリングして図面集としてください。前期・後期ともに第2回スクーリング時よりダウンロード可能となります。
参考文献・URL	『木のデザイン図鑑（CD-ROM改訂版）建築・インテリア・家具』 エクスナレッジ 『コンフォルト増刊』 2006年11月号素材・建材ハンドブック [スタンダード] 建築資料研究社 『積算資料ポケット版設計・施工者のための住宅と店舗の設計・見積資料（単行本）』 経済調査会 『建築申請memo』 新日本法規

課題

●課題内容

いくつかのライフスタイルによる具体的な条件設定に基づいた建築の設計。家作りのコンセプトの立て方、周辺環境の読み方と対応の仕方、暮らし方の提案、空間構成、配置計画、平面計画、断面計画などの事項について、1/100でのプランニングを徹底して行いながら具体的に検討する中で、建築設計に何が大切かについて議論し考察を深める。その上で1/100のプランニングに必要な「部分」の知識を学ぶこと、つまり単位空間の納め方、開口部の詳細、各部の仕上げ、構造、設備、矩計図の描き方、外構計画など、細部にわたる設計を通じて実施設計の演習を行う。

●論点スケッチについて

設計を進めるにあたっては、設計の考え方や建築に何が大切かについてよく考察し、その成果を設計内容に反映させることが重要である。各回の授業テーマに沿って考察の成果を200字程度で記述し、参照した事例とともにまとめること。これを「論点スケッチ」とする。

●指定文献

『住宅の普遍性を求めて—4人の建築家のアプローチ』横内敏人・堀部安嗣・三澤文子・伊藤寛著 彰国社

授業計画

【前期】

●4月6日（土）

■1-1 オリエンテーションと設計概論（スクーリング授業）

1講時 オリエンテーション・課題説明・講義

2講時 オリエンテーション・課題説明・講義

3講時 実習・個別指導

4講時 実習・個別指導

5講時 実習・個別指導

□1-2 基本設計の検討1 (WEB授業)

【自宅実習／中間提出】 対面授業での個別指導に基づいて自宅実習を進め、成果物を論点スケッチとともにスクーリング終了9日後までに「airUマイページ」に提出し添削指導を受ける。

【自宅課題／次回提出】 添削指導に基づいて自宅実習を進め、次回スクーリング時に提出し講評を受ける。

●5月5日 (日)

■2-1 基本設計の検討2 (スクーリング授業)

1講時 講義・自宅実習のチェック

2講時 講義・自宅実習のチェック

3講時 実習・個別指導

4講時 実習・個別指導

5講時 実習・個別指導

□2-2 基本設計の検討3 (WEB授業)

【自宅実習／中間提出】 対面授業での個別指導に基づいて自宅実習を進め、成果物を論点スケッチとともにスクーリング終了9日後までに「airUマイページ」に提出し添削指導を受ける。

【自宅課題／次回提出】 添削指導に基づいて自宅実習を進め、次回スクーリング時に提出し講評を受ける。

●6月2日 (日)

■3-1 基本設計の決定と構造計画の検討1 (スクーリング授業)

1講時 講義・自宅実習のチェック

2講時 講義・自宅実習のチェック

3講時 実習・個別指導

4講時 実習・個別指導

5講時 実習・個別指導

□3-2 構造計画の検討2 (WEB授業)

【自宅実習／中間提出】 対面授業での個別指導に基づいて自宅実習を進め、成果物を論点スケッチとともにスクーリング終了9日後までに「airUマイページ」に提出し添削指導を受ける。

【自宅課題／次回提出】 添削指導に基づいて自宅実習を進め、次回スクーリング時に提出し講評を受ける。

●6月30日 (土)

■4-1 構造計画の決定と詳細設計の検討1 (スクーリング授業)

1講時 講義・自宅実習のチェック

2講時 講義・自宅実習のチェック

3講時 実習・個別指導

4講時 実習・個別指導

5講時 実習・個別指導

【自宅実習／中間提出】 対面授業での個別指導に基づいて自宅実習を進め、成果物を論点スケッチとともにスクーリング終了9日後までに「airUマイページ」に提出し添削指導を受ける。

【自宅課題／次回提出】 添削指導に基づいて自宅実習を進め、次回スクーリング5日前までに「airUマイページ」に合評用配付図面を事前提出する。次回スクーリング時に発表し講評を受ける。

●7月27日 (土)、28日 (日)

■5、6 最終合評 （スクーリング授業）

[1日目]

1～5講時 合評会

[2日目]

1～5講時 合評会

※両日共に出席が必須

※合評用図面としてスクーリングの5日前までに図面データをairUマイページに提出します。期日はairUマイページで確認してください。

【後期】

●8月25日（日）

■1-1 オリエンテーションと設計概論 （スクーリング授業）

1講時 オリエンテーション・課題説明・講義

2講時 オリエンテーション・課題説明・講義

3講時 実習・個別指導

4講時 実習・個別指導

5講時 実習・個別指導

□1-2 基本設計の検討1（WEB授業）

【自宅実習／中間提出】 対面授業での個別指導に基づいて自宅実習を進め、成果物を論点スケッチとともにスクーリング終了9日後までに「airUマイページ」に提出し添削指導を受ける。

【自宅課題／次回提出】 添削指導に基づいて自宅実習を進め、次回スクーリング時に提出し講評を受ける。

●9月22日（日）

■2-1 基本設計の検討2 （スクーリング授業）

1講時 講義・自宅実習のチェック

2講時 講義・自宅実習のチェック

3講時 実習・個別指導

4講時 実習・個別指導

5講時 実習・個別指導

※「修士論文等題目届」を提出します（『大学院ハンドブック』p.12、『学習ガイド』p.237書式参照）。

□2-2 基本設計の検討3（WEB授業）

【自宅実習／中間提出】 対面授業での個別指導に基づいて自宅実習を進め、成果物を論点スケッチとともにスクーリング終了9日後までに「airUマイページ」に提出し添削指導を受ける。

【自宅課題／次回提出】 添削指導に基づいて自宅実習を進め、次回スクーリング時に提出し講評を受ける。

●10月20日（日）

■3-1 基本設計の決定と構造計画の検討1 （スクーリング授業）

1講時 講義・自宅実習のチェック

2講時 講義・自宅実習のチェック

3講時 実習・個別指導

4講時 実習・個別指導

5講時 実習・個別指導

□3-2 構造計画の検討2 (WEB授業)

【自宅実習／中間提出】 対面授業での個別指導に基づいて自宅実習を進め、成果物を論点スケッチとともにスクーリング終了9日後までに「airUマイページ」に提出し添削指導を受ける。

【自宅課題／次回提出】 添削指導に基づいて自宅実習を進め、次回スクーリング時に発表し講評を受ける。

●11月17日 (日)

■4-1 構造計画の決定と詳細設計の検討1 (スクーリング授業)

1講時 講義・自宅実習のチェック

2講時 講義・自宅実習のチェック

3講時 実習・個別指導

4講時 実習・個別指導

5講時 実習・個別指導

□4-2 設計図書の仕上げ (WEB授業)

【自宅実習／中間提出】 対面授業での個別指導に基づいて自宅実習を進め、成果物を論点スケッチとともにスクーリング終了9日後までに「airUマイページ」に提出し添削指導を受ける。

【自宅課題／次回提出】 添削指導に基づいて自宅実習を進め、次回スクーリング5日前までに「airU」に合評用配付図面を事前提出する。次回スクーリング時に発表し講評を受ける。

●12月21日 (土)、22日 (日)

■5、6 最終合評 (スクーリング授業)

[1日目]

1～5講時 合評会

[2日目]

1～5講時 合評会

※両日共に出席が必須

※最終合評においては、平面図、立面図、断面図、伏図（基礎、床、小屋）、軸組図、設備図、外構図、軸組模型、模型（以上1/50）、矩計図（1/20あるいは1/30）、桝廻り詳細図（1/2あるいは1/5）等を提出する。

※合評用図面としてスクーリングの5日前までに図面データをairUマイページに提出します。期日はairUマイページで確認してください。

受講にあたって

●持参物

1 自宅実習成果物

2 筆記用具

3 図面を描く道具

- ・製図道具（ホルダーHBまたは同等シャープペンシルを含む）
- ・ノートパソコン（必要な場合のみ。CADソフトの種類は不問）

4 コンベックス

5 カメラもしくはデジタルカメラ

6 模型を制作する道具・模型材料（模型を制作する場合のみ各自で持参）

●諸経費

フィールドワークや住宅見学などを行う際の現地までの交通費等は、各自ご負担ください。
見学科等が発生する場合は、後日指定口座より引き落としとなります。

●その他

○課題（スタジオ）の選択

- ・前期課題… 前年度の演習科目後期最終スクーリング（合評）時に提出していただく希望申請書と合評の成績に基づき、教員の審査によって決定します。
- ・後期課題… 前期最終スクーリング（合評）時に提出していただく希望申請書と合評の成績に基づき、教員の審査によって決定します。

○「修士論文等題目届」の提出

後期の2回目スクーリング時に指導教員の承認を得たうえで「修士論文等題目届（『学習ガイド2019』p.231の書式）」を提出します。提出後の題目について照会は受け付けられませんので、提出前にはコピーを手元に残すようにしてください。

○「学位申請論文等」の提出

建築デザイン分野では学位申請論文等として「修了制作作品および制作研究ノート」を提出します。12月の後期合評スクーリング時にも説明しますが、学位審査に関するスケジュール・提出形態・部数・提出方法・提出締切日は『大学院ハンドブック』p.12～13、p.16、pp.20～23に記載していますので、必ず確認し、規定どおりにまた遺漏のないよう期間厳守で提出してください。

○修了制作展

終了制作の総まとめとして3月に瓜生山キャンパスで開催される修了制作展に出品します。修了制作作品展の出展までを修了制作の一環としていますので原則全員出展としています、また、設営および撤収作業も出展者全員での取り組みとします。詳細は12月ごろ対象者にお知らせする予定です。

注意事項

●中間提出について

スクーリング終了後にはairUマイページへの中間提出課題の提出が必須です。提出物については各回のシラバス（WEB授業）の欄を、提出方法や締切日時等についてはairUマイページ＞本科目ページ内の「各提出ページ」を参照してください。

●airUマイページとWEB授業

本科目はスクーリング授業（面接指導）に加え、自宅制作の成果を中間課題として「airUマイページ」にファイルを提出して指導を受ける「WEB授業」を併用し、対面スクーリングを受講→airUマイページに中間課題を提出→教員による添削指導→返却された指導内容を反映し、更に自宅学習を進めて→次回スクーリングへ持参。という流れを繰り返して制作を進めていきます。

中間課題の提出期日についてはairUマイページ＞本科目ページ内の「各提出ページ」を参照してください。

「airUマイページ」では中間課題の提出以外にも、合評スケジュールや教員からの伝達事項の掲載のほか事務局からのお知らせや教員による住宅見学会開催のお知らせなど、学習に必要な情報を掲載しますのでこまめに確認するように心掛けてください。

●学位審査

学位審査においては授業とは別に学位審査に関する提出物や口頭試問が設定されています。

『大学院ハンドブック』pp.12～13、16、20～23の学位審査に関する項目を確認しておいてください。

S	環境デザイン研究（日本庭園） 科目コード： 30029
配当年次	2年次～
単位数	8
履修の前提条件	修了研究・修了制作着手が許可されていること
開講日程・ 開講地・定員	環境デザイン研究(日本庭園) 開催日程：2019年4月6日（土）, 2019年5月11日（土）, 2019年6月1日（土）, 2019年7月6日（土）, 2019年8月10日（土）～ 2019年8月11日（日）, 2019年9月7日（土）, 2019年10月5日（土）, 2019年11月2日（土）, 2019年11月16日（土）, 2019年12月7日（土）～ 2019年12月8日（日） 開催地：京都・その他学外■、受講料： ￥0、定員：なし
担当者	尼崎博正*、加藤友規、吉村龍二、町田香

科目概要と到達目標

学生が自身のテーマを設定し、これに対する学術的・芸術的・デザインの解答を導き出すための演習を行う。現地研修および課題に関する先行研究・事例の資料収集などから自身の研究制作の客体化と位置づけを行い、そこから導き出される目的の明確化、方法論の検討、調査・ケーススタディ、分析評価、結論への到達にいたるまで、学術的視点と実務的視点を通して、研究制作を進める。

このような一連の研究制作プロセスによって、専門家としての十分な素養を涵養するとともに、独自性のある視点と新しい知見を獲得し、質の高い修士論文・修士制作・修士研究活動実施報告書へと結実させる。

評価基準と成績評価方法

- ・真摯に研究に取組み、独自の視点で物事をみているか
- ・研究の展開に必須の資料収集と分析を行っているか
- ・研究成果をまとめる方法と技術を習得しているか
- ・以上を踏えた最終成果物が新知見を有する高レベルの域に達しているか
- ・最終成果物に対する口頭試問による総合評価

上記項目を研修地でのディスカッション・研究成果発表での講評や合評によって総合的に評価する。

予習・復習

授業時の直接対面指導をより効果的なものにするために、不足している知見を事前に十分補い、授業に臨む環境を整えておくこと。授業終了後は、授業時に得たアドバイスを速やかに整理し実践することで次の段階へ結びつける準備を進めること。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	『庭園学講座1～25』 日本庭園・歴史遺産研究センター 『植治の庭—小川治兵衛の世界』 尼崎博正編著 淡交社 『石と水の意匠—植治の造園技法』 尼崎博正著 淡交社 『風景をつくる』 中村一・尼崎博正著 昭和堂

参考文献・URL	『庭石と水の由来・日本庭園の石質と水系』 尼崎博正著 昭和堂 『茶庭のしくみ』 尼崎博正著 淡交社 『市中の山居—尼崎博正作品集』 尼崎博正著 淡交社 『七代目小川治兵衛』 尼崎博正著 ミネルヴァ書房 『庭と建築の煎茶文化』 一近代数寄空間をよみとく— 尼崎博正、麓和善、矢ヶ崎善太郎編著 株式会社思文閣出版
----------	--

課題

伝統的日本庭園の本質とは何か。我々はそこから何を学び、未来へ継承・発信すべきか。この命題に応えるため、名庭と向き合い、作庭家の意図、職人の思いを感じ取り、独自の視点を確立していくことが目標です。実地研修と研究発表の二本柱で、文化財庭園の保存管理・修復現場、石造美術の工房などを訪れ、直接関係者から話を聞きます。その成果を各自の視点から発表しディスカッションを行います。またその学びを踏まえて、研究テーマを絞り込み、資料収集や分析、調査など、修了研究・制作に向けての骨格をつくり、実践的な計画提案や空間デザインを行います。

授業計画

●ガイダンス及び名庭との出会い

4月6日（土）

1、2講時 ガイダンス及び講義

3、4、5講時 新しい時代の造園を切り開いた小川治兵衛（植治）の造園空間を中心に見学し、その作庭理念や作庭法について学習する。

研修地：南禅寺界隈の近代庭園

【自宅研究】名庭から学んだ事柄を各自総括する

●研究の方向性の検討

5月11日（土）

1、2、3、4、5講時 各自が研究の視点と方法を発表し、その方向性等について講評する

【自宅研究】研究の方向性及び方法について各自再検討し、その結果をまとめる

●現地研修：庭園の立地的考察

6月1日（土）

1、2、3、4、5講時 関東の近代庭園を中心に見学し、その立地的・空間的特色を把握する。

研修地：三溪園ほか

【自宅研究】各自の視点で研修成果をまとめるとともに、研究テーマの絞り込みを視野に入れる

●研究成果の発表と講評及びディスカッション

7月6日（土）

1、2、3、4、5講時 成果発表とディスカッションを通じて、各自研究のテーマを仮設定する。また、資料収集など研究の基本的な方法論を講じる。

【自宅研究】研究の視点とテーマを設定するとともに、方法論を検討し、その結果をまとめる

●現地研修と中間成果発表

8月10日（土）

1、2講時 現地研修（宮廷の庭：京都御苑）

3、4、5講時 個別指導

8月11日（日）

1、2、3、4、5講時 成果発表とディスカッション

【自宅研究】自身の研究テーマ設定に向けて、前期の研究総括と仮研究テーマの提示

●現地研修：京都の庭園文化

9月7日（土）

1、2、3、4、5講時 京都の庭園の立地・空間性・意匠の特質を、歴史・技術・保存修復等の視点から検証する。

研修地：金閣寺庭園など

【自宅研究】現地研修で修得した成果をまとめる

●研究テーマの発表及び講評

10月5日（土）

1、2、3、4、5講時 各自設定した研究テーマを発表し、その独自性・方法の妥当性について講評する。

【自宅研究】講評をうけて、研究テーマの全体像を構築する

●現地研修：奈良の庭園文化

11月2日（土）

1、2、3、4、5講時 奈良の庭園の立地・空間性・意匠の特質を、歴史・技術・保存修復等の視点から検証する。

研修地：依水園ほか

【自宅研究】研究テーマの全体像を構築する

●修士論文・修士制作・修士研究活動実施報告書の完成にむけて

11月16日（土）

1、2、3、4、5講時 修士論文・修士制作作品および制作研究ノート・修士研究活動実施報告書の最終指導

【自宅研究】最終合評にむけて修士論文・修士制作・修士研究活動実施報告書を完成させる

●現地研修と研究成果の講評

12月7日（土）

1、2講時 名勝庭園の保存修復（智積院庭園）

3、4、5講時 個別指導

12月8日（日）

1、2、3、4、5講時 研究成果についての最終的な講評を受け、それを成果物に反映させる。

【自宅研究】各自の修士論文・修士制作・修士研究活動実施報告書の完成。

●最終成果物

修士論文あるいは修士制作、修士研究活動実施報告

受講にあたって

●持参物

- 1 自宅研究成果物
- 2 筆記用具
- 3 カメラもしくはデジタルカメラ
- 4 各自必要と思われるもの

●諸経費

フィールドワークや見学先での入場料等と現地までの交通費は各自ご負担ください。
現地研修の際にマイクロバス等を利用した場合は、後日指定口座より引き落としとなります。

●その他

●学位申請論文等について

学位申請論文等として以下のいずれかを提出してください。

修士論文

①論文/本文文字数32,000文字以上40,000文字以内

②要約/2,000文字程度

修士制作作品および制作研究ノート

①制作研究ノート/本文文字数4,000文字以上16,000文字以内

②制作物（A4大のファイル等にまとめること）

修士研究活動実施報告書

①報告書/本文文字数8,000文字以上40,000文字以内

②要約/2,000文字程度

③報告資料

※提出形態・部数・提出方法・提出締切日は『大学院ハンドブック2017』pp.12～19を必ず確認してください。

●airUとレジメ提出について

・本科目はスクーリング（面接指導）に加え、airU（WEB指導）を利用した課題提出を行います。スクーリングでは提出した課題（レジメ）をもとに行う研究成果発表と現地研修をくり返し、その成果を自身の研究につなげていきます。レジメはスクーリング開講前の決められた期日までに各自でairUにアップロードして提出します。各提出締切日・締切時間についてはairUを確認すること。

・airUではレジメ提出の他に、スクーリングのスケジュールや集合場所の連絡、注意事項、教員からの伝達事項の掲載や研究報告の他、事務局からのお知らせなど、学習に必要な情報を掲載しますので常時確認するように心掛けてください。

注意事項

本科目では各回スクーリングに向けてレジメの提出が必要です。提出方法や締切日時等についてはairUの「airUとレジメ提出について」を参照。

S	美術・工芸特論Ⅱ－1	科目コード： 30041
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
開講日程・ 開講地・定員	美術・工芸特論Ⅱ－1 開催日程：2019年5月31日（金）～ 2019年6月2日（日） 開催地：京都、受講料： ￥16,000、定員：40	
担当者	松生歩*、奥田輝芳、宇佐美文理	

科目概要と到達目標

「京都からの風-それぞれの芸術論-松生歩の目・奥田輝芳の目・宇佐美文理の目」
 京都には芸術の分野を超え、各人の中に脈々と流れている、この土地特有の感覚や価値観があるように思われる。それは作家が京都出身であるなしにかかわらず、この場所で学び、制作し、発表していく中で、多くの人やモノと関わりながら自然に培われた考えや感覚であるかもしれない。
 この講座では講師が日々の作家活動を通して、作品を作るために一番大切に考えていることやその根拠など、創作の核心部分を明かす。また日本画・洋画の問題を有機的に認識するために、中国画の知見も学び、それぞれの立ち位置を知る機会を持つ。授業を通して学生が自身の創作活動を振り返り、より問題意識を深め、新たな視座を持つことを目標とする。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか
2. 授業に積極的に取り組んでいるか
3. レポートで論理的な議論の展開ができているか
4. レポートの文章表記は正しいか

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと課題により総合的に評価する。

予習・復習

スクーリング後にノートや制作物に関してふり返しを行い、内容を整理してしっかり復習する。受講後のレポート作成に際しては、スクーリング中に出てきた専門用語や技法について、文献や資料で自分なりの理解や考えを深めた上で取り組むことが望ましい。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	なし

課題

■事後課題

以下の内容でスクーリングレポートを作成し、期日までに提出してください。

テーマ：講義を通じて考えたこと（自身の制作、研究との関連についても可能な限り言及してください）

文字数：1,000～1,200文字

書式：手書きの場合は大学指定レポート冊子の原稿用紙面タテ書き。ワープロ使用の場合は任意のA4用紙（1枚あたり40文字×30行）ヨコ書き※文末に文字数を明記すること。

表紙：『学習ガイド2019』の巻末に掲載の「2019年度スクーリングレポート表紙・指定課題表紙」に必要事項を記入し、表紙としてスクーリングレポートにホチキス留めしてください。

提出締切日：6月19日（水）【必着】

提出先：

郵送提出 通信教育部スクーリングレポート受付係宛

窓口提出 瓜生山キャンパス人間館中2階 通信教育部事務局窓口（窓口受付時間内）

※封筒表面に “「美術・工芸特論Ⅱ-1」スクーリングレポート在中”と明記のこと。

授業計画

5/31（金）担当：松生歩

- 1講時 レクチャー
- 2講時 レクチャー
- 3講時 ワークショップ
- 4講時 ワークショップ
- 5講時 ワークショップ

6/1（土）担当：奥田輝芳

- 1講時 レクチャー
- 2講時 レクチャー
- 3講時 ワークショップとレクチャー
- 4講時 ワークショップとレクチャー
- 5講時 ワークショップ、寸評

6/2（日）担当：宇佐美文理

- 1講時 レクチャー
- 2講時 レクチャー
- 3講時 レクチャー
- 4講時 レクチャー
- 5講時 レクチャー

1. 松生歩

「芸術の意味と意義」「日本画の意味と可能性」について、ワークショップを交えながら参加者と共に考えてゆきます。

「生を写す」という写生の考え方を制作にも自身の生涯にも貫いた京都の画家たちの言葉に触れ、絵の本質について考察します。また、自身が生きることと描く事の関係についても、教員の「自白」を聞きながら、各人が自身を振り返り深く掘り下げてみてください。絵を描くことは技術によるものでもなく、経験や知識によるものでもありません。本来は誰にでも絵は描けるのです。しかし、誰かの奥深くに入ってゆく絵の力というのは、一体どうすれば生み出すことができるのでしょうか？

この講座を通して、自身がなぜ絵を描くのか、何をどう描くべきなのか、自分だけの答えを導き出す機会にして頂ければと思います。

2. 奥田輝芳

少し極端な言い方ですが、洋画というジャンルは皆さんが、幼稚園、小学校から日本の美術教育の中で中心的な位置で学習して来ました。なぜなら、日本の美術教育は明治期に西洋絵画の導入、つまり西洋

画の描き方を手本とする美術教育を造形教育の中心にしたためです。皆さんがよくご存知の黒田清輝がヨーロッパ（フランス）で学んだ教育法を日本で根付かせ現在の礎を作りました。ついこの前まで芸術、美術大学のおおよその基礎学習はここに築かれたものです。はるか100年以上も前のことになります。こうして蒔かれた洋画の種は全国に広がり、絵を専門とする人たちの表現もどんどん多様化しました。具体的な対象を描くだけでない作品が登場し始めます。ここでは、抽象絵画の始まりをワークショップで実感していただき、ご自身の専攻をふりかえり、制作の方向を再確認していただくことが目標です。

3. 宇佐美文理

江戸時代までの日本の絵画は、中国絵画の決定的な影響を受けています。彼らは中国絵画を消化しつつ、そのうえで新たな絵画を作り出すことを模索してきました。この講義では、中国絵画の流れを「気」という観点から概観しつつ、絵画制作の背後にあった基本的な思想を紹介します。それが現代のわれわれの芸術観にも大きく影響を与えていることを理解していただくとともに、みなさんが今後中国絵画あるいはその影響を受けた日本の絵画を鑑賞する際に、これまでとは違う新たな視点をもって観ることができるようになり、そこからなにか自身の制作のヒントになるものを見いだされることを期待しています。

受講にあたって

●持参物

講義ではスライドやパワーポイントを使用することがありますので、手元を照らすライトがあると便利です。

5/31（金）、6/1（土）はワークショップも行いますので、以下のものを持参してください。

5/31（金）

スケッチブックまたはクロッキー帳（ノート程度の小さいもので可）、鉛筆（H・HB・B各1本以上）、消しゴムまたは練りゴム、筆洗、筆（面相筆・彩色筆（小）各1本※持っている人は削用筆も可）、ボールペン、雑巾、ティッシュ

・和紙、絵具、プラスチック梅皿、他の用具類は大学で一括して購入し、後日指定口座より引き落としします（1,700円程度）

6/1（土）

筆記用具、描画道具、簡単なドローイングのできる画材（アクリル絵具や水彩絵具、色鉛筆、パステルなど使用したいもの）を用意してください。ウエス、汚れてもよい格好（エプロン等）

筆、絵具等は貸し出しますが、日本画・洋画分野の方でお持ちの方は、できれば筆を数本持参してください。

・画用紙は大学で準備し、後日指定口座より引き落としします（500円程度）

6/2（日）

筆記用具

●その他

・「事後課題」の提出がない場合、単位の修得はできません。

・定員を超過した場合は抽選となります。ただし、本科目を必修科目として受講する方を優先します。

・ワークショップの際に大学で準備する教材費は、後日指定口座より引き落としいたします。金額は変更となる場合があります。

S	美術・工芸特論Ⅱ－2	科目コード： 30042
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	無	
開講日程・ 開講地・定員	美術・工芸特論Ⅱ－2 開催日程：2019年9月6日（金）～ 2019年9月8日（日） 開催地：京都、受講料： ￥16,000、定員：40	
担当者	清水六兵衛*、大長智広、久田多恵、前崎信也	

科目概要と到達目標

「京都からの風-それぞれの芸術論-清水六兵衛の目・大長智広の目・久田多恵の目・前崎信也の目」京都には芸術の分野を超え、各人の中に脈々と流れている、この土地特有の感覚や価値観があるように思われる。それは作家が京都出身であるなしにかかわらず、この場所で学び、制作し、発表していく中で、多くの人やモノと関わりながら自然に培われた考えや感覚であるかもしれない。この講座では講師が日々の作家活動を通して、作品を作るために一番大切に考えていることやその根拠など、創作の核心部分を明かす。また工芸の問題を有機的に認識するため、言語、文様、意匠から、その意味と論拠を指し示す。授業を通して学生が自身の創作活動を振り返り、より問題意識を深め、新たな視座を持つことを目標とする。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか
2. 授業に積極的に取り組んでいるか
3. レポートで論理的な議論の展開ができているか
4. レポートの文章表記は正しいか

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと課題により総合的に評価する。

予習・復習

スクーリング後にノートや制作物に関してふり返しを行い、内容を整理してしっかり復習する。受講後のレポート作成に際しては、スクーリング中に出てきた専門用語や技法について、文献や資料で自分なりの理解や考えを深めた上で取り組むことが望ましい。

テキストと参考文献・URL

テキスト	無
参考文献・URL	無

課題

■事後課題

以下の内容でスクーリングレポートを作成し、期日までに提出してください。

テーマ：講義を通じて考えたこと（自身の制作、研究との関連についても可能な限り言及してください）

文字数：1,000～1,200文字

書式：手書きの場合は大学指定レポート冊子の原稿用紙面タテ書き。ワープロ使用の場合は任意のA4用紙（1枚あたり40文字×30行）ヨコ書き※文末に文字数を明記すること。

表紙：『学習ガイド2019』の「2019年度スクーリングレポート表紙・指定課題表紙」に必要事項を記入し、表紙としてスクーリングレポートにホチキス留めしてください。

提出締切日：9月25日（水）【必着】

提出先：

郵送提出 通信教育部スクーリングレポート受付係宛

窓口提出 瓜生山キャンパス人間館中2階 通信教育部事務局窓口（窓口受付時間内）

※封筒表面に “「美術・工芸特論Ⅱ-2」スクーリングレポート在中”と明記のこと。

授業計画

9/6（金）担当：清水六兵衛

1講時 ワークショップ 土による造形（茶碗の形を借りて）

2講時 レクチャー 現代陶芸 大長智広

3講時 ワークショップ 土による造形（茶碗の形を借りて）

4講時 講評

5講時 レクチャー 清水六兵衛家と自作

9/7（土）担当：久田多恵

1講時 レクチャー

2講時 レクチャー

3講時 ワークショップ

4講時 ワークショップ

5講時 講評

9/8（日）担当：前崎信也

1講時～5講時 レクチャー

1. 清水六兵衛

京都における陶芸をイメージすると雅な器のデザインが思い浮かぶであろう、ただ京都の工芸の多様性の中にあって陶芸の世界にも様々な表現が存在してきた。歴史の中の様々な表現とそれからつながる現代の表現に着目したい。そして茶道との関わりの中で発展してきた茶道具も京都の陶芸の中で重要な位置を占めている。今回のワークショップでは茶碗という一つの世界に焦点をあてて、各自が思う世界を茶碗の中に表現してみることを試みる。手づくねという技法で茶碗の制作を試み、土の素材性を知ることと、茶碗の持つ機能性だけでなく、表現の世界の一端まで迫れればと思う。

2. 久田多恵

人物像と繊維素材

人物像は先史時代の壁画から現代まで延々と描き続けられ、また土や木、石、鉄などでかたち作られてきた。繊維もまた人物像を表現する素材として重要である。人物像と繊維素材に注目し、様々な作例を京都で活躍した作家を含めて取り上げ、造形表現のあり方を考える。ワークショップでは自分の着古した衣類を材料にし、ニードルで加工を行うことにより自分の体と造形との関わりを考察する。

3. 前崎信也

日本の工芸品には松竹梅や菊・蓮といった植物から、龍虎や鹿・猿といった動物など多くの文様が描かれています。それらはただ美しいモチーフというだけではなく、長寿や出世など、それを使う人たちの思いが込められた意味を持っています。本講義では、工芸だけではなく日本の美術全体を読み解くための重要な鍵である、基本的な文様の意味とその理由について解説します。

受講にあたって

●持参物

9/6（金）

汚れても良い服装、エプロン、割烹着など、タオル、筆記用具

9/7（土）

使い古して不要になった衣類（フェルティングニードルで加工します）、はさみ

＊セーター、ベスト、カーディガン、靴下、手袋、帽子などウールのもの等加工しても良いもの3点程度

＊ウール以外の獣毛素材や化学繊維が混ざったものでもかまいませんが、カシミアや一部の化学繊維は加工しにくいものがあります。念のために複数点持参してください。

＊はさみは文具用のもの

9/8（日）

筆記用具

●その他

- ・「事後課題」の提出がない場合、単位の修得はできません。必ず期日までに提出してください。
- ・定員を超過した場合は抽選となります。ただし、本科目を必修科目として受講する方を優先します。
- ・ワークショップの際に教材費が必要となった場合、後日指定口座より引き落としいたします。

S	美術・工芸演習（日本画） 科目コード： 30044
配当年次	1年次～
単位数	8
履修の前提条件	なし
開講日程・ 開講地・定員	美術・工芸演習(日本画) 開催日程：2019年4月19日（金）～ 2019年4月21日（日），2019年7月19日（金）～ 2019年7月21日（日），2019年9月20日（金）～ 2019年9月22日（日），2019年12月19日（木）～ 2019年12月21日（土） 開催地：京都、受講料： ￥0、定員：なし
担当者	松生歩*、山田真澄、山田伸、青木芳昭、吉川弘、八田哲、物部泰典、塚下秀樹 他

科目概要と到達目標

技法材料の研究を中心に据え、幅広い知識とそれらをどの様に制作に活用していくかを考える。実験的な制作を積極的に行い様々な画面づくりを経験する。自身の意志に基づいた個性的で魅力ある作品を描く事を目標とする。

評価基準と成績評価方法

- ・意欲的に授業に取り組むことができたか
- ・様々な素材を使い実験的な制作ができたか
- ・自分自身に設定した課題に挑むことができたか
- ・結果を恐れずに制作ができたか

上記の総合評価とする。

予習・復習

スクーリングに参加する前に、毎回小下絵・写生・草稿・本画の為の試作・制作途中の本画など、各自の制作進行状況が分かるものを整え準備しておくこと。スクーリング中はデモ授業や講義、制作相談など、タイトなスケジュールで進んでいくので、自分に必要な内容の指導が受けられるよう、スクーリングに持参する作品の制作進捗を図っておく必要がある。制作途中の作品はもちろん、スクーリング以降の制作予定の構想なども相談できるよう自宅で制作とエスキースを数多く進めておくことが望ましい。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	なし

授業計画

4/19（金）
担当：松生歩、山田真澄、八田哲
八田哲氏の特別講義（予定）
小下絵、草稿制作

4/20（土）～4/21（日）

担当： 松生歩、山田真澄、吉川弘、青木芳昭

4/20：綿布パネルの制作 顔料ベース・膠・ドーサ・体質顔料・支持体・基底材などの講義と応用技術の紹介

4/21：小下絵、草稿制作、絹本制作の準備

7/19（金）～7/21（日）

担当： 松生歩、山田真澄、山田伸、竹内浩一、八田哲
制作、絹本制作

7/20（土）は竹内浩一氏の特別講義（予定）

9/20（金）～9/22（日）

担当： 松生歩、山田真澄、物部泰典、八田哲、塚下秀樹
制作、絹本裏打ち、運筆実習

12/19（木）～12/21（土）

担当： 松生歩、山田真澄、吉川弘、山田伸、八田哲
制作、合評

受講にあたって

●持参物

以下のものをスクーリング時に持参してください。

道具を含め、各自の制作に必要なものは、各自で準備してください。

※作品、制作に必要なものは、大学が指定する日時着の場合に限り事前に大学へ送ることを認めます。

指定日時は「受講許可証・集合教室案内」でお知らせします。

4/19（金）

写生、小下図、草稿制作に必要な用具一式、ポートフォリオ

4/20（土）～ 4/21（日）

パネルを除く日本画用具（普段制作に使用している用具）、画鋏（30個程度）、ポートフォリオ

※墨および硯について質問がある場合は、現在使用しているものを持参すること。

これ以外にも質問したい事例のものがあれば、持参することが望ましい。

7/19（金）～ 7/21（日）

作品、各自の制作に必要な用具一式、ポートフォリオ、梱包材料

9/20（金）～ 9/22（日）

作品、各自の制作に必要な用具一式、ポートフォリオ、梱包材料

運筆に必要な用具一式（7月のスクーリング中に説明あり）

12/19（木）～ 12/21（土）

作品、各自の制作に必要な用具一式、ポートフォリオ、梱包材料

●諸経費

4月のスクーリングでは、材料学でのパネル制作費1,200円程度および絹本制作の為の絹とパネル代2,300円程度が必要となります。

後日指定口座より引き落としいたします。

※上記金額は変更になる場合があります。

●その他

大型作品および制作に必要な道具は事前に送付可能です。スクーリング初日の1週間から2日前までに到着するよう大学へ送付してください。

- ・例えば、4月19日～4月21日のスクーリングの場合、4月12日～4月17日【必着】と指定してください。
- ・送料は元払い、送り状に分野および科目名を必ず明記したうえ、「通信日本画研究室」宛で送付してください。

S	美術・工芸演習（洋画） 科目コード： 30045
配当年次	1年次～
単位数	8
履修の前提条件	なし
開講日程・ 開講地・定員	美術・工芸演習(洋画) 開催日程：2019年4月26日（金）～ 2019年4月28日（日），2019年8月5日（月）～ 2019年8月8日（木），2019年10月25日（金）～ 2019年10月27日（日），2019年12月7日（土）～ 2019年12月8日（日） 開催地：京都、受講料： ￥0、定員：なし
担当者	奥田輝芳*、川村悦子*、山河全、押江千衣子、鶴田憲次、森田康雄、水口裕務

科目概要と到達目標

「見る」、「描く」、「試みる」、「創る」、このフレーズは大学で苦しみながら修得した制作の諸段階である。それぞれが一步一步迷いながらステップアップし自己の眼差しを育んできた。本分野では制作について次の段階に上るために必要なことを「反復する」、「思考する」の二点と考える。しかし単なる反復ではなく、表現の独自性を求めるために多角的な視点で自己のテーマを深める。そのことによって自己批評の眼を持って制作することができるようになり、外への「発信」を広く行えるようになる。

評価基準と成績評価方法

- ・日々制作に取り組み、独自の表現への積極的な試みがあるか（制作量を重視）
- ・創作のあり方を自身に問い、美術の歴史、社会背景、芸術論を修得しながら、造形の本質を求める姿勢があるか（思考力を重視）
- ・自身の構想を具現化するための表現の向上と技術の蓄積が計られているかどうか（構想力を重視）

本科目では作品の講評や展示発表会を通じて上記の項目について評価する

予習・復習

スクーリング前には、毎回、各自の絵画（合評会のための提出作）、次作の制作用エスキース（下絵／試作）を整え、スクーリングでどのように制作進行するのかを考え準備する。初回に一年間の制作計画を教員との面談で話し合うが、スクーリングごとに調整するために、各自のペースを計り、繰り返し描くなかで作品精度を高める事が出来るよう努める。制作課題や制作目標を明らかにするためには「制作メモ」（制作手帳）を用意し、日々心にかかる出来事や展覧会、作家、作品との出会いなど、自己と比較できるモノや対象を求める事が大切になる。そういった日常と絵画の接点を探る「私の言葉」を育むことができるよう準備する。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	なし

授業計画

4月は各自の制作への新たな視座を育むために大判ドローイングを行い、各自の表現を深め、あるいは拡げていく。その一方で制作のテーマを試行するために1日1枚のポストカードドローイングを行い、それをもとに「発表」する場を設ける。

大学院1年次としてはボリュームのある内容であるが、自由に描く視点に加え、具体的な絵画技法（支持体研究）を修得し、毎日描くなかで日常と制作をどのように結びつけるかを模索する。

4/26（金）

1～2講時

各自の作品プレゼンをとおして自己紹介を行う。（作品のサイズ、枚数、形態等は自由）

3～5講時

ドローイングによる制作展開①

4/27（土）

ドローイングによる制作展開②

4/28（日）

ドローイングによる制作展開③

①～③の講評会、10月の展示場所下見、自主制作のエスキース相談

次回課題説明（自主制作1とポストカードドローイング）

8/5（月）

自主制作1の講評、ポストカードドローイング中間講評、平面（キャンバス・パネル等）の支持体演習I（F10号の麻布水性キャンバス制作）

8/6（火）

支持体演習II（F10号綿布による水性下地・パネル制作）と油彩オイル（溶き油）・アクリルメディウムなどの演習、それらの支持体を用いた自主制作2

8/7（水）

自主制作、エスキース相談続き

8/8（木）

制作相談、展覧会準備（予定）

次回スクーリング説明

10/25（金）

自主制作2の講評、展示搬入

10/26（土）

展覧会会場での講評

10/27（日）

1～2講時

2年次制作研究ノート中間発表会聴講

3～5講時

展示搬出

12/7（土）

自主制作3の講評と、鶴田憲次氏による色彩演習

12/8（日）

自主制作3と次年度制作のための個別相談

※ 自主制作1～3は各自が自宅・大学で制作を行うものであり、油彩制作以外の作品も可としますが、基本的に平面作品です。（サイズの目安は50～100号程度、枚数は自由）

受講にあたって

●持参物

4/26（金）～4/28（日）

- ・ 講評のための作品と各自のポートフォリオ（作品の大きさ、枚数、素材等は自由）
- ・ 作品プレゼン用に、今まで描いた作品（写真でも可）および自主制作1で描きたいと考えている題材等（エスキースや取材した写真など持参可能なもの）
- ・ 油彩、アクリル絵具 他、各自の描画材料、作品搬送用梱包材

8/5（月）～8/8（木）

- ・ 課題のポストカードドロ잉
- ・ 自主制作1の作品、他諸道具全般、作品搬送用梱包材
- ・ 作品発表のための準備品（4月スクーリング時に伝えます）

10/25（金）～10/27（日）

- ・ 発表（作品展示に必要な諸道具）、作品搬送用梱包材
- ・ 自主制作2の作品

12/7（土）～12/8（日）

- ・ 自由制作3の作品と制作に必要な諸道具全般

●諸経費

・ 4月スクーリング時のドロ잉用紙、8月スクーリング時の支持体研究に必要なものは大学でまとめて購入します（それぞれ1,000～3,000円程度）。

※後日指定口座より引き落としいたします。

・ 10月スクーリング時の展覧会では、実費3,000円程度が必要になります。

※後日指定口座より引き落とし（または当日徴収）します。

・ 授業時間内に美術館や博物館を見学する場合があります。その際の入館料と現地までの交通費は、各自でご負担ください。

●その他

大型作品および制作に必要な道具は事前に送付可能です。スクーリング初日の1週間から2日前までに到着するよう大学へ送付してください。

・ 例えば、4月26日～4月28日のスクーリングの場合、4月19日～4月24日【必着】と指定してください。

・ 送料は元払い、送り状に分野および科目名を必ず明記したうえ、「通信洋画研究室」宛で送付してください。

S	美術・工芸演習（陶芸） 科目コード： 30046
配当年次	1年次～
単位数	8
履修の前提条件	無
開講日程・ 開講地・定員	美術・工芸演習(陶芸) 開催日程：2019年5月18日（土）～ 2019年5月19日（日）, 2019年6月22日（土）～ 2019年6月23日（日）, 2019年7月27日（土）～ 2019年7月28日（日）, 2019年9月21日（土）～ 2019年9月22日（日）, 2019年10月26日（土）～ 2019年10月27日（日）, 2019年11月16日（土）～ 2019年11月17日（日） 開催地：京都、受講料： ￥0、定員：なし
担当者	清水六兵衛*、横山直範、八木明、櫻井靖子、他

科目概要と到達目標

現在の陶芸の状況は非常に多岐に渡っている。器としてのやきものにも、伝統的なスタイルのものから現代感覚あふれるもの、そして大量生産に見られるような工業製品としての器もある。また自己の表現としての用を持たないオブジェ、さらに現代美術の範疇に属するような、素材としての土を前面に打ち出した表現。このような状況にあって、自己の求めるものを再認識することが必要であろう。釉薬や土、焼成、制作の技術を知ることには大変重要である。それらの技術を再確認するとともに、自身の制作へ還元することを狙う。素材、技法に各自の感性を組み合わせることで他者に感動を与えるような新しい表現の確立を目指す。

評価基準と成績評価方法

- ・発想力
- ・表現力
- ・理解度

授業への取り組み、制作物の評価と今後の展開に対する考えおよび理解度による総合評価

予習・復習

スクーリングの前には自宅での制作に関するエスキース、写真などの資料を準備し、スクーリング当日の教員との面談に備える。また、特別講師のレクチャーがある場合は講師やレクチャー内容に関する予備知識を持っておくこと。スクーリング後は、授業で感じた問題を確認し、自身の制作にフィードバックできるものがないか考えてみる。

テキストと参考文献・URL

テキスト	無
参考文献・URL	無

授業計画

【5月18日（土）～5月19日（日）】

- ・1日目 担当：清水六兵衛、櫻井靖子
1～5講時 年間計画概要説明、ワークショップ（鑄込）

- ・2日目 担当：清水六兵衛、櫻井靖子、横山直範
1～5講時 ワークショップ（鑄込）、レクチャー（釉薬）

【6月22日（土）～6月23日（日）】

- ・1日目 担当：清水六兵衛
1～5講時 制作

- ・2日目 担当：清水六兵衛
1～5講時 制作

【7月27日（土）～7月28日（日）】

- ・1日目 担当：清水六兵衛、八木明
1～5講時 ワークショップ（磁器ロクロ）

- ・2日目 担当：清水六兵衛、八木明、横山直範
1～5講時 ワークショップ（磁器ロクロ）、レクチャー、釉薬実習

【9月21日（土）～9月22日（日）】

- ・1日目 担当：清水六兵衛、横山直範
1～5講時 制作、レクチャー、釉薬実習

- ・2日目 担当：清水六兵衛
1～5講時 制作

【10月26日（土）～10月27日（日）】

- ・1日目 担当：清水六兵衛、横山直範
1～5講時 制作、レクチャー、釉薬実習

- ・2日目 担当：清水六兵衛
1～5講時 制作

【11月16日（土）～11月17日（日）】

- ・1日目 担当：清水六兵衛
1～5講時 制作

- ・2日目 担当：清水六兵衛
1～5講時 制作

受講にあたって

●持参物

以下のものをスクーリング時に持参してください。

【5月18日（土）～5月19日（日）】

原型/スケッチブック/筆記用具/ヘラ（原型の修正、また石膏を流す際の土手を作るときに使用）/小刀（石膏を削るときに使用）/剣先/文具類（定規、はさみ、カッターなど）/エプロンなど作業着
〈あると便利なもの〉

アクリルシート（簡易の土手に使用）/ゴムヘラ（石膏を混ぜるときに便利です。100円ショップなどで購入）/石膏かんな（大きな面を削れます）/瞬間接着剤（石膏が欠けたときに使用）/筆（石膏型を修正するときに使用）/ガムテープ（アクリルシートを留めるときに使用）

【6月22日（土）～6月23日（日）】
【7月27日（土）～7月28日（日）】
【9月21日（土）～9月22日（日）】
【10月26日（土）～10月27日（日）】
【11月16日（土）～11月17日（日）】
スケッチブック、各自の制作に必要なもの

※ 制作に必要な道具は事前に送付可能です。スクーリング初日の2日前【必着】で送付してください。

●諸経費

- ・ 指定の陶土を用いて作品制作を行いますので、陶土代が必要となります。また、課題作品を焼成する場合は、別途焼成費が必要となります。いずれも後日指定口座より引き落としいたします。（陶土、石膏、他年間約15,000円）
- ・ 授業時間内に美術館や博物館を見学する場合があります。その際の入館料と現地までの交通費は、各自ご負担ください。
- ・ 進級作品の制作に使用する陶土は各自で準備してください。陶土の申し込みはairUシラバスまたは『大学院シラバス2019』に収録の申込書を利用してください（大学への配達は大鴨陶芸のみです）。

S	美術・工芸演習（染織） 科目コード： 30047
配当年次	1年次～
単位数	8
履修の前提条件	無
開講日程・ 開講地・定員	美術・工芸演習(染織) 開催日程：2019年4月13日（土）～ 2019年4月14日（日）, 2019年5月4日（土）～ 2019年5月5日（日）, 2019年6月8日（土）～ 2019年6月9日（日）, 2019年8月17日（土）～ 2019年8月18日（日）, 2019年10月26日（土）～ 2019年10月27日（日）, 2019年12月14日（土）～ 2019年12月15日（日） 開催地：京都、受講料： ￥0、定員：なし
担当者	久田多恵*, 柴田博美、佐伯昭彦、木内小織、舘正明、石塚広、他

科目概要と到達目標

この授業の目標は、各自がこれまで積み重ねてきた造形のあり方を問い直し、さらに高めていくためには何が必要かさぐることである。素材・技法・主題などのうち継続して取り組みものを設定し、作品制作と制作研究ノートによる論述を通して研究を進める。

前半ではテーマを決め、そのテーマに沿って作品制作を行う。前半のテーマは「身に着けるもの」とする。後半では、染織の特性を生かした造形作品の完成をめざす。

またその分野の専門的な技術を持つ教員によるワークショップを予定している。前半、後半に各一回ずつ行う。詳細は別途記載。

評価基準と成績評価方法

- ・ 自分の核となるテーマを設定し、それに沿って研究、創作を深めることができたか
- ・ じっくり腰をすえて作品制作にあたり、完成度を高めることができたか
- ・ 制作研究ノートにおいて、テーマの設定、研究、考察、論述、発表などに積極的に取り組み、成果を上げることができたか

授業出席と成果物による総合評価

予習・復習

スクーリングに参加する前に授業内容を確認し、それに沿った準備を十分に行ってください。自作に関連する作家の作品や、美術館・博物館のコレクションなども調べておきましょう。素材の選択も重要です。複数の素材の中からサンプル制作を試みます。出来上がった作品は手許に置き、講評の意味を反芻してください。着物や帯などは、仕立てた後着心地を確かめてみましょう。

テキストと参考文献・URL

テキスト	無
参考文献・URL	無

課題

■ 自宅制作課題

【課題】制作研究ノート（任意のA4用紙《1枚あたり40字×25行》に4,000字程度）

【最終提出日】12/15（日）のスクーリング時に、完成させたものを持参

授業計画

【4月13日（土）～4月14日（日）】

・1日目

1～2講時 年間研究計画の発表と個別面談（久田）

3～5講時 ワークショップ：天然染料の色をさぐる（石塚）

・2日目

1～5講時 ワークショップ：天然染料の色をさぐる（石塚）

【5月4日（土・祝）～5月5日（日・祝）】

・1日目

1～5講時 ワークショップ：天然染料の色をさぐる（石塚）

・2日目

1～5講時 レクチャーとワークショップ（未定）

【6月8日（土）～6月9日（日）】

・1日目

1～2講時 作品及びノート指導・進捗状況確認（久田）

3～5講時 技法研究：染（佐伯）／ 織（柴田）

・2日目

1～5講時 技法研究：染（佐伯）／ 織（柴田）

【8月17日（土）～8月18日（日）】

・1日目

1～5講時 技法研究：染（佐伯）／ 織（柴田）

・2日目

1～5講時 1作目 作品講評（久田・柴田）

【10月26日（土）～10月27日（日）】

・1日目

1～5 講時 技法研究：（館）染（木内）織

・2日目

1～2講時 作品及びノート指導・進捗状況確認（久田・館・木内）

3～5講時 技法研究：（館）染（木内）織

【12月14日（土）～12月15日（日）】

・1日目

1～5講時 技法研究：（館）染（木内）織

・2日目

1～5講時 作品・ノート発表（久田・館・木内）

授業内容は「美術・工芸演習」（M1）、「美術・工芸研究」（M2）とも同じ

受講にあたって

●持参物

【4月13日（土）～4月14日（日）】

制作研究ノートに取り上げたい自作に関わりのあるテーマの資料

前期作品計画発表に必要なもの-作品のアイデアスケッチ、草稿、試作サンプル、素材サンプル、
これまで制作した作品または作品写真、イメージのもととなる資料等のうち持参可能なもの

筆記具、雑巾、スケッチブック（B4サイズ程度＝できあがったサンプルを貼付するため）、
両面テープ（サンプルを貼るため）、ゴム手袋、軍手、エプロン（汚れても良い服装）

※染料と被染物の量は追って連絡します。

【5月4日（土・祝）～5月5日（日・祝）】

作業を進めるために必要なもの。

※5/5（日・祝）のワークショップに必要なものは別途連絡します。

【6月8日（土）～6月9日（日）】

制作研究ノート資料

制作中の作品、制作を進めるために必要なもの

※技法研究に必要なものは別途連絡します

【8月17日（土）～8月18日（日）】

制作中の作品、制作を進めるために必要なもの

前半の完成作品、展示に必要な用品

【10月26日（土）～10月27日（日）】

制作研究ノート資料

後半作品のアイデアスケッチ、草稿、試作、試作サンプル、素材サンプル、制作を進めるために必要な
もの

【12月14日（土）～12月15日（日）】

完成作品、展示に必要な用品

後期作品・ノート発表に必要なもの

制作に必要な道具は事前に送付可能です。スクーリング初日の2日前【必着】で送付してください。

●諸経費

・授業時間内に美術館か博物館を見学する場合があります。その際の入館料と現地までの交通費は、各自でご負担ください。

・ワークショップの際、教材費が必要となる場合があります。その場合は後日指定口座より引落いたします。

S	環境デザイン演習（建築デザイン） 科目コード： 30055
配当年次	1年次～
単位数	8
履修の前提条件	なし
開講日程・ 開講地・定員	環境デザイン演習(建築デザイン)/横内スタジオ 開催日程：2019年4月6日（土），2019年5月5日（日），2019年6月2日（日），2019年6月30日（日），2019年7月27日（土）～ 2019年7月28日（日），2019年8月25日（日），2019年9月22日（日），2019年10月20日（日），2019年11月17日（日），2019年12月21日（土）～ 2019年12月22日（日） 開催地：京都・東京、受講料： ¥0、定員：なし 環境デザイン演習(建築デザイン)/岸スタジオ 開催日程：2019年4月6日（土），2019年5月5日（日），2019年6月2日（日），2019年6月30日（日），2019年7月27日（土）～ 2019年7月28日（日），2019年8月25日（日），2019年9月22日（日），2019年10月20日（日），2019年11月17日（日），2019年12月21日（土）～ 2019年12月22日（日） 開催地：京都・東京、受講料： ¥0、定員：なし 環境デザイン演習(建築デザイン)/堀部スタジオ 開催日程：2019年4月6日（土），2019年5月5日（日），2019年6月2日（日），2019年6月30日（日），2019年7月27日（土）～ 2019年7月28日（日），2019年8月25日（日），2019年9月22日（日），2019年10月20日（日），2019年11月17日（日），2019年12月21日（土）～ 2019年12月22日（日） 開催地：京都・東京、受講料： ¥0、定員：なし
担当者	（横内スタジオ）横内敏人*、鎌田秀章、豊田保之、（岸スタジオ）岸和郎*、安部秀司、（堀部スタジオ）堀部安嗣*、丸山弾

科目概要と到達目標

この授業では建築設計の実際的なプロセスを学ぶとともに、建築設計の演習課題を通じて設計の考え方、何を手がかりにそれを進めるかについて学ぶ。つまり、クライアントから提示される実際的な要求を真摯に受け止めることからはじめ、基本設計から詳細の納め方、平面計画、構造計画に至るまで、現在進行形の設計の実際を身につけることを目的とする。

評価基準と成績評価方法

- ・設計コンセプトの明快さ
- ・計画の合理性
- ・空間の魅力
- ・成果物の完成度
- ・プレゼンテーション能力

上記項目を各課題の成果物によって総合的に評価する。

予習・復習

授業時の直接対面指導をより効果的なものにするために、不足している知見を事前に十分補い、授業に臨む環境を整えておくこと。授業終了後は、授業時に得たアドバイスを速やかに整理し実践すること

で次の段階へ結びつける準備を進めること。

テキストと参考文献・URL

テキスト	前期・後期ともに各所属スタジオの図面見本（pdfファイル）を「airUマイページ」にアップロードします。各自ダウンロード・印刷したうえでファイリングして図面集としてください。前期・後期ともに第2回スクーリング頃よりダウンロード可能となります。
参考文献・URL	【横内スタジオ・堀部スタジオ共通】 『住宅の普遍性を求めて—4人の建築家のアプローチ』 横内敏人・堀部安嗣・三澤文子・伊藤寛著 彰国社 【横内スタジオ】 『BLUEPRINTS 横内敏人の住宅設計図面集』 横内敏人 風土舎 『WA-HOUSE 横内敏人の住宅』 横内敏人 風土舎 『温暖地版 自立循環型住宅への設計ガイドライン』 国土交通省国土技術政策総合研究所・国立研究開発法人建築研究所監修 一般財団法人建築環境・省エネルギー機構発行 【堀部スタジオ】 『堀部安嗣作品集 1994-2014 全建築と設計図集』 堀部安嗣 平凡社 『建築を気持ちで考える』 堀部安嗣 TOTOT出版 『増補特装版 木造住宅パーフェクト詳細図集』 丸山弾 オーム社 【岸スタジオ】 『大徳寺』日本名建築写真選集12 新潮社 『建築を旅する』岸和郎 共立出版 『逡巡する思考』岸和郎 共立出版 『重奏する建築』岸和郎 TOTOT出版

課題

●課題内容

現代の生活環境に固有の具体的な条件設定に基づいた建築の設計。スタジオごとに設定された課題に取り組む設計演習。コンセプトの立て方、周辺環境の読み方と対応の仕方、暮らし方、使われ方の提案、空間構成、配置計画、平面計画、断面計画などの事項について、多様な視点でのプランニングを徹底して行いながら具体的に検討する中で、建築設計に何が大切かについて議論し考察を深める。

●論点スケッチについて

設計を進めるにあたっては、設計の考え方や建築に何が大切かについてよく考察し、その成果を設計内容に反映させることが重要である。各回の授業テーマに沿って考察の成果を200字程度で記述し、参照した事例とともにまとめること。これを「論点スケッチ」とする。

●指定文献

【横内スタジオ・堀部スタジオ共通】『住宅の普遍性を求めて—4人の建築家のアプローチ』 横内敏人・堀部安嗣・三澤文子・伊藤寛著 彰国社
【岸スタジオ】特になし

授業計画

【前期】

●4月6日（土）

■1-1 オリエンテーションと設計概論（スクーリング授業）

- 1講時 オリエンテーション・課題説明・講義
- 2講時 オリエンテーション・課題説明・講義
- 3講時 実習・個別指導
- 4講時 実習・個別指導
- 5講時 実習・個別指導

□1-2 基本設計の検討1（WEB授業）

【自宅実習／中間提出】 対面授業での個別指導に基づいて自宅実習を進め、成果物を論点スケッチとともにスクーリング終了9日後までに「airUマイページ」にデータで提出し添削指導を受ける。

【自宅課題／次回提出】 添削指導に基づいて自宅実習を進め、次回スクーリング時に提出し講評を受ける。

●5月5日（日）

■2-1 基本設計の検討2（スクーリング授業）

- 1講時 講義・自宅実習のチェック
- 2講時 講義・自宅実習のチェック
- 3講時 実習・個別指導
- 4講時 実習・個別指導
- 5講時 実習・個別指導

□2-2 基本設計の検討3（WEB授業）

【自宅実習／中間提出】 対面授業での個別指導に基づいて自宅実習を進め、成果物を論点スケッチとともにスクーリング終了9日後までに「airUマイページ」にデータで提出し添削指導を受ける。

【自宅課題／次回提出】 添削指導に基づいて自宅実習を進め、次回スクーリング時に提出し講評を受ける。

●6月2日（日）

■3-1 基本設計の決定と構造計画の検討1（スクーリング授業）

- 1講時 講義・自宅実習のチェック
- 2講時 講義・自宅実習のチェック
- 3講時 実習・個別指導
- 4講時 実習・個別指導
- 5講時 実習・個別指導

□3-2 構造計画の検討2（WEB授業）

【自宅実習／中間提出】 対面授業での個別指導に基づいて自宅実習を進め、成果物を論点スケッチとともにスクーリング終了9日後までに「airUマイページ」にデータで提出し添削指導を受ける。

【自宅課題／次回提出】 添削指導に基づいて自宅実習を進め、次回スクーリング時に提出し講評を受ける。

●6月30日（日）

■4-1 構造計画の決定と詳細設計の検討1（スクーリング授業）

- 1講時 講義・自宅実習のチェック
- 2講時 講義・自宅実習のチェック
- 3講時 実習・個別指導
- 4講時 実習・個別指導

5講時 実習・個別指導

□4-2 設計図書の仕上げ（WEB授業）

【自宅実習／中間提出】 対面授業での個別指導に基づいて自宅実習を進め、成果物を論点スケッチとともにスクーリング終了9日後までに「airUマイページ」にデータで提出し添削指導を受ける。

【自宅課題／次回提出】 添削指導に基づいて自宅実習を進め、次回スクーリング5日前までに「airUマイページ」に合評用配付図面を事前提出する。次回スクーリング時に発表し講評を受ける。

●7月27日（土）、28日（日）

■5、6 最終合評 （スクーリング授業）

[1日目]

1～5講時 合評会

[2日目]

1～5講時 合評会

※両日共に出席が必須

※合評用図面としてスクーリングの5日前までに図面データをairUマイページに提出します。期日はairUマイページで確認してください。

【後期】

●8月25日（日）

■1-1 オリエンテーションと設計概論 （スクーリング授業）

1講時 オリエンテーション・課題説明・講義

2講時 オリエンテーション・課題説明・講義

3講時 実習・個別指導

4講時 実習・個別指導

5講時 実習・個別指導

□1-2 基本設計の検討1（WEB授業）

【自宅実習／中間提出】 対面授業での個別指導に基づいて自宅実習を進め、成果物を論点スケッチとともにスクーリング終了9日後までに「airUマイページ」にデータで提出し添削指導を受ける。

【自宅課題／次回提出】 添削指導に基づいて自宅実習を進め、次回スクーリング時に提出し講評を受ける。

●9月22日（日）

■2-1 基本設計の検討2 （スクーリング授業）

1講時 講義・自宅実習のチェック

2講時 講義・自宅実習のチェック

3講時 実習・個別指導

4講時 実習・個別指導

5講時 実習・個別指導

□2-2 基本設計の検討3（WEB授業）

【自宅実習／中間提出】 対面授業での個別指導に基づいて自宅実習を進め、成果物を論点スケッチとともにスクーリング終了9日後までに「airUマイページ」にデータで提出し添削指導を受ける。

【自宅課題／次回提出】添削指導に基づいて自宅実習を進め、次回スクーリング時に提出し講評を受ける。

●10月20日（日）

■3-1 基本設計の決定と構造計画の検討1（スクーリング授業）

1講時 講義・自宅実習のチェック

2講時 講義・自宅実習のチェック

3講時 実習・個別指導

4講時 実習・個別指導

5講時 実習・個別指導

□3-2 構造計画の検討2（WEB授業）

【自宅実習／中間提出】対面授業での個別指導に基づいて自宅実習を進め、成果物を論点スケッチとともにスクーリング終了9日後までに「airUマイページ」にデータで提出し添削指導を受ける。

【自宅課題／次回提出】添削指導に基づいて自宅実習を進め、次回スクーリング時に提出し講評を受ける。

●11月17日（日）

■4-1 構造計画の決定と詳細設計の検討1（スクーリング授業）

1講時 講義・自宅実習のチェック

2講時 講義・自宅実習のチェック

3講時 実習・個別指導

4講時 実習・個別指導

5講時 実習・個別指導

□4-2 設計図書の仕上げ（WEB授業）

【自宅実習／中間提出】対面授業での個別指導に基づいて自宅実習を進め、成果物を論点スケッチとともにスクーリング終了9日後までに「airUマイページ」にデータで提出し添削指導を受ける。

【自宅課題／次回提出】添削指導に基づいて自宅実習を進め、次回スクーリング5日前までに「airUマイページ」に合評用配付図面を事前提出する。次回スクーリング時に発表し講評を受ける。

●12月21日（土）、22日（日）

■5、6 最終合評（スクーリング授業）

[1日目]

1～5講時 合評会

[2日目]

1～5講時 合評会

※両日共に出席が必須

※合評用図面としてスクーリングの5日前までに図面データをairUマイページに提出します。期日はairUマイページで確認してください。

受講にあたって

●持参物

1 自宅実習成果物

2 筆記用具

3 図面を描く道具

- ・製図道具（ホルダーHBまたは同等シャープペンシルを含む）
- ・ノートパソコン（必要な場合のみ。CADソフトの種類は不問）

4 コンベックス

5 カメラもしくはデジタルカメラ

6 模型を制作する道具・模型材料（模型を制作する場合のみ各自で持参）

●諸経費

フィールドワークや見学などを行う際の現地までの交通費等は、各自ご負担ください。
見学科等が発生する場合は、後日指定口座より引き落としとなります。

注意事項

●中間提出について

スクーリング終了後にはairUマイページへの中間提出課題の提出が必須です。提出物については各回のシラバス（WEB授業）の欄を、提出方法や締切日時等については「受講にあたって＞その他」の「airUとWEB授業について」を参照してください。

●airUマイページとWEB授業

本科目はスクーリング授業（面接指導）に加え、自宅制作の成果を中間課題として「airUマイページ」にファイルを提出して指導を受ける「WEB授業」を併用し、対面スクーリングを受講→airUマイページに中間課題を提出→教員による添削指導→返却された指導内容を反映し、更に自宅学習を進めて→次回スクーリングへ持参。という流れを繰り返して制作を進めていきます。

中間課題の提出期日については「airUマイページ」で確認してください。

「airUマイページ」では中間課題の提出以外にも、合評スケジュールや教員からの伝達事項の掲載のほか事務局からのお知らせや教員による住宅見学会開催のお知らせなど、学習に必要な情報を掲載しますのでこまめに確認するように心掛けてください。

S	環境デザイン演習（日本庭園） 科目コード： 30056
配当年次	1年次～
単位数	8
履修の前提条件	なし
開講日程・ 開講地・定員	環境デザイン演習(日本庭園) 開催日程：2019年4月6日（土）, 2019年5月11日（土）, 2019年6月1日（土）, 2019年7月6日（土）, 2019年8月10日（土）～ 2019年8月11日（日）, 2019年9月7日（土）, 2019年10月5日（土）, 2019年11月2日（土）, 2019年12月7日（土）～ 2019年12月8日（日）, 2020年2月22日（土） 開催地：京都・その他学外■、受講料： ￥0、定員：なし
担当者	尼崎博正*、加藤友規、吉村龍二、町田香

科目概要と到達目標

伝統的日本庭園の本質とはなにか。我々はそこから何を学び、未来へ継承・発信すべきか。この命題に応えるため、名庭と向き合い、その立地環境や作庭の意図、職人の情念を感じとり、あるいは素材との対話を通じて、自ら独自の視点を確立していくことを目的とする。

文化財庭園の保存管理・修復現場、石造美術や竹工芸の工房等を訪れる現地研修と研究発表の二本柱とし、各自の視点からディスカッションを重ねることによって、研究・制作のテーマを絞り込む。

その上で各自のテーマに関する資料の収集と分析、現地調査を順序立てて行うなかで、修士論文・修士制作・修士研究活動実施報告書の骨格を決定する。

評価基準と成績評価方法

- ・ 真摯に研究に取組み、独自の視線で物事を見ているか
- ・ 研究の展開に必須の資料収集と分析を行っているか
- ・ 研究成果をまとめる方法と技術を習得しているか
- ・ 理論や歴史に学び、環境デザインの本質を求める姿勢があるか
- ・ 独創性のある新しいデザインの方法論やコンセプトおよび表現の試みがあるか

上記項目を研修地でのディスカッション、研究成果発表及び制作の過程での講評や合評によって総合的に評価する。

予習・復習

授業時の直接対面指導をより効果的なものにするために、不足している知見を事前に十分補い、授業に臨む環境を整えておくこと。授業終了後は、授業時に得たアドバイスを速やかに整理し実践することで次の段階へ結びつける準備を進めること。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	『庭園学講座1～25』 日本庭園・歴史遺産研究センター

参考文献・URL	『植治の庭—小川治兵衛の世界』 尼崎博正編著 淡交社 『石と水の意匠—植治の造園技法』 尼崎博正著 淡交社 『風景をつくる』 中村一・尼崎博正著 昭和堂 『庭石と水の由来・日本庭園の石質と水系』 尼崎博正著 昭和堂 『茶庭のしくみ』 尼崎博正著 淡交社 『市中の山居—尼崎博正作品集』 尼崎博正著 淡交社 『七代目小川治兵衛』 尼崎博正著 ミネルヴァ書房 『庭と建築の煎茶文化』 近代数寄空間をよみとく— 尼崎博正、麓和善、矢ヶ崎善太郎編著 株式会社思文閣出版
----------	---

課題

伝統的日本庭園の本質とは何か。我々はそこから何を学び、未来へ継承・発信すべきか。この命題に応えるため、名庭と向き合い、作庭家の意図、職人の思いを感じ取り、独自の視点を確立していくことが目標です。実地研修と研究発表の二本柱で、文化財庭園の保存管理・修復現場、石造美術の工房などを訪れ、直接関係者から話を聞きます。その成果を各自の視点から発表しディスカッションを行います。またその学びを踏まえて、研究テーマを絞り込み、資料収集や分析、調査など、修了研究・制作に向けての骨格をつくり、実践的な計画提案や空間デザインを行います。

授業計画

●ガイダンス及び名庭との出会い

4月6日（土）

1、2講時 ガイダンス及び講義

3、4、5講時 新しい時代の造園を切り開いた小川治兵衛（植治）の造園空間を中心に見学し、その作庭理念や作庭法について学習する。

研修地：南禅寺界隈の近代庭園

【自宅研究】名庭から学んだ事柄を各自総括する

●研究の方向性の検討

5月11日（土）

1、2、3、4、5講時 各自が研究の視点と方法を発表し、その方向性等について講評する

【自宅研究】研究の方向性及び方法について各自再検討し、その結果をまとめる

●現地研修：庭園の立地的考察

6月1日（土）

1、2、3、4、5講時 関東の近代庭園を中心に見学し、その立地的・空間的特色を把握する。

研修地：三溪園ほか

【自宅研究】各自の視点で研修成果をまとめるとともに、研究テーマの絞り込みを視野に入れる

●研究成果の発表と講評及びディスカッション

7月6日（土）

1、2、3、4、5講時 成果発表とディスカッションを通じて、各自研究のテーマを仮設定する。また、資料収集など研究の基本的な方法論を講じる。

【自宅研究】研究の視点とテーマを設定するとともに、方法論を検討し、その結果をまとめる

●現地研修と中間成果発表

8月10日（土）

1、2講時 現地研修（宮廷の庭：京都御苑）

3、4、5講時 個別指導

8月11日（日）

1、2、3、4、5講時 成果発表とディスカッション

【自宅研究】自身の研究テーマ設定に向けて、前期の研究総括と仮研究テーマの提示

●現地研修：京都の庭園文化

9月7日（土）

1、2、3、4、5講時 京都の庭園の立地・空間性・意匠の特質を、歴史・技術・保存修復等の視点から検証する。

研修地：金閣寺庭園など

【自宅研究】現地研修で修得した成果をまとめる

●研究テーマの発表及び講評

10月5日（土）

1、2、3、4、5講時 各自設定した研究テーマを発表し、その独自性・方法の妥当性について講評する。

【自宅研究】講評をうけて、研究テーマの全体像を構築する

●現地研修：奈良の庭園文化

11月2日（土）

1、2、3、4、5講時 奈良の庭園の立地・空間性・意匠の特質を、歴史・技術・保存修復等の視点から検証する。

研修地：依水園ほか

【自宅研究】研究テーマの全体像を構築する

●現地研修と研究成果の講評

12月7日（土）

1、2講時 名勝庭園の保存修復（智積院庭園）

3、4、5講時 個別指導

12月8日（日）

1、2、3、4、5講時 これまでの研究成果について講評をうけるとともに、2年次生の合評・最終指導に参加することによって、各自の研究制作における目標とレベルを認識する。

【自宅研究】2年次生の講評・指導を参考にしながら、各自の修士論文・修士制作・修士研究活動実施報告書の組み立てを行う

●最終成果の発表と講評

2月22日（土）

1、2、3、4、5講時 修士論文・修士制作・修士研究活動のテーマと構成の骨子を発表する。

【自宅研究】講評をふまえて、次年度の修士論文・修士制作・修士研究活動実施報告書の計画をたてる

●最終成果物

現地研修の総括と今後の研究の方向性と論文・制作・研究活動の骨子

受講にあたって

●持参物

1 自宅研究成果物

2 筆記用具

3 カメラもしくはデジタルカメラ

4 各自必要と思われるもの

●諸経費

フィールドワークや見学先での入場料等と現地までの交通費は各自ご負担ください。
現地研修の際にマイクロバス等を利用した場合は、後日指定口座より引き落としとなります。

●その他

●airUとレジメ提出について

・本科目はスクーリング（面接指導）に加え、airU（WEB指導）を利用した課題提出を行います。スクーリングでは提出した課題（レジメ）をもとに行う研究成果発表と現地研修をくり返し、その成果を自身の研究につなげていきます。レジメはスクーリング開講前の決められた期日までに各自でairUにアップロードして提出します。各提出締切日・締切時間についてはairUを確認してください。

・airUではレジメ提出の他に、スクーリングのスケジュールや集合場所の連絡、注意事項、教員からの伝達事項の掲載や研究報告の他、事務局からのお知らせなど、学習に必要な情報を掲載しますので常時確認するように心掛けてください。

注意事項

本科目では各回スクーリングに向けてレジメの提出が必要です。提出方法や締切日時等については「airU」を必ず確認してください。「airUとレジメ提出について」を参照。

S	環境デザイン実習Ⅰ (インターンシップ/建築)	科目コード： 30071
配当年次	1年次～	
単位数	4	
履修の前提条件	建築デザイン分野のみ履修可。 ※「環境デザイン特論Ⅲ-1」履修後が望ましい。	
開講日程・ 開講地・定員	環境デザイン実習Ⅰ 開催地：インターンシップ受入先■、受講料： ¥10,000、定員：なし	
担当者	岸川謙介*	

科目概要と到達目標

事前ガイダンス（あるいは「環境デザイン特論Ⅲ-1・2」の授業内容）により一級建築士事務所の業務内容を知った上で、実際に建築設計の実務経験が豊富な一級建築士事務所に出向き、その事務所で実施されているプロジェクトに関して、1科目（4単位）あたり120時間以上、設計図書の作成等の建築設計に関する実務実習を行う。建築設計業務を行う上で必要となる技術的知識（工法、技法、素材など）を身につけることを目的とする。

評価基準と成績評価方法

1. 業務総時間数が充たされているか。（1科目あたり120時間以上。ただし、事前ガイダンス・報告会を除く）
2. 業務内容が適切であるか。（設計図書作成補助、模型作成補助、打合参加、工事監理補助、確認申請協議補助など）
3. 業務態度が良好であるか。
4. インターンシップガイダンスに出席し、科目の主旨を理解しているか。
5. 実務実習を通して自分自身の設計に取り組む姿勢に関して示唆を得ているか。

上記項目をインターンシップ受け入れ先の建築士事務所によって評価・承認された報告書およびインターンシップ研修日誌・研修レポートによって総合的に評価する。

※ ガイダンス時に行う面談において担当教員は受講生のスキルなど適性を見極めるとともに、インターンシップ中の「インターンシップ研修日誌」は受入先事務所の建築士と担当教員の双方が逐次閲覧できるようにし、最終的な報告書とともに評価対象とする。

予習・復習

インターンシップは熱意と誠意を持って実務実習を継続することが、自分自身のためであるとともに受入先の事務所への最低限のマナーです。実習先の建築士の方とコミュニケーションをとりながら有意義な実務経験ができるように心掛けてください。研修後は自らの制作研究に実習成果を何かしらのかたちでフィードバックできるようにふりかえりましょう。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	なし

課題

一級建築士事務所に出向き、その事務所で実施されているプロジェクトに関して、設計図書の作成等の建築設計の補助業務を行う。（業務総時間数は1科目あたり120時間以上。ただし、事前ガイダンス・報告会を除く。）

本科目ではインターンシップの第1段階として、まずは実務現場に身を置くことで建築士の担う業務における基本設計、実施設計、各種申請、そして工事監理という一連のプロセスにおける建築士の業務内容およびその責任、作成資料について大きく把握すること。特に、クライアントから提示される要求だけでなく各種法規制による制約を含め、設計の前提条件の整理から基本計画の立案に至るプロセスについて理解を深めること。

授業計画

●インターンシップ実施方法

1. インターンシップガイダンスに出席（本科目を受講する場合、出席必須）

【日程】4月7日（日）13：00～

【開催地】京都瓜生山キャンパス

※所要時間：60分程度（希望される人数によって異なります）

【持参物】筆記用具、「インターンシップ登録申込書」を記入したもの

【内容】

- ・「インターンシップ登録申込書」の提出
- ・「学研災付帯賠償責任保険」（インターン賠）の加入手続
- ・担当教員との面談
- ・インターンシップ実習受講手続説明

2. 受入先建築士事務所の調整・決定

基本的に受講者が受入先をさがすこと。

3. インターンシップを実施するための手続き

①「インターンシップ実施計画書」を環境デザイン領域研究室宛に、郵送にて提出。

・出勤予定日時の欄は現時点での予定で構いません。受入先事務所と相談の上、記入すること。

・必ず、実施の1週間前には研究室に到着するよう、提出すること。

・今年度修了予定者（M2）の「インターンシップ実施計画書」最終提出期日は、2019年12月12日【必着】。1月に実習を計画している場合も最終締切日までに提出できるように実習計画を立てること。

②「インターンシップ実施計画書」の提出後、研究室から受講者に「誓約書」を郵送。

③「誓約書（原本）」を受入先事務所に提出し、後日、「誓約書（コピー）」を環境デザイン領域研究室に郵送提出。

④受講料の引落

・「インターンシップ実施計画書」提出後は、インターンシップを行わなかった場合や途中放棄された場合でも、受講料は返金できません。

4. インターンシップの実施中および終了後の提出物

①「インターンシップ研修日誌」（前半/約60時間分）を環境デザイン領域研究室に郵送にて提出。

※前半（約60時間）終了後、1週間以内に提出。

②「インターンシップ研修日誌」（後半/約60時間分）を環境デザイン領域研究室に郵送にて提出。

※後半（約60時間）終了後、1週間以内に提出。

③「インターンシップ研修報告書」を環境デザイン領域研究室に郵送にて提出。

※実習終了後、2週間以内に提出。

④「インターンシップ研修レポート」を環境デザイン領域研究室に郵送にて提出。

※実習終了後、2週間以内に提出。

※「インターンシップ研修レポート表紙」を添付してください。

※本科目はテキスト科目ではありませんので、他のレポート課題には同封しないでください。

⑤成績評価（成績はⅠ～Ⅳの順で認定）

●提出書類の書式

airUマイページ＞カリキュラム一覧＞本科目ページ＞「事前課題」よりpdfファイルをダウンロードしてください。

●提出時の注意事項

- ・全ての書類提出において、最終提出締切は『2020年2月12日【必着】』です。
- ・年次を問わず、全ての最終期限が上記です。
- ・最終締切までに全ての書類を提出できるよう、実習を終えてください。
- ・郵送の際、封筒に「環境デザイン領域研究室宛」と明記すること。封筒の種類は問いません。
- ・本科目はスクーリング科目のため、テキスト課題と同封での郵送は不可。
- ・原則、年度をまたいでの実習はできません。実習の開始時期には注意すること。

受講にあたって

●持参物

実習内容に応じて各自で判断すること。

注意事項

●保険加入

- ・インターンシップガイダンス時に加入手続きを行います。
- ・実習中の不慮の事故等に備え、受講者は「学研災付帯賠償責任保険」（インターン賠）加入が必須。
[補償内容…1事故1億円限度（免責金額0円）／保険料分担金…420円（2年間有効。1年間の場合は210円）]
- ・保険料分担金は実習生が負担する（保険料分担金は後日、指定の口座より引き落としとなります）。

●実習中の注意事項

- ・実習中の勤務時間帯は、受入先事務所の就業時刻に準じる。
- ・休憩時間は実習時間から除くこと。
- ・実習中は「インターンシップ研修日誌」に出勤・退勤時間や研修内容、感想を毎日記入し、受入先建築士事務所の担当者に提出すること。

●個人情報保護等について

- ・実習中に知りえた秘密事項および個人情報については、実習期間中およびその終了後を問わず第三者に漏らさないこと。
- ・自身の個人情報管理についても十分注意を払うこと。

●インターンシップの実施時期

- ・初年度の登録申込後、6月からインターンシップの実施が可能です。※2年目は4月から可能。
- ・単年度履修のため、原則、年度をまたいでのインターンシップを実施することはできません。

S	環境デザイン実習Ⅱ (インターンシップ/建築)	科目コード： 30072
配当年次	1年次～	
単位数	4	
履修の前提条件	建築デザイン分野のみ履修可。 「環境デザイン実習Ⅰ」の実習期間終了後、履修可。 ※「環境デザイン特論Ⅲ-1」履修後が望ましい。	
開講日程・ 開講地・定員	環境デザイン実習Ⅱ 開催地：インターンシップ受入先■、受講料： ¥10,000、定員：なし	
担当者	岸川謙介*	

科目概要と到達目標

事前ガイダンス（あるいは「環境デザイン特論Ⅲ-1・2」の授業内容）により一級建築士事務所の業務内容を知った上で、実際に建築設計の実務経験が豊富な一級建築士事務所に出向き、その事務所で実施されているプロジェクトに関して、1科目（4単位）あたり120時間以上、設計図書の作成等の建築設計に関する実務実習を行う。建築設計業務を行う上で必要となる技術的知識（工法、技法、素材など）を身につけることを目的とする。

評価基準と成績評価方法

1. 業務総時間数が充たされているか。（1科目あたり120時間以上。ただし、事前ガイダンス・報告会を除く）
2. 業務内容が適切であるか。（設計図書作成補助、模型作成補助、打合参加、工事監理補助、確認申請協議補助など）
3. 業務態度が良好であるか。
4. 科目の主旨を理解し「環境デザイン実習Ⅰ」の実習成果を踏まえた学びを得ているか。
5. 実務実習を通して自分自身の設計に取り組む姿勢に関して示唆を得ているか。

上記項目をインターンシップ受け入れ先の建築士事務所によって評価・承認された報告書およびインターンシップ研修日誌・研修レポートによって総合的に評価する。

※ ガイダンス時に行う面談において担当教員は受講生のスキルなど適性を見極めるとともに、インターンシップ中の「インターンシップ研修日誌」は受入先事務所の建築士と担当教員の双方が逐次閲覧できるようにし、最終的な報告書とともに評価対象とする。

予習・復習

インターンシップは熱意と誠意を持って実務実習を継続することが、自分自身のためであるとともに受入先の事務所への最低限のマナーです。実習先の建築士の方とコミュニケーションをとりながら有意義な実務経験ができるように心掛けてください。研修後は自らの制作研究に実習成果を何かしらのかたちでフィードバックできるようにふりかえりましょう。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
------	----

課題

一級建築士事務所に出向き、その事務所で実施されているプロジェクトに関して、設計図書の作成等の建築設計の補助業務を行う。（業務総時間数は1科目あたり120時間以上。ただし、事前ガイダンス・報告会を除く。）

本科目ではインターンシップの第2段階として、与えられた業務を通して特に建物の意匠、構造、設備それぞれの計画が施主からの要求、規模、予算、工期に照らして策定に至る基本設計のプロセスと必要資料について理解を深めること。

授業計画

●インターンシップ実施方法

1. 受入先建築士事務所の調整・決定

基本的に受講者が受入先をさがすこと。

2. インターンシップを実施するための手続き

①「インターンシップ実施計画書」を環境デザイン領域研究室宛に、郵送にて提出。

・出勤予定日時の欄は現時点での予定で構いません。受入先事務所と相談の上、記入すること。

・必ず、実施の1週間前には研究室に到着するよう、提出すること。

・今年度修了予定者（M2）の「インターンシップ実施計画書」最終提出期日は、2019年12月12日【必着】。1月に実習を計画している場合も最終締切日までに提出できるように実習計画を立てること。

②「インターンシップ実施計画書」の提出後、研究室から受講者に「誓約書」を郵送。

③「誓約書（原本）」を受入先事務所に提出し、後日、「誓約書（コピー）」を環境デザイン領域研究室に郵送提出。

④受講料の引落

・「インターンシップ実施計画書」提出後は、インターンシップを行わなかった場合や途中放棄された場合でも、受講料は返金できません。

3. インターンシップの実施中および終了後の提出物

①「インターンシップ研修日誌」（前半/約60時間分）を環境デザイン領域研究室に郵送にて提出。

※前半（約60時間）終了後、1週間以内に提出。

②「インターンシップ研修日誌」（後半/約60時間分）を環境デザイン領域研究室に郵送にて提出。

※後半（約60時間）終了後、1週間以内に提出。

③「インターンシップ研修報告書」を環境デザイン領域研究室に郵送にて提出。

※実習終了後、2週間以内に提出。

④「インターンシップ研修レポート」を環境デザイン領域研究室に郵送にて提出。

※実習終了後、2週間以内に提出。

※「インターンシップ研修レポート表紙」を添付してください。

※本科目はテキスト科目ではありませんので、他のレポート課題には同封しないでください。

⑤成績評価（成績はⅠ～Ⅳの順で認定）

●提出書類の書式

airUマイページ＞カリキュラム一覧＞本科目ページ＞「事前課題」よりpdfファイルをダウンロードしてください。

●提出時の注意事項

- ・全ての書類提出において、最終提出締切は『2020年2月12日【必着】』です。
- ・年次を問わず、全ての最終期限が上記です。
- ・最終締切までに全ての書類を提出できるよう、実習を終えてください。
- ・郵送の際、封筒に「環境デザイン領域研究室宛」と明記すること。封筒の種類は問いません。
- ・本科目はスクーリング科目のため、テキスト課題と同封での郵送は不可。
- ・原則、年度をまたいでの実習はできません。実習の開始時期には注意すること。

受講にあたって

●持参物

実習内容に応じて各自で判断すること。

注意事項

●実習中の注意事項

- ・実習中の勤務時間帯は、受入先事務所の就業時刻に準じる。
- ・休憩時間は実習時間から除くこと。
- ・実習中は「インターンシップ研修日誌」に出勤・退勤時間や研修内容、感想を毎日記入し、受入先建築士事務所の担当者に提出すること。

●個人情報保護等について

- ・実習中に知りえた秘密事項および個人情報については、実習期間中およびその終了後を問わず第三者に漏らさないこと。
- ・自身の個人情報管理についても十分注意を払うこと。

●インターンシップの実施時期

- ・初年度の登録申込後、6月からインターンシップの実施が可能です。※2年目は4月から可能。
- ・単年度履修のため、原則、年度をまたいでのインターンシップを実施することはできません。

S	環境デザイン実習Ⅲ (インターンシップ/建築)	科目コード： 30073
配当年次	1年次～	
単位数	4	
履修の前提条件	建築デザイン分野のみ履修可。 「環境デザイン実習Ⅱ」の実習期間終了後、履修可。 ※「環境デザイン特論Ⅲ-1」履修後が望ましい。	
開講日程・ 開講地・定員	環境デザイン実習Ⅲ 開催地：インターンシップ受入先■、受講料： ¥10,000、定員：なし	
担当者	岸川謙介*	

科目概要と到達目標

事前ガイダンス（あるいは「環境デザイン特論Ⅲ-1・2」の授業内容）により一級建築士事務所の業務内容を知った上で、実際に建築設計の実務経験が豊富な一級建築士事務所に出向き、その事務所で実施されているプロジェクトに関して、1科目（4単位）あたり120時間以上、設計図書の作成等の建築設計に関する実務実習を行う。建築設計業務を行う上で必要となる技術的知識（工法、技法、素材など）を身につけることを目的とする。

評価基準と成績評価方法

1. 業務総時間数が充たされているか。（1科目あたり120時間以上。ただし、事前ガイダンス・報告会を除く）
2. 業務内容が適切であるか。（設計図書作成補助、模型作成補助、打合参加、工事監理補助、確認申請協議補助など）
3. 業務態度が良好であるか。
4. 科目の主旨を理解し、「環境デザイン実習Ⅱ」の実習成果を踏まえた学びを得ているか。
5. 実務実習を通して自分自身の設計に取り組む姿勢に関して示唆を得ているか。

上記項目をインターンシップ受け入れ先の建築士事務所によって評価・承認された報告書およびインターンシップ研修日誌・研修レポートによって総合的に評価する。

※ ガイダンス時に行う面談において担当教員は受講生のスキルなど適性を見極めるとともに、インターンシップ中の「インターンシップ研修日誌」は受入先事務所の建築士と担当教員の双方が逐次閲覧できるようにし、最終的な報告書とともに評価対象とする。

予習・復習

インターンシップは熱意と誠意を持って実務実習を継続することが、自分自身のためであるとともに受入先の事務所への最低限のマナーです。実習先の建築士の方とコミュニケーションをとりながら有意義な実務経験ができるように心掛けてください。研修後は自らの制作研究に実習成果を何かしらのかたちでフィードバックできるようにふりかえりましょう。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
------	----

課題

一級建築士事務所に出向き、その事務所で実施されているプロジェクトに関して、設計図書の作成等の建築設計の補助業務を行う。（業務総時間数は1科目あたり120時間以上。ただし、事前ガイダンス・報告会を除く。）

本科目ではインターンシップの第3段階として、与えられた業務を通して特に工事施工に向けた詳細の決定と図面の作成、それらに基づく見積もり調整といった実施設計のプロセスと、工事施工に必要な各種申請書類の作成などについて理解を深めること。

授業計画

●インターンシップ実施方法

1. 受入先建築士事務所の調整・決定

基本的に受講者が受入先をさがすこと。

2. インターンシップを実施するための手続き

①「インターンシップ実施計画書」を環境デザイン領域研究室宛に、郵送にて提出。

・出勤予定日時の欄は現時点での予定で構いません。受入先事務所と相談の上、記入すること。

・必ず、実施の1週間前には研究室に到着するよう、提出すること。

・今年度修了予定者（M2）の「インターンシップ実施計画書」最終提出期日は、2019年12月12日【必着】。1月に実習を計画している場合も最終締切日までに提出できるように実習計画を立てること。

②「インターンシップ実施計画書」の提出後、研究室から受講者に「誓約書」を郵送。

③「誓約書（原本）」を受入先事務所に提出し、後日、「誓約書（コピー）」を環境デザイン領域研究室に郵送提出。

④受講料の引落

・「インターンシップ実施計画書」提出後は、インターンシップを行わなかった場合や途中放棄された場合でも、受講料は返金できません。

3. インターンシップの実施中および終了後の提出物

①「インターンシップ研修日誌」（前半/約60時間分）を環境デザイン領域研究室に郵送にて提出。

※前半（約60時間）終了後、1週間以内に提出。

②「インターンシップ研修日誌」（後半/約60時間分）を環境デザイン領域研究室に郵送にて提出。

※後半（約60時間）終了後、1週間以内に提出。

③「インターンシップ研修報告書」を環境デザイン領域研究室に郵送にて提出。

※実習終了後、2週間以内に提出。

④「インターンシップ研修レポート」を環境デザイン領域研究室に郵送にて提出。

※実習終了後、2週間以内に提出。

※「インターンシップ研修レポート表紙」を添付してください。

※本科目はテキスト科目ではありませんので、他のレポート課題には同封しないでください。

⑤成績評価（成績はⅠ～Ⅳの順で認定）

●提出書類の書式

airUマイページ>カリキュラム一覧>本科目ページ>「事前課題」よりpdfファイルをダウンロードしてください。

●提出時の注意事項

- ・全ての書類提出において、最終提出締切は『2020年2月12日【必着】』です。
- ・年次を問わず、全ての最終期限が上記です。
- ・最終締切までに全ての書類を提出できるよう、実習を終えてください。
- ・郵送の際、封筒に「環境デザイン領域研究室宛」と明記すること。封筒の種類は問いません。
- ・本科目はスクーリング科目のため、テキスト課題と同封での郵送は不可。
- ・原則、年度をまたいでの実習はできません。実習の開始時期には注意すること。

受講にあたって

●持参物

実習内容に応じて各自で判断すること。

注意事項

●実習中の注意事項

- ・実習中の勤務時間帯は、受入先事務所の就業時刻に準じる。
- ・休憩時間は実習時間から除くこと。
- ・実習中は「インターンシップ研修日誌」に出勤・退勤時間や研修内容、感想を毎日記入し、受入先建築士事務所の担当者に提出すること。

●個人情報保護等について

- ・実習中に知りえた秘密事項および個人情報については、実習期間中およびその終了後を問わず第三者に漏らさないこと。
- ・自身の個人情報管理についても十分注意を払うこと。

●インターンシップの実施時期

- ・初年度の登録申込後、6月からインターンシップの実施が可能です。※2年目は4月から可能。
- ・単年度履修のため、原則、年度をまたいでのインターンシップを実施することはできません。

S	環境デザイン実習Ⅳ (インターンシップ/建築)	科目コード： 30074
配当年次	1年次～	
単位数	4	
履修の前提条件	建築デザイン分野のみ履修可。 「環境デザイン実習Ⅲ」の実習期間終了後、履修可。 ※「環境デザイン特論Ⅲ-1」履修後が望ましい。	
開講日程・ 開講地・定員	環境デザイン実習Ⅳ 開催地：インターンシップ受入先■、受講料： ¥10,000、定員：なし	
担当者	岸川謙介*	

科目概要と到達目標

事前ガイダンス（あるいは「環境デザイン特論Ⅲ-1・2」の授業内容）により一級建築士事務所の業務内容を知った上で、実際に建築設計の実務経験が豊富な一級建築士事務所に出向き、その事務所で実施されているプロジェクトに関して、1科目（4単位）あたり120時間以上、設計図書の作成等の建築設計に関する実務実習を行う。建築設計業務を行う上で必要となる技術的知識（工法、技法、素材など）を身につけることを目的とする。

評価基準と成績評価方法

1. 業務総時間数が充たされているか。（1科目あたり120時間以上。ただし、事前ガイダンス・報告会を除く）
2. 業務内容が適切であるか。（設計図書作成補助、模型作成補助、打合参加、工事監理補助、確認申請協議補助など）
3. 業務態度が良好であるか。
4. 科目の主旨を理解し、「環境デザイン実習Ⅲ」の実習成果を踏まえた学びを得ているか。
5. 実務実習を通して自分自身の設計に取り組む姿勢に関して示唆を得ているか。

上記項目をインターンシップ受け入れ先の建築士事務所によって評価・承認された報告書およびインターンシップ研修日誌・研修レポートによって総合的に評価する。

※ ガイダンス時に行う面談において担当教員は受講生のスキルなど適性を見極めるとともに、インターンシップ中の「インターンシップ研修日誌」は受入先事務所の建築士と担当教員の双方が逐次閲覧できるようにし、最終的な報告書とともに評価対象とする。

予習・復習

インターンシップは熱意と誠意を持って実務実習を継続することが、自分自身のためであるとともに受入先の事務所への最低限のマナーです。実習先の建築士の方とコミュニケーションをとりながら有意義な実務経験ができるように心掛けてください。研修後は自らの制作研究に実習成果を何かしらのかたちでフィードバックできるようにふりかえりましょう。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
------	----

課題

一級建築士事務所に出向き、その事務所で実施されているプロジェクトに関して、設計図書の作成等の建築設計の補助業務を行う。（業務総時間数は1科目あたり120時間以上。ただし、事前ガイダンス・報告会を除く。）

本科目ではインターンシップの最終段階として、与えられた業務を通して特に工事現場における監理業務、施主や施工者との交渉プロセス、事務所運営など建築士の社会的責任や技術者倫理について理解を深めること。

授業計画

●インターンシップ実施方法

1. 受入先建築士事務所の調整・決定

基本的に受講者が受入先をさがすこと。

2. インターンシップを実施するための手続き

①「インターンシップ実施計画書」を環境デザイン領域研究室宛に、郵送にて提出。

・出勤予定日時の欄は現時点での予定で構いません。受入先事務所と相談の上、記入すること。

・必ず、実施の1週間前には研究室に到着するよう、提出すること。

・今年度修了予定者（M2）の「インターンシップ実施計画書」最終提出期日は、2019年12月12日【必着】。1月に実習を計画している場合も最終締切日までに提出できるように実習計画を立てること。

②「インターンシップ実施計画書」の提出後、研究室から受講者に「誓約書」を郵送。

③「誓約書（原本）」を受入先事務所に提出し、後日、「誓約書（コピー）」を環境デザイン領域研究室に郵送提出。

④受講料の引落

・「インターンシップ実施計画書」提出後は、インターンシップを行わなかった場合や途中放棄された場合でも、受講料は返金できません。

3. インターンシップの実施中および終了後の提出物

①「インターンシップ研修日誌」（前半/約60時間分）を環境デザイン領域研究室に郵送にて提出。

※前半（約60時間）終了後、1週間以内に提出。

②「インターンシップ研修日誌」（後半/約60時間分）を環境デザイン領域研究室に郵送にて提出。

※後半（約60時間）終了後、1週間以内に提出。

③「インターンシップ研修報告書」を環境デザイン領域研究室に郵送にて提出。

※実習終了後、2週間以内に提出。

④「インターンシップ研修レポート」を環境デザイン領域研究室に郵送にて提出。

※実習終了後、2週間以内に提出。

※「インターンシップ研修レポート表紙」を添付してください。

※本科目はテキスト科目ではありませんので、他のレポート課題には同封しないでください。

⑤成績評価（成績はⅠ～Ⅳの順で認定）

●提出書類の書式

airUマイページ>カリキュラム一覧>本科目ページ>「事前課題」よりpdfファイルをダウンロードしてください。

●提出時の注意事項

- ・全ての書類提出において、最終提出締切は『2020年2月12日【必着】』です。
- ・年次を問わず、全ての最終期限が上記です。
- ・最終締切までに全ての書類を提出できるよう、実習を終えてください。
- ・郵送の際、封筒に「環境デザイン領域研究室宛」と明記すること。封筒の種類は問いません。
- ・本科目はスクーリング科目のため、テキスト課題と同封での郵送は不可。
- ・原則、年度をまたいでの実習はできません。実習の開始時期には注意すること。

受講にあたって

●持参物

実習内容に応じて各自で判断すること。

注意事項

●実習中の注意事項

- ・実習中の勤務時間帯は、受入先事務所の就業時刻に準じる。
- ・休憩時間は実習時間から除くこと。
- ・実習中は「インターンシップ研修日誌」に出勤・退勤時間や研修内容、感想を毎日記入し、受入先建築士事務所の担当者に提出すること。

●個人情報保護等について

- ・実習中に知りえた秘密事項および個人情報については、実習期間中およびその終了後を問わず第三者に漏らさないこと。
- ・自身の個人情報管理についても十分注意を払うこと。

●インターンシップの実施時期

- ・初年度の登録申込後、6月からインターンシップの実施が可能です。※2年目は4月から可能。
- ・単年度履修のため、原則、年度をまたいでのインターンシップを実施することはできません。

S	論文研究基礎	科目コード： 30079
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	なし ※c日程のみWebを用いた事前学習が必須です。Web環境を用いて学習ができない場合は受講ができません。	
開講日程・ 開講地・定員	論文研究基礎a 開催日程：2019年5月18日（土）～ 2019年5月19日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：なし 論文研究基礎b 開催日程：2019年6月22日（土）～ 2019年6月23日（日） 開催地：京都、受講料： ¥8,000、定員：なし 論文研究基礎c 開催日程：2020年2月8日（土） 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：なし	
担当者	栗本徳子*、石神裕之、井上治、野村朋弘、森田都紀	

科目概要と到達目標

「論文研究」受講の前段階として、参考文献の探し方、専門的な辞書類の活用方法を知り、参考文献を足がかりに、各自の関心に沿ったテーマを選択することが求められます。本授業では、まず参考文献の探し方、図書館の利用方法など、各自の文献検索に資する情報をガイダンスします。

そして、論文を書くためにもっとも大切なことは、探し当てた先行研究とどう向き合い、新たにどのような問題提起ができるのかということを見いだすことです。そのためには、先行研究を批判的に読むことが必要ですが、先行研究に圧倒されたり、影響を受けすぎたりしてしまうことが少なくありません。グループ討議などを活用して、先行研究を批判的に読むという態度を実践的に学習します。本授業では、参考文献の探し方、辞書類の使用方法を身につけ、先行研究を批判的に読む力を養うことを目指します。

評価基準と成績評価方法

1. 学習姿勢、受講態度（授業をよく聞いているか）
2. 授業への取り組み（演習の際、積極的に参加しているか）
3. 授業内容をふまえ試験問題に解答ができているか

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とし、主に授業への取り組みと授業時の試験による評価とします。

予習・復習

予習としてテキスト『論文の読み方・書き方』第一章を熟読しておきましょう。授業後は読んだ論文の内容を再度整理して理解することに努めましょう。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『論文の読み方・書き方』本学テキスト また、担当者作成のプリントを授業中に配付します
参考文献・URL	なし

授業計画

【a日程（東京）】

【b日程（京都）】

5月18日（土） 外苑キャンパス

6月22日（土） 瓜生山キャンパス

3講時 論文を書くということ 先行研究をどう読むか

4講時 参考文献の検索方法／図書館の利用方法／参考図書の解説

5講時 先行研究を読み較べる 実例編／論文を読むための基礎知識

5月19日（日） 外苑キャンパス

6月23日（日） 瓜生山キャンパス

1講時 グループワーク 先行研究を読み較べる

2講時 グループワーク 先行研究を読み較べる

3講時 グループ発表

4講時 グループ発表

5講時 まとめ、試験

【c日程（東京）】

●スケジュール

・事前学習について（Web）

cクラスでは対面授業の前にWebで事前学習をおこなっていただきます。

2月8日（土） 外苑キャンパス

1講時 論文を読むための基礎知識

2講時 グループワーク 先行研究を読み較べる

3講時 グループワーク 先行研究を読み較べる

4講時 グループ発表

5講時 グループ発表とまとめ、試験

受講にあたって

●持参物

・筆記用具、ノート、テキスト『論文の読み方・書き方』

●その他

・本科目は学部との合同授業となります。

・c日程は事前にWebを用いた事前学習が必須です。Web環境を用いて学習ができない場合は受講ができません。

S	超域制作学演習I	科目コード： 30085
配当年次	1年次～	
単位数	8	
履修の前提条件	なし	
開講日程・ 開講地・定員	超域制作学演習I(千住ラボ) 開催日程：2019年4月6日（土）,2019年6月2日（日）,2019年8月31日（土）～ 2019年9月2日（月）,2019年10月19日（土） 開催地：東京・香川■、受講料： ¥0、定員：なし	
担当者	千住博*、加藤淳	

科目概要と到達目標

本科目は、超域プログラム（制作学）の学生それぞれが自分の制作研究の質を高めることを目標とします。授業では、対面および遠隔通信での学生の研究報告とそれに基づく討論、教員からの講評により授業を進めます。

評価基準と成績評価方法

定期的な研究過程の報告、授業中の発表および最終的な成果物により評価します。授業での討論への参加度も評価に加えます。

評価観点は以下のとおりで、これらを全体として満足させていることが合格の条件となります。

- ・ 各自の研究・制作の目的が十分に意義あるものか。
- ・ 研究・制作の手順は妥当か。
- ・ 研究・制作経過の検証が十分になされているか。
- ・ 以上の諸点が明瞭な形で示されているか。

最終成果物が修了制作への着手に値するものであるかによって本科目の可否を判定します。

予習・復習

●予習

対面授業での発表に向けて各自の研究経過を報告できる資料を準備し、airU上にアップロードしてください。また、他の学生の報告に目を通し、必要であれば印刷して持参してきてください。

●復習

教員からの指導や学生間の討論を踏まえて、各自の研究の方向性や手法を練り直してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	公益財団法人 福武財団『Becoming』 2013年

課題

以下の制作研究報告書をairU上に提出してください。

●制作研究報告書

- 1: 制作研究の目的（何をどの程度まで達成しようとしているのか）
 - 2: その意義の考察（国内外の他の事例と比べてどのような特長があり、またその成果はどのようなことに役立つのか）
 - 3: 実現のための方法、媒体（制作のためにどのような工夫を施しているか、またなぜその方法を選んだのか）
 - 4: 現時点での進行状況と成果の見通し（自己評価と翌年度の制作計画を記してください）
- 1～4あわせて4,000-8,000字で記し、制作物の画像も添付してください。

【提出期間】

11/01 13:00:00 ～ 11/30 13:00:00

授業計画

本科目は、超域プログラム（制作学）の学生それぞれがラボでの課題に沿って自分の制作研究の質を高めることを目標とします。授業の内容としては、サイト・スペシフィック・アート制作のシミュレーションを行います。学生はみずからの選んだサイト・スペシフィック・アートに関し、自分が制作者になった場合を仮定して計画を立案します。対面および遠隔通信を併用し、学生の研究報告とそれに基づく討論、教員からの講評により授業を進めます。

●対面授業

4月6日（土）	オリエンテーション
6月2日（日）	合評会： 演習テーマ発表
8月31日（土）	合評会
9月1日（日）～9月2日（月）	実例見学会、実施計画発表（香川県・直島）
10月19日（土）	最終合評会

●遠隔授業

4月から2月まで、毎月25日までに、研究制作の途中経過を図版を添えてairU上で400字から600字で行ってください。他の学生3名以上へのコメント（感想、質問、提案など）を行ってください。

受講にあたって

●持参物

- ・描きかけの作品または最新作
- ・大きさは50号以内を1、2作
- ・5作に絞ったポートフォリオ

追加や変更がある場合は事前にairUにてお知らせまたは授業内でお伝えします。
作品については、指定された日時着でキャンパスに郵送いただきます（送料は自己負担）。

●諸経費

- ・作品の発送についての経費は各自ご負担ください。
- ・学外実習や香川県（直島）での授業の際、現地までの交通費等は、各自ご負担ください。
- ・見学科等が発生する場合は、後日指定口座より引き落としとなります。

注意事項

- ・各ラボの指定された日時の対面授業に出席してください。
- ・毎月25日までに、研究制作の途中経過を図版を添えてairU上で提出してください。
- ・最終に、制作研究報告書をairU上に提出してください。

S	超域制作学演習II	科目コード： 30086
配当年次	1年次～	
単位数	8	
履修の前提条件	なし	
開講日程・ 開講地・定員	超域制作学演習II(小笠原ラボ) 開催日程：2019年4月13日(土), 2019年7月13日(土), 2019年11月23日(土) 開催地：秋葉原■、受講料： ¥0、定員：なし	
担当者	小笠原治*、山口潤、渡邊仁史、日野圭	

科目概要と到達目標

本科目は、超域プログラム（制作学）の学生それぞれが自分の制作研究の質を高めることを目標とします。授業では、対面および遠隔通信での学生の研究報告とそれに基づく討論、教員からの講評により授業を進めます。

評価基準と成績評価方法

定期的な研究過程の報告、授業中の発表および最終的な成果物により評価します。授業での討論への参加度も評価に加えます。

評価観点は以下のとおりで、これらを全体として満足させていることが合格の条件となります。

- ・ 各自の研究・制作の目的が十分に意義あるものか。
- ・ 研究・制作の手順は妥当か。
- ・ 研究・制作経過の検証が十分になされているか。
- ・ 以上の諸点が明瞭な形で示されているか。

最終成果物が修了制作への着手に値するものであるかによって本科目の可否を判定します。

予習・復習

●予習

対面授業での発表に向けて各自の研究経過を報告できる資料を準備し、airU上にアップロードしてください。また、他の学生の報告に目を通し、必要であれば印刷して持参してください。

●復習

教員からの指導や学生間の討論を踏まえて、各自の研究の方向性や手法を練り直してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	別途指示します。

課題

以下の制作研究報告書をairU上に提出してください。

●制作研究報告書

- 1: 制作研究の目的（何をどの程度まで達成しようとしているのか）
- 2: その意義の考察（国内外の他の事例と比べてどのような特長があり、またその成果はどのようなこ

とに役立つのか)

3: 実現のための方法、媒体（制作のためにどのような工夫を施しているか、またなぜその方法を選んだのか）

4: 現時点での進行状況と成果の見通し（自己評価と翌年度制作計画を記してください）

1～4あわせて4,000-16,000字程度で記し、制作物の画像も添付してください。

【提出期間】

01/01 13:00:00 ～ 01/30 13:00:00

【提出方法】

指定書式を使用し、データにて提出すること。

授業計画

本科目では、作品をプロトタイピングするにあたり、必要な項目をすべて身につけるための学習を行います。

デザイン・機構設計・電子回路設計・ソフトウェアの各分野を学習し、自主制作でプロトタイプを制作します。

●対面授業

開催日程：

- (1) 4月13日（土）
- (2) 7月13日（土）
- (3) 11月23日（土・祝）

●遠隔授業（airU上で参照すべきURLを指示します）

Intro, Design

- ・最終課題の説明（インターネットを介して動作するもの）
- ・プロトタイピングの施設、デジタル工作機材の紹介
- ・コンピュータを用いた設計（3D）が出来るようになる。
- ・デジタル工作機械の種類、用途を知り必要に応じて習得する。（3Dプリンタ、3Dスキャナなど）

Mechanic

- ・デジタル工作機材の紹介
- ・機械を動かすための各種機構の種類及び用途を学ぶ。
- ・機構を使って動くものの設計ができる。
- ・デジタル工作機械の種類、用途を知り必要に応じて習得する。（レーザー、CNCなど）

Electronics

- ・各種マイコンボードを理解し使うことができる。
- ・センサ、アクチュエータを理解し使うことができる。
- ・回路設計・基板設計の基礎を理解する。

Software

- ・マイコンを使用するための基本的な技術を理解する
- ・インターネットと接続するための基本的な技術を理解する

semi Final project

1～4回を踏まえてハードウェアの企画、プロトタイプ制作ができるようになる。

Final Projectから逆算して開発の計画を立て、製作を進める。

必要であればその他工作機械の修得をすること。

Final project

制作発表を実施する

●研究報告

4月から1月まで、毎月25日までに、研究制作の途中経過を図版を添えてairU上で400字から600字で行ってください。他の学生へのコメント（感想、質問、提案など）を行ってください。

受講にあたって

●持参物

事前にairUにてお知らせまたは授業内でお伝えします。

注意事項

- ・各ラボの指定された日時の対面授業に出席してください。
- ・毎月25日までに、研究制作の途中経過について図版を添えてairU上で提出してください。
- ・最終に、制作研究報告書をairU上に提出してください。

S	超域制作学演習III 科目コード： 30087
配当年次	1年次～
単位数	8
履修の前提条件	なし
開講日程・ 開講地・定員	超域制作学演習III(後藤ラボ) 開催日程：2019年4月6日(土), 2019年5月25日(土)～2019年5月26日(日), 2019年8月10日(土), 2019年10月19日(土)～2019年10月20日(日), 2019年12月21日(土)～2019年12月22日(日) 開催地：東京■、受講料： ¥0、定員：なし
担当者	後藤繁雄*、深井佐和子

科目概要と到達目標

本科目は、超域プログラム（制作学）の学生それぞれが自分の研究の質を高めることを目標とします。授業では、対面および遠隔通信での学生の研究報告とそれに基づく討論、教員からの講評により授業を進めます。

評価基準と成績評価方法

定期的な研究過程の報告、授業中の発表および最終的な成果物により評価します。授業での討論への参加度も評価に加えます。

評価観点は以下のとおりで、これらを全体として満足させていることが合格の条件となります。

- ・ 各自の研究の目的が十分に意義あるものか。
- ・ 研究の手順は妥当か。
- ・ 研究経過の検証が十分になされているか。
- ・ 以上の諸点が明瞭な形で示されているか。

最終成果物が修了研究への着手に値するものであるかによって本科目の合否を判定します。

予習・復習

●予習

対面授業での発表に向けて各自の研究経過を報告できるレジュメや資料を準備し、airUマイページ上にアップロードしてください。授業当日には、出力紙を必ず持参しましょう。また、他の学生の報告に目を通し、必要であれば印刷して持参してきてください。

●復習

教員からの指導や学生間の討論を踏まえて、各自の研究の方向性や手法を練り直してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	『アート戦略/コンテンポラリーアート虎の巻』後藤繁雄、光村推古書院刊

課題

●研究経過報告書

現在の研究の進捗状況を「テーマ」「概要」および「今後の研究手順と見通し」を中心にまとめ、airU

マイページ上で提出してください。

分量は以下の通りです。書式はairUマイページ上の「スクーリング・研究経過報告 > 書式など」からダウンロードできますので、必ず指定書式を使用してください。

報告書は「論文」の形式で提出してください。

※「書式など」より以下のどちらかをダウンロードして使用してください。「表紙」とありますが、本文を記載するスペースも用意されています。

【書式】研究経過報告書 表紙（横書用）

【書式】研究経過報告書 表紙（縦書用）

【文字数】

12,000字程度

【提出期間】

11/01、13:00 ～ 11/30、13:00

授業計画

●対面授業

対面授業では、課題に対する発表とそれをめぐる討論により、基礎的な研究手法を学びます。

また、各自の研究発表に対する質疑応答や講評、また、学生相互の発表等を参考にしながら、自身の研究の方向性・手法を探ります。

ゼミの開講地において指定された全ての日程に出席してください。

4月6日（土）

オリエンテーション

5月25日（土）-5月26日（日）

コンテンポラリーアート概論I～IV、

コンテンポラリーキュレーション概論I～III

8月10日（土）

コンテンポラリーアートセオリー概論

10月19日（土）-20日（日）

コンテンポラリーアーティスト各論I、II

アートプロデュースI、II

12月21日（土）～12月22日（日）

最終合評会

<発表のレジュメの掲出>

・各回の対面授業では、授業の7日前の13:00までにairUマイページ上にレジュメ、その他参考資料を提出してください。また、レジュメや資料は授業当日に出力紙を持参してください。

・他の学生のレジュメにも目を通し、必要であれば印刷して持参してきてください。

提出場所：「スクーリング・研究経過報告 > レジュメ提出」

●遠隔授業

<研究過程の記録>

4月から2月の毎月25日までに、どこでどのような文献を調査したかといった研究経過をairUマイページ

の「研究記録」に800字程度で書き込んでください。

書き込みの不足は減点の対象となります。

「研究記録」は定期的に教員が閲覧します。また、他の学生3名以上へのコメント（感想、質問、提案など）を行ってください。

書き込み場所：「はじめに > 研究記録」

●最終成果物

＜研究経過報告書の提出＞

それまでの研究の進捗状況をまとめた「研究経過報告書」を提出します。

それらの報告書に対し、必要な場合は教員の講評指導が加えられます。報告書の提出についての詳細は「課題」欄を確認してください。

提出場所：「おわりに」

●書式

レジュメや研究経過報告書の作成においては、以下に掲載する書式を使用してください。

書式掲載場所：「スクーリング・研究経過報告 > 書式など」

受講にあたって

●持参物

・筆記用具

・発表用のレジュメや資料を持参してください（必要に応じて他の学生分も出力して持参ください）。

各自の「研究課題」の「アーティストの紹介」「作品」「自分の研究アプローチ」について、スライドも使いながら発表してもらいます。

追加や変更がある場合は事前にairUマイページにてお知らせまたは授業内でお伝えします。

●諸経費

・学外実習での授業の際、現地までの交通費等は各自負担となります。

・見学科等が発生する場合は、後日指定口座より引き落としとなります。

注意事項

・各ラボの指定された日時の対面授業に出席してください。

・各回の対面授業では、授業の7日前の13:00までにairUマイページ上にレジュメ、その他参考資料を掲出してください。また、レジュメや資料は授業当日に出力紙を持参してください。

・他の学生のレジュメにも目を通し、必要であれば印刷して持参してきてください。

・毎月25日までに、研究の途中経過をairUマイページ上で提出してください（800字程度）。

・最終に、制作研究報告書をairUマイページ上に提出してください。

S	超域制作学研究I 科目コード： 30088
配当年次	2年次～
単位数	8
履修の前提条件	修了研究・修了制作着手が許可されていること。
開講日程・ 開講地・定員	超域制作学研究I(千住ラボ) 開催日程：2019年4月6日(土), 2019年6月2日(日), 2019年8月31日(土)～2019年9月2日(月), 2019年10月19日(土) 開催地：東京・香川■、受講料： ¥0、定員：なし
担当者	千住博*、加藤淳

科目概要と到達目標

本科目は、超域プログラム（制作学）の学生それぞれが自分の制作研究の質を高めることを目標とします。授業では、対面および遠隔通信での学生の研究報告とそれに基づく討論、教員からの講評により授業を進めます。

評価基準と成績評価方法

定期的な研究過程の報告、授業中の発表および最終的な成果物により評価します。授業での討論への参加度も評価に加えます。

評価観点は以下のとおりで、これらを全体として満足させていることが合格の条件となります。

- ・ 各自の研究・制作の目的が十分に意義あるものか。
- ・ 研究・制作の手順は妥当か。
- ・ 研究・制作経過の検証が十分になされているか。
- ・ 以上の諸点が明瞭な形で示されているか。

最終成果物が修了制作に値するものであるかによって本科目の可否を判定します。

予習・復習

●予習

対面授業での発表に向けて各自の研究経過を報告できる資料を準備し、airU上にアップロードしてください。また、他の学生の報告に目を通し、必要であれば印刷して持参してきてください。

●復習

教員からの指導や学生間の討論を踏まえて、各自の研究の方向性や手法を練り直してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	公益財団法人 福武財団『Becoming』 2013年

課題

●研究課題

1. 直島や豊島など、瀬戸内国際芸術祭が開催される場所で、波止場や路地、家あるいは島の自然・歴史・文化を活かしたサイトスペシフィックアートの立案。
2. 自分が興味関心を寄せる（1）以外の特定の場所で、その場所の立地条件や自然・歴史・文化を活

かしたサイトスペシフィックアートの立案。

●学位申請論文等

学位申請論文等として以下を提出します。詳細はスクーリング時にもお知らせしますが、学位審査に関するスケジュールは『大学院ハンドブック』にも記載がありますので確認してください。

1. 修士制作作品：

作品写真を提出のこと（作品現物の提出は認めません）。

2. 制作研究ノート：

制作研究について、その概要（400字）と以下の3項目（合計8,000-16,000字）を記すこと。

1: 制作研究に至った理論的背景と制作意図。

2: 制作研究を具体化するために用いた方法論、作品形態、素材、作業過程、予算書など。

3: 国内外の他の事例と比較した、制作研究の独自性と社会的意義。

なお、概要では、研究成果の概要（上記1～3）を400字にまとめ、修了制作にかかわる代表的な図版1点を添えること。

※ 提出形態・部数・提出方法・提出締切日は、『大学院ハンドブック』を必ず確認し、規定どおりに、また遺漏のないよう期間厳守で提出してください。

授業計画

実践的なサイトスペシフィックアートの制作を目指し、それに向けた原画（プロトタイプ）としての作品の制作と、制作作品をもとにした実践的なプレゼンテーション資料の作成を目指します。完成したプレゼンテーション資料は、瀬戸内国際芸術祭や越後妻有トリエンナーレなど国際的な公募展に応募できるクオリティを目指します。対面および遠隔通信を併用し、学生の研究報告とそれに基づく討論、教員からの講評により授業を進めます。

●対面授業

4月6日（土）	オリエンテーション
6月2日（日）	合評会
8月31日（土）	合評会
9月1日（日）～9月2日（月）	事例見学会、実施計画発表（香川県・直島）
10月19日（土）	最終合評会

●遠隔授業

・4月から12月まで、毎月25日までに、研究制作の途中経過を図版を添えてairU上で400字から600字で行ってください。他の学生3名以上へのコメント（感想、質問、提案など）を行ってください。

・9月25日までに、制作研究ノートの下書きを提出すること。（本文文字数8,000字以上16,000字以内）
提出方法については「スクーリング・研究経過報告」の「[0925締切]中間提出」を参照。

●最終成果物

学位審査論文等（超域プログラム 千住ラボでは「修正制作作品および制作研究ノート」）を本科目の最終成果物とします。提出物の概要は以下のとおりですが、必ず『大学院ハンドブック』で文字数や書式、形態、部数、提出期間、提出先、提出方法などの詳細を確認し、規定どおりに、また遺漏のないよう、期間厳守で提出してください。

1. 修了制作研究ノート：本文文字数8,000字以上16,000字以内（書式等の指定あり）、作品写真含む3部
2. 修士論文等審査願 1部

※作品現物の提出は認めません。

受講にあたって

●持参物

- ・描きかけの作品または最新作
- ・大きさは50号以内を1、2作
- ・5作に絞ったポートフォリオ

追加や変更がある場合は事前にairUにてお知らせまたは授業内でお伝えします。

- ・作品については、当日ご自身で持参いただくか、指定された日時着でキャンパスに郵送いただきます（送料は自己負担）。

- ・授業終了後の作品返送について、業者発送を行う場合は西濃運輸での送付となります。

返送時の平箱や梱包材等は各自でご用意ください（送料は自己負担）。

（事前送付で使用了たものを流用するのでも可）。

●諸経費

- ・作品の発送についての経費は各自ご負担ください。
- ・学外実習や香川県（直島）での授業の際、現地までの交通費等は、各自ご負担ください。
- ・見学科等が発生する場合は、後日指定口座より引き落としとなります。

●その他

●修士論文等題目届

指導教員の承認を得たうえで「修士論文等題目届」を提出します。提出後の題目について照会は受け付けられませんので、提出前にはコピーを手元に残すようにしてください。

●修了制作展

修了制作の総まとめとして3月に瓜生山キャンパスで開催される修了制作展にパネル展示をします。

修了制作作品の出展までを修了制作の一環としていますので原則全員出展としています。

また、詳細は時期が近づきましたら対象者にお知らせします。

注意事項

- ・指定された日時の対面授業に出席してください（遅刻・欠席・早退は認められません）。
- ・毎月25日までに、研究制作の途中経過について図版を添えてairU上で提出してください。

●修士制作研究ノートの下書きの提出

9月25日13：00までに（本文文字数8,000字以上16,000字以内）に制作研究ノートの下書きの提出が必須です。

提出方法については「スクーリング・研究経過報告」の「[0925締切]中間提出」を参照。

●学位審査について

学位審査においては授業とは別に提出締切日や口頭試問が設定されています。『大学院ハンドブック』をよく確認しておいてください。

S	超域制作学研究II 科目コード： 30089
配当年次	2年次～
単位数	8
履修の前提条件	修了研究・修了制作着手が許可されていること。
開講日程・ 開講地・定員	超域制作学研究II(小笠原ラボ) 開催日程：2019年4月13日(土), 2019年7月13日(土), 2019年11月23日(土) 開催地：秋葉原■、受講料： ¥0、定員：なし
担当者	小笠原治*、山口潤、渡邊仁史、日野圭

科目概要と到達目標

本科目は、超域プログラム（制作学）の学生それぞれが自分の制作研究の質を高めることを目標とします。授業では、対面および遠隔通信での学生の研究報告とそれに基づく討論、教員からの講評により授業を進めます。

評価基準と成績評価方法

定期的な研究過程の報告、授業中の発表および最終的な成果物により評価します。授業での討論への参加度も評価に加えます。

評価観点は以下のとおりで、これらを全体として満足させていることが合格の条件となります。

- ・ 各自の研究・制作の目的が十分に意義あるものか。
- ・ 研究・制作の手順は妥当か。
- ・ 研究・制作経過の検証が十分になされているか。
- ・ 以上の諸点が明瞭な形で示されているか。

最終成果物が修了制作に値するものであるかによって本科目の可否を判定します。

予習・復習

●予習

対面授業での発表に向けて各自の研究経過を報告できる資料を準備し、airU上にアップロードしてください。また、他の学生の報告に目を通し、必要であれば印刷して持参してください。

●復習

教員からの指導や学生間の討論を踏まえて、各自の研究の方向性や手法を練り直してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	別途指示します。

課題

●学位申請論文等

学位申請論文等として以下を提出します。学位審査に関するスケジュールは『大学院ハンドブック』にも記載がありますので確認してください。

1. 修士制作作品：

作品写真や図面等を提出のこと（作品現物の提出は認めません）。

2. 制作研究ノート：

制作研究について、その概要（400字）と以下の3項目（合計8,000-16,000字以内）を記すこと。

1: 制作研究に至った理論的背景と制作意図。

2: 制作研究を具体化するために用いた方法論、作品形態、素材、作業過程、予算書など。

3: 国内外の他の事例と比較した、制作研究の独自性と社会的意義。

なお、概要では、研究成果の概要（上記1～3）を400字にまとめ、修了制作にかかわる代表的な図版1点を添えること。

※ 提出形態・部数・提出方法・提出締切日は、『大学院ハンドブック』を必ず確認し、規定どおりに、また遺漏のないよう期間厳守で提出してください。

授業計画

新たなプロダクトやサービスの社会実装を目指し、それに向けたプロトタイプの制作を実施します。制作したプロトタイプは、スタートアップが集結する展示会でデモを実施できるクオリティーを目指します。

授業は、対面および遠隔通信での学生の研究報告とそれに基づく討論、教員からの講評により進めます。

●対面授業

開催日程：

(1) 4月13日（土）

(2) 7月13日（土）

(3) 11月23日（土・祝）

●遠隔授業

各自がオンラインでコミュニケーションを取り、プロジェクトを進めてください。

Market Survey / Planning

・サービスやプロダクトを作るための市場調査および企画を行います。

Prototyping Survey

・サービスやプロダクトを実装するための調査を行います。

Team Building

・実装するためのチームを作ります。

Prototyping

・サービスやプロダクトを実装します。

・4月から12月まで、毎月25日までに、研究制作の途中経過について図版を添えてairU上で400字から600字で行ってください。他の学生3名以上へのコメント（感想、質問、提案など）を行ってください。

・9月25日までに、制作研究ノートの下書きを提出してください。字数については、最終成果物と同等のレベルを期待します。

提出方法については「スクーリング・研究経過報告」の「[0925締切]中間提出」を参照。

●最終成果物

学位審査論文等（超域プログラム 小笠原ラボでは「修正制作作品および制作研究ノート」）を本科目の最終成果物とします。提出物の概要は以下のとおりですが、必ず『大学院ハンドブック』で文字数や書式、形態、部数、提出期間、提出先、提出方法などの詳細を確認し、規定どおりに、また遺漏のないよう、期間厳守で提出してください。

1. 制作研究ノート：本文文字数8,000字以上16,000字以内（書式等の指定あり）

2. 制作物：作品写真、図面等（形態等の指定）

受講にあたって

●持参物

事前にairUにてお知らせまたは授業内でお伝えします。

●その他

●修士論文等題目届

指導教員の承認を得たうえで「修士論文等題目届」を提出します。提出後の題目について照会は受け付けられないので、提出前にはコピーを手元に残すようにしてください。

●修了制作展

修了制作の総まとめとして3月に瓜生山キャンパスで開催される修了制作展に展示をします。
修了制作作品の出展までを修了制作の一環としていますので原則全員出展としています。
また、詳細は12月ごろに対象者にお知らせします。

注意事項

●スクーリングの出席

指定された日時の対面授業に出席してください（遅刻・欠席・早退は認められません）。

●制作研究報告

毎月25日までに、研究制作の途中経過について図版を添えてairU上で提出してください。

●修士制作研究ノートの下書きの提出

9月25日13:00までに概要と（本文文字数8,000字以上16,000字以内）に制作研究ノートの下書きの提出が必須です。

提出方法については「スクーリング・研究経過報告」の「[0925締切]中間提出」を参照。

●学位審査について

学位審査においては授業とは別に提出締切日や口頭試問が設定されています。『大学院ハンドブック』をよく確認しておいてください。

S	超域制作学研究III	科目コード： 30090
配当年次	2年次～	
単位数	8	
履修の前提条件	修了研究着手が許可されていること。	
開講日程・ 開講地・定員	超域制作学研究III(後藤ラボ) 開催日程：2019年4月6日(土), 2019年5月25日(土)～2019年5月26日(日), 2019年8月10日(土), 2019年10月19日(土)～2019年10月20日(日), 2019年12月21日(土)～2019年12月22日(日) 開催地：東京■、受講料： ¥0、定員：なし	
担当者	後藤繁雄*、深井佐和子	

科目概要と到達目標

本科目は、超域プログラム（制作学）の学生それぞれが自分の研究の質を高めることを目標とします。授業では、対面および遠隔通信での学生の研究報告とそれに基づく討論、教員からの講評により授業を進めます。

評価基準と成績評価方法

定期的な研究過程の報告、授業中の発表および最終的な成果物により評価します。授業での討論への参加度も評価に加えます。

評価観点は以下のとおりで、これらを全体として満足させていることが合格の条件となります。

- ・ 各自の研究の目的が十分に意義あるものか。
- ・ 研究の手順は妥当か。
- ・ 研究経過の検証が十分になされているか。
- ・ 以上の諸点が明瞭な形で示されているか。

最終成果物が修了研究への着手に値するものであるかによって本科目の合否を判定します。

予習・復習

●予習

対面授業での発表に向けて各自の研究経過を報告できるレジュメや資料を準備し、airUマイページ上にアップロードしてください。授業当日には、出力紙を必ず持参しましょう。また、他の学生の報告に目を通し、必要であれば印刷して持参してきてください。

●復習

教員からの指導や学生間の討論を踏まえて、各自の研究の方向性や手法を練り直してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	『アート戦略/コンテンポラリーアート虎の巻』後藤繁雄、光村推古書院刊

課題

学位審査論文等（超域プログラム 後藤ラボでは「修士論文」）を本科目の最終成果物とします。提出物の概要は以下のとおりですが、必ず『大学院ハンドブック』で文字数や書式、形態、部数、提出期

間、提出先、提出方法などの詳細を確認し、規定どおりに、また遺漏のないよう、期間厳守で提出してください。

■学位申請論文等

修士論文：本文32,000字以上40,000字以内、およびその要約2,000字程度

■書式・見本

「スクーリング・研究経過報告 > 書式など」に掲載の見本データも参考にしてください。

授業計画

各自の選択した研究テーマに沿った研究発表とディスカッションを通じ、それぞれの論文執筆をサポートします。今日のさまざまな芸術状況を、世界的な視野から捉えつつ、院生ひとりひとりの強い問題意識によって、他にない独自の研究論文を仕上げるため、対面および遠隔通信を併用し、学生の研究報告とそれに基づく討論、教員からの講評により授業を進めます。

●対面授業

ゼミの開講地において指定された全ての日程に出席してください。

4月6日（土）

オリエンテーション

5月25日（土）-5月26日（日）

コンテンポラリーアート概論I～IV、

コンテンポラリーキュレーション概論I～III

8月10日（土）

コンテンポラリーアートセオリー概論

10月19日（土）-20日（日）

コンテンポラリーアーティスト各論I、II

アートプロデュースI、II

12月21日（土）～12月22日（日）

最終合評会

<発表のレジユメの掲出>

・各回の対面授業では、授業の7日前の13:00までにairUマイページ上にレジユメ、その他参考資料を掲出してください。また、レジユメや資料等は授業当日に出力紙を持参してください。

・他の学生のレジユメにも目を通し、必要であれば印刷して持参してください。

提出場所：「スクーリング・研究経過報告 > レジユメ提出」

●遠隔授業

<研究過程の記録>

4月から12月の毎月25日までに、どこでどのような文献を調査したかといった研究経過をairUマイページの「研究記録」に800字程度で書き込みを行ってください。

書き込みの不足は減点の対象となります。

「研究記録」は定期的に教員が閲覧します。また、他の学生3名以上へのコメント（感想、質問、提案など）を行ってください。

書き込み場所：「はじめに > 研究記録」

＜中間報告書の提出＞

9月25日13:00までに、中間報告書として修士論文の下書きを提出すること。また、10月のゼミでは、提出した中間報告書を出力した上で持参し、教員の指導を受けてください。

提出場所：「スクーリング・研究経過報告 > 【0925締切】中間報告書提出」

●最終成果物

＜学位審査論文等の提出＞

それまでの研究成果をまとめた「学位申請論文等」を提出します。

学位審査論文等の提出についての詳細は「課題」欄を確認してください。

●書式

レジュメや学位審査論文等の作成においては、以下に掲載する書式を使用してください。

書式掲載場所：「スクーリング・研究経過報告 > 書式など」

受講にあたって

●持参物

- ・筆記用具
- ・発表用のレジュメや資料を持参してください（必要に応じて他の学生分も出力して持参ください）。
- ・修士論文の下書き（作成途中でもよいので、ゼミにて教員の指導を受けてください）※10月のゼミでは持参必須

追加や変更がある場合は事前にairUマイページにてお知らせまたは授業内でお伝えします。

●諸経費

- ・学外実習での授業の際、現地までの交通費等は各自負担となります。
- ・見学科等が発生する場合は、後日指定口座より引き落としとなります。

●その他

- ・修了制作展

修了制作／研究の総まとめとして3月に瓜生山キャンパスで開催される修了制作展にパネル展示をします。

出展までを修了制作／研究の一環としていますので原則全員出展としています。

詳細は1月上旬に「スクーリング・研究経過報告 > 【1/18締切予定】展示パネル用データ提出」にてお知らせします。

注意事項

・学位審査においては、授業とは別に各種提出締切日や口頭試問が設定されています。『大学院ハンドブック』をよく確認しておいてください。

【9月～10月ごろ】修士論文等題目届の提出

【1月上旬ごろ】学位申請論文等の提出

【2月上旬ごろ】口頭試問

S	芸術環境特論V-1 芸術理論：芸術環境を巡る諸問題	科目コード： 30091
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	※2018年度以前に「芸術環境特論Ⅱ-1」の単位を修得済みの場合、履修できません。 ※受講にあたっては、美術史・デザイン史など、芸術学の基礎知識を学んでいることが前提です。大学で相当する科目を履修していない場合は、各自で十分に学んでおいてください。	
開講日程・ 開講地・定員	芸術環境特論V-1(芸術環境を巡る諸問題) 開催日程：2019年9月28日(土)～ 2019年9月29日(日) 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：30	
担当者	上村博	

科目概要と到達目標

「身体・国家・芸術」

今年度は地域、民族、国家のアイデンティティと芸術を巡る問題を取り上げます。芸術活動には必然的にそれが行われる場所の性格がつきまといます。他方で、意図的に芸術によって土地の性格を色づけようとすることも、また逆に土地によって芸術に味つけをしようとすることも行われています。19世紀のナショナリズムのみならず、近年の地域での芸術祭や文化創生にもかかわる、こうした芸術と土地との結びつきは、実のところ、人間の身体のとらえかたによって大きく関係性が変わってきます。本講義では、身体のはたらきが自己アイデンティティ、地域アイデンティティとどのようにかかわっているのかという問題と、そこで身体の拡張としての芸術がどのような役割を果たしているのかという問題とを、いくつかの歴史的な事例を通じて考察します。

芸術や文化がいかに社会形成に利用されてきたのかについての反省的な認識と、今後それがどのような形で社会に寄与しうるのかについて一定の知見を得ることが目標です。

評価基準と成績評価方法

1. 授業内容（およびそれに連動した課題趣旨）の理解度
2. 文章表現の明瞭さ
3. 授業内成果物で扱った題材についての考察の精度

授業中課題が上記の評価観点全体について十分なものであることを合格の基準とします。

科目の成績は授業への取り組みおよび授業中の課題により評価します。

予習・復習

予習として、ふたつの準備作業を行ってください。

- 1) 外国の土地がイラスト、ポスター、絵葉書など、どのような視覚イメージによって表現をされているのかを探してください。そして授業時に2点以上、その例となる実物ないしは複製を持ってくるください。
- 2) 郷土を表現する画像、歌詞、詩歌、映像を探し、それらが郷土のどのような要素を特に取り上げているかを考えて、授業時に他の学生に3～4分で紹介できるように準備してきてください。

復習として、授業中に示された作品や著作で関心を持ったものについては、あらためてそれを参照し、芸術と場所との関連性を個々の具体的な例に応じて考察してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	藤原貞朗『オリエンタリストの憂鬱』（めこん、2008年） 岡谷公二『絵画のなかの熱帯：ドラクロワからゴーギャンへ』（平凡社、2005年） E. サイド（板垣雄三、杉田英明監修、今沢紀子訳）『オリエンタリズム』（平凡社ライブラリー、1993年） リンダ・ノックリン（坂上桂子訳）『絵画の政治学』（彩樹社、1996年） 『美術家たちの「南洋群島」』展覧会図録（東京新聞、2008年） 栗本英世、井野瀬久美恵編『植民地経験—人類学と歴史学からのアプローチ』（人文書院、1999年） B. ノヴァック（黒沢真理子訳）『自然と文化—アメリカの風景と絵画1825-1875』（玉川大学出版部、2000年） 渡辺裕『歌う国民』（中公新書、2010年）

授業計画

9月28日（土） 外苑キャンパス（予定）

1日目 意匠としての土地、意匠としての芸術

3講時 導入、「国民の芸術」について

4講時 意匠としての土地

5講時 グループワーク（異国の色）

9月29日（日） 外苑キャンパス（予定）

2日目 身体のあるかを巡って

1講時 故郷と夢遊病

2講時 自己疎外と芸術

3講時 ふるさとの描き方

4講時 グループワーク（郷土の記念物）

5講時 まとめ／試験

※試験では、授業を受けて受講生それぞれが考えたことを400字程度でまとめていただきます。授業概要に記された授業の目標を意識するとともに、授業で扱う問題を自分の身の回り（居住地、ゆかりの土地など）に引きつけて考察しつつ受講してください。

受講にあたって

- 持参物
 - ・筆記用具
 - ・必要であればペンライトなど（プロジェクター使用時に部屋が暗くなります）

●その他

■授業の位置づけ

「芸術環境特論V-1～10」は、芸術環境研究領域に関わる諸問題を、主に芸術作品や文化資産の歴史的研究、地域の芸術遺産の調査・活用、文芸研究、芸術計画の実践という四つの視点から考察する専門性の高い講義群から構成されます。授業は、各教員のその年々の新しい研究成果を反映した講義となり、毎年、内容は更新します。各講義内容を的確に理解するとともに、本領域が扱う問題圏と研究手法を学び、自身の研究活動において深めていくことが求められます。講義の性格上、シラバスに記載した授業内容と若干変更がある場合があることをご了承ください。変更がある場合はお知らせします。

■学部生への授業開放について

本科目は、本学通信教育部芸術学部芸術学コースの学生に開放しています。そのため授業は芸術学コースの学生と一緒に受講することになります。授業では、大学院生と学部生とで課題が異なる場合があります。

S	芸術環境特論V-2 芸術理論：芸術学原論（祭礼と感性） 科目コード： 30092
配当年次	1年次～
単位数	1
履修の前提条件	※2018年度以前に「芸術環境特論Ⅱ-2」の単位を修得済みの場合、履修できません。 ※受講にあたっては、美術史・デザイン史など、芸術学の基礎知識を学んでいることが前提です。大学で相当する科目を履修していない場合は、各自で十分に学んでおいてください。
開講日程・ 開講地・定員	芸術環境特論V-2(祭礼と感性) 開催日程：2019年10月26日（土）～ 2019年10月27日（日） 開催地：京都、受講料： ￥8,000、定員：30
担当者	梅原賢一郎

科目概要と到達目標

祭りをよく観察すると、そこに、いくつかの基本的な〈宗教的身振り〉と呼べるものがあることに気づく。柳田国男は、祭りには、〈食べる〉ことが不可欠だといったが、〈食べる〉もその一つである。すなわち、食べ物（ご神饌）を神に供え、それを（お下がりとして）また皆で食べる。神人共食といわれるが、そのようにして、神と交通し交感するのである。この講義では、そのような祭りに内在する〈宗教的身振り〉をいくつか抽出し、その先に見える宇宙像や宗教的世界について哲学的に考察する。たとえば、「芸術」を遡る思索の旅である。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか
2. 授業に積極的に参加しているか
3. 試験の答案の文章表記は正しいか
4. 試験の答案で論理的な議論の展開ができているか

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とし、主に授業への取り組みと試験により総合的に評価します。

予習・復習

柔軟な思考をなによりも求めます。予習は特に必要ありませんが、以下の参考文献に目を通しておくことで授業の理解には役立つでしょう。復習としては、授業で語られたことを踏まえて、祭りについて考えてみてください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを授業中に配付します
参考文献・URL	梅原賢一郎『カミの現象学』（角川書店、2003年） 梅原賢一郎『感覚のレッスン』（角川学芸出版、2009年）

授業計画

10月26日（土） 瓜生山キャンパス
3講時 イン트로ダクション

4講時 食べる神／食べられる神

5講時 元素としての神

10月27日（日） 瓜生山キャンパス

1講時 球体としての神

2講時 憑依する神

3講時 客としての神

4講時 像としての神

5講時 まとめ／試験

受講にあたって

●持参物

筆記用具

●その他

■授業の位置づけ

「芸術環境特論V-1～10」は、芸術環境研究領域に関わる諸問題を、主に芸術作品や文化資産の歴史的
研究、地域の芸術遺産の調査・活用、文芸研究、芸術計画の実践という四つの視点から考察する専門性
の高い講義群から構成されます。授業は、各教員のその年々の新しい研究成果を反映した講義となり、
毎年、内容は更新します。各講義内容を的確に理解するとともに、本領域が扱う問題圏と研究手法を学
び、自身の研究活動において深めていくことが求められます。講義の性格上、シラバスに記載した授業
内容と若干変更がある場合があることをご了承ください。変更がある場合はお知らせします。

■学部生への授業開放について

本科目は、本学通信教育部芸術学部芸術学コースの学生に開放しています。そのため授業は芸術学コー
スの学生と一緒に受講することになります。授業では、大学院生と学部生とで課題が異なる場合があり
ます。

S	芸術環境特論V-3 芸術史：東洋芸術史の諸問題 科目コード： 30093
配当年次	1年次～
単位数	1
履修の前提条件	※2018年度以前に「芸術環境特論Ⅱ-3」の単位を修得済みの場合、履修できません。 ※受講にあたっては、美術史・デザイン史など、芸術学の基礎知識を学んでいることが前提です。大学で相当する科目を履修していない場合は、各自で十分に学んでおいてください。
開講日程・ 開講地・定員	芸術環境特論V-3(東洋芸術史の諸問題) 開催日程：2019年5月18日(土)～2019年5月19日(日) 開催地：京都、受講料：¥8,000、定員：30
担当者	金子典正

科目概要と到達目標

東洋の芸術史について理解を深めます。とりわけインドから始まる仏教美術史を中心に引き上げ、従来の研究成果を振り返りつつ、その研究方法と今後の可能性について考察します。発掘成果から知られている古代インド・ガンダーラの仏教美術、それらを取り込んで発達した中国の仏教美術、朝鮮半島や中国の美術を受容して育まれた日本の飛鳥～奈良時代の仏教美術のうちから代表的な作例を取り上げて講義を進めます。到達目標は、東洋の芸術に関する基本的な知識を身につけ、東アジアの芸術のあり方について理解を深め、研究上の様々な問題を考察する力を養うことです。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく把握・理解できているか
2. 授業に積極的に取り組んでいるか
3. 授業中の試験にしっかりと答えられているか
4. 授業中の試験の解答に誤字・脱字はないか

以上の評価基準を全体として満たしていることが合格の基準であり、授業中の取り組みと試験の結果により総合的に評価します。

予習・復習

講義前に参考文献にあげた東洋美術に関する書籍をできるだけ読んで予備知識を身につけてください。授業を終えた後は、講義ノートをふり返りながら学んだ内容をしっかりと復習してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当で作成のプリントを授業中に配付します。
参考文献・URL	高浜秀也編『世界美術大全集東洋編1～6』（小学館、1998～2000年） 金子典正『アジアの芸術史 造形篇Ⅰ 中国の美術と工芸』『アジアの芸術史 造形篇Ⅱ 朝鮮半島・西アジア・中央アジア・インド』（芸術学舎、2013年）

授業計画

5月18日(土) 瓜生山キャンパス
3講時 釈尊の生涯について

- 4講時 無仏像時代の美術
- 5講時 ガンダーラの仏伝図と本生図浮彫

5月19日（日） 瓜生山キャンパス

- 1講時 中国早期仏像
- 2講時 敦煌莫高窟
- 3講時 雲岡石窟
- 4講時 龍門石窟
- 5講時 授業のふりかえり／試験

受講にあたって

●持参物

なし

●その他

■授業の位置づけ

「芸術環境特論V-1～10」は、芸術環境研究領域に関わる諸問題を、主に芸術作品や文化資産の歴史的
研究、地域の芸術遺産の調査・活用、文芸研究、芸術計画の実践という四つの視点から考察する専門性
の高い講義群から構成されます。授業は、各教員のその年々の新しい研究成果を反映した講義となり、
毎年、内容は更新します。各講義内容を的確に理解するとともに、本領域が扱う問題圏と研究手法を学
び、自身の研究活動において深めていくことが求められます。講義の性格上、シラバスに記載した授業
内容と若干変更がある場合があることをご了承ください。変更がある場合はお知らせします。

■学部生への授業開放について

本科目は、本学通信教育部芸術学部芸術学コースの学生に開放しています。そのため授業は芸術学コー
スの学生と一緒に受講することになります。授業では、大学院生と学部生とで課題が異なる場合があり
ます。

S	芸術環境特論V-4 芸術史：近現代美術の諸相 科目コード： 30094
配当年次	1年次～
単位数	1
履修の前提条件	※2018年度以前に「芸術環境特論Ⅱ-6」の単位を修得済みの場合、履修できません。 ※受講にあたっては、美術史・デザイン史など、芸術学の基礎知識を学んでいることが前提です。大学で相当する科目を履修していない場合は、各自で十分に学んでおいてください。
開講日程・ 開講地・定員	芸術環境特論V-4(近現代美術の諸相) 開催日程：2019年4月27日（土）～ 2019年4月28日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：30
担当者	池野絢子

科目概要と到達目標

本講義では、20世紀前半のイタリア芸術を対象として、近現代芸術と社会・政治の関係性を考えます。20世紀初頭から第二次世界大戦までのイタリアの前衛芸術は、都市の近代化や二度の大戦を背景として、過去の破壊と伝統の継承という相反する欲求のあいだを揺れ動きました。本講義では、未来派からファシズム時代の諸動向までを対象として、近現代芸術において芸術表現と社会的・文化的条件がいかに関係してきたかを具体的に考察するとともに、その歴史的経緯を正しく理解することを目指します。また、広告や建築、都市計画など、狭義の造形芸術にとどまらず、広い意味での芸術／視覚文化も考察の対象とします。なおこの講義では、講義中に受講生の発言を求めることがあります。受講生には、講義で論じる諸事象についての正確な知識を獲得するだけでなく、自ら主体的に問いを見だし、考察・分析を試みる姿勢を身に付けることが求められます。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか
2. 授業に積極的に参加しているか
3. 試験での文章表記は正しいか
4. 試験で論理的な議論の展開ができているか

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。科目の成績は授業への取り組みと試験の成績により評価します。

予習・復習

イタリア美術についての特別な予備知識は必要ありませんが、概説書などであらかじめ近現代美術の流れを確認してから講義に臨むと、理解がいつそう深まるでしょう。また、復習としては、紹介した参考文献を読むことはもちろんですが、授業中に取りあげた芸術家やその作品を各種カタログ・研究書で調べると、知見がいつそう広がります。美術館や芸術祭等で実際に作品に接することも推奨します。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当作成のプリントを授業中に配付します
参考文献・URL	林洋子編『近現代の芸術史 造形篇Ⅰ 欧米のモダニズムとその後の運動』（藝術学舎、2013年）

参考文献・URL	井口壽乃、田中正之、村上博哉『西洋美術の歴史8（20世紀 越境する現代美術）』（中央公論新社、2017年） その他は授業中に随時紹介します。
----------	---

授業計画

4月27日（土） 外苑キャンパス（予定）

3講時 「イタリア」の近代芸術

4講時 未来派①

5講時 未来派②

4月28日（日） 外苑キャンパス（予定）

1講時 第一次世界大戦と芸術①

2講時 第一次世界大戦と芸術②

3講時 芸術とファシズム①

4講時 芸術とファシズム②

5講時 芸術とファシズム③／試験

受講にあたって

●持参物

筆記用具（必要であれば手元用照明をご準備ください）

●その他

■授業の位置づけ

「芸術環境特論V-1～10」は、芸術環境研究領域に関わる諸問題を、主に芸術作品や文化資産の歴史的
研究、地域の芸術遺産の調査・活用、文芸研究、芸術計画の実践という四つの視点から考察する専門性
の高い講義群から構成されます。授業は、各教員のその年々の新しい研究成果を反映した講義となり、
毎年、内容は更新されます。各講義内容を的確に理解するとともに、本領域が扱う問題圏と研究手法を学
び、自身の研究活動において深めていくことが求められます。講義の性格上、シラバスに記載した授業
内容と若干変更がある場合があることをご了承ください。変更がある場合はお知らせします。

■学部生への授業開放について

本科目は、本学通信教育部芸術学部芸術学コースの学生に開放しています。そのため授業は芸術学コー
スの学生と一緒に受講することになります。授業では、大学院生と学部生とで課題が異なる場合があり
ます。

S	芸術環境特論V-5 伝統文化の諸問題 科目コード： 30095
配当年次	1年次～
単位数	1
履修の前提条件	※2018年度以前に「芸術環境特論Ⅱ-9」の単位を修得済みの場合、履修できません。 ※受講にあたっては、美術史・デザイン史など、芸術学の基礎知識を学んでいることが前提です。大学で相当する科目を履修していない場合は、各自で十分に学んでおいてください。
開講日程・ 開講地・定員	芸術環境特論V-5(伝統文化の諸問題) 開催日程：2019年10月19日（土）～ 2019年10月20日（日） 開催地：京都、受講料： ￥8,000、定員：50
担当者	井上治

科目概要と到達目標

このスクーリングでは、日本の芸道思想におけるさまざまな研究テーマについて考察することを目的としています。和歌・連歌、能、茶道、花道、香道といったさまざまな芸道の歴史的流れを概観した上で、いくつかの芸道書を取りあげて輪読し解説します。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく理解・把握しているか
2. 授業に積極的に取り組んでいるか
3. 授業内容をふまえ試験問題に解答ができているか

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とし、主に授業への取り組みと授業時の試験による評価とします。

予習・復習

事前に参考文献などを読み、授業内容について理解を深めるようにしてください。様々な専門用語も多く出てきますので、それらについても事前に調べておきましょう。また授業の後にはあらためてノートやテキストを振り返り、学んだ内容を整理してしっかり復習してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを授業中に配付します。
参考文献・URL	『日本思想大系23・古代中世芸術論』（岩波書店、1973年）など 授業中にも随時紹介します

授業計画

10月19日（土） 瓜生山キャンパス
 3講時 インTRODクシヨン
 4講時 古代中世芸道史
 5講時 古代中世の芸道書読解（1）

10月20日（日） 瓜生山キャンパス

- 1講時 古代中世の芸道書読解（2）
- 2講時 近世芸道史
- 3講時 近世の芸道書読解（1）
- 4講時 近世の芸道書読解（2）
- 5講時 まとめ／試験

受講にあたって

●持参物

筆記用具のほか、プロジェクターで資料をお見せすることが多々あると思いますので、手元用ライトをご用意されることをお勧めします。

●その他

■授業の位置づけ

「芸術環境特論V-1～10」は、芸術環境研究領域に関わる諸問題を、主に芸術作品や文化資産の歴史的
研究、地域の芸術遺産の調査・活用、文芸研究、芸術計画の実践という四つの視点から考察する専門性
の高い講義群から構成されます。授業は、各教員のその年々の新しい研究成果を反映した講義となり、
毎年、内容は更新されます。各講義内容を的確に理解するとともに、本領域が扱う問題圏と研究手法を学
び、自身の研究活動において深めていくことが求められます。講義の性格上、シラバスに記載した授業
内容と若干変更がある場合があることをご了承ください。変更がある場合はお知らせします。

■学部生への授業開放について

本科目は、本学通信教育部芸術学部和の伝統文化コースの学生に開放しています。そのため授業は和の
伝統文化コースの学生と一緒に受講することになります。授業では、大学院生と学部生とで課題が異な
る場合があります。

S	芸術環境特論V-6 外国文学a	科目コード： 30096
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	※2018年度以前に「芸術環境特論Ⅱ-7」の単位を修得済みの場合、履修できません。 ※受講にあたっては、美術史・デザイン史など、芸術学の基礎知識を学んでいることが前提です。大学で相当する科目を履修していない場合は、各自で十分に学んでおいてください。	
開講日程・ 開講地・定員	芸術環境特論V-6(外国文学a) 開催日程：2019年10月12日（土）～ 2019年10月13日（日） 開催地：京都、受講料： ￥8,000、定員：30	
担当者	大辻都*、河田学	

科目概要と到達目標

外国文学（あるいは世界文学）をいかに読みこなすか。あまりに大きな領域を前に、とまどう人も多いかもしれません。この科目は、外国文学という深い森を、いくつかの小径にそって、歩きめぐる試みです。それには、従来の文学全集的な価値観にはこだわらず、古典はもとより、一般に知られていない文学や最新の傾向も視野に入れていきます。また複数の作品を「系譜」にしたがって読みあわせていくことによって、俯瞰も試みます。

なぜ外国文学を読むのか。まず、我々がふだん親しんでいる文学の源がそこにあるからです。そして、文学の新しい試みや流れが、そこにあるからです。

しかし一番の理由は、限らない楽しみが見出せるからです。さまざまな人間、風景、感覚、色彩にめぐりあい、外国文学の豊穡な魅力を発見することがこの科目の目標です。

評価基準と成績評価方法

1. 授業に積極的に取り組んでいるか。
2. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか。
3. 学習したことと独自の視点が試験の答案に反映しているか。
4. 試験の答案が日本語表記として適切で、筋道の通った論述になっているか。

本科目は、授業への取り組み、および授業時試験を総合的に判断して成績評価を行います。

予習・復習

予習として授業計画にあげられている作品のいくつかを読んでください。
復習として授業で取り扱われた作品や配布された資料を読み直してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを授業中に配付します
参考文献・URL	なし

授業計画

10月12日（土） 瓜生山キャンパス 担当者：河田学
3講時 近代小説（ノヴェル）の誕生：ダニエル・デフォー『ロビンソン・クルーソー』

- 4講時 小説の円熟期：ジェイン・オースティン『エマ』
5講時 小説から芸術へ：ヘンリー・ジェイムズ『ねじの回転』

10月13日（日） 瓜生山キャンパス 担当者：大辻都

- 1講時 近代小説の誕生：セルバンテス『ドン・キホーテ』
2講時 時間と記憶：プルースト『失われた時を求めて』
3講時 場所と物語：フォークナー『響きと怒り』
4講時 他者の想像力：ポストコロニアル文学以後
5講時 まとめ／試験

受講にあたって

●持参物
筆記用具

●その他

■授業の位置づけ

「芸術環境特論V-1～10」は、芸術環境研究領域に関わる諸問題を、主に芸術作品や文化資産の歴史的
研究、地域の芸術遺産の調査・活用、文芸研究、芸術計画の実践という四つの視点から考察する専門性
の高い講義群から構成されます。授業は、各教員のその年々の新しい研究成果を反映した講義となり、
毎年、内容は更新します。各講義内容を的確に理解するとともに、本領域が扱う問題圏と研究手法を学
び、自身の研究活動において深めていくことが求められます。講義の性格上、シラバスに記載した授業
内容と若干変更がある場合があることをご了承ください。変更がある場合はお知らせします。

■学部生への授業開放について

本科目は、本学通信教育部芸術学部文芸コースの学生に開放しています。そのため授業は文芸コースの
学生と一緒に受講することになります。授業では、大学院生と学部生とで課題が異なる場合がありま
す。

S	芸術環境特論V-7 外国文学b	科目コード： 30097
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	※2018年度以前に「芸術環境特論Ⅱ-8」の単位を修得済みの場合、履修できません。 ※受講にあたっては、美術史・デザイン史など、芸術学の基礎知識を学んでいることが前提です。大学で相当する科目を履修していない場合は、各自で十分に学んでおいてください。	
開講日程・ 開講地・定員	芸術環境特論V-7(外国文学b) 開催日程：2019年10月5日（土）～ 2019年10月6日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：30	
担当者	田中尚史	

科目概要と到達目標

外国文学（あるいは世界文学）をいかに読みこなすか。あまりに大きな領域を前に、とまどう人も多いかもしれません。この科目は、外国文学という深い森を、いくつかの小径にそって、歩きめぐる試みです。それには、従来の文学全集的な価値観にはこだわらず、古典はもとより、一般に知られていない文学や最新の傾向も視野に入れていきます。また複数の作品を「系譜」にしたがって読みあわせていくことによって、俯瞰も試みます。

なぜ外国文学を読むのか。まず、我々がふだん親しんでいる文学の源がそこにあるからです。そして、文学の新しい試みや流れが、そこにあるからです。

しかし一番の理由は、限らない楽しみが見出せるからです。さまざまな人間、風景、感覚、色彩にめぐりあい、外国文学の豊穡な魅力を発見することがこの科目の目標です。

評価基準と成績評価方法

1. 授業に積極的に取り組んでいるか。
2. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか。
3. 学習したことと独自の視点が試験の答案に反映しているか。
4. 試験の答案が日本語表記として適切で、筋道の通った論述になっているか。

本科目は、授業への取り組み、および授業時試験を総合的に判断して成績評価を行います。

予習・復習

予習として授業計画にあげられている作品のいくつかを読んでください。
 復習として授業で取り扱われた作品や配布された資料を読み直してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当者作成のプリントを授業中に配付します。
参考文献・URL	なし

授業計画

10月5日（土） 外苑キャンパス（予定）
 物語を駆動するものとはなにか。テーマ、設定、文体、会話、伏線、さまざまな要素に着目しながら、

外国文学の手法を読み解きます。

3講時 ジャック・ケルアック『路上』

4講時 マヌエル・プイグ『蜘蛛女のキス』

5講時 ウラジミール・ナボコフ『ロリータ』

10月6日（日） 外苑キャンパス（予定）

1講時 フィリップ・K・ディック『高い城の男』

2講時 レイモンド・チャンドラー『長いお別れ』

3講時 アリス・マンロー『イラクサ』

4講時 ジュンパ・ラヒリ『停電の夜に』

5講時 ディスカッション／試験

受講にあたって

●持参物

筆記用具

●その他

■授業の位置づけ

「芸術環境特論V-1～10」は、芸術環境研究領域に関わる諸問題を、主に芸術作品や文化資産の歴史的
研究、地域の芸術遺産の調査・活用、文芸研究、芸術計画の実践という四つの視点から考察する専門性
の高い講義群から構成されます。授業は、各教員のその年々の新しい研究成果を反映した講義となり、
毎年、内容は更新します。各講義内容を的確に理解するとともに、本領域が扱う問題圏と研究手法を学
び、自身の研究活動において深めていくことが求められます。講義の性格上、シラバスに記載した授業
内容と若干変更がある場合があることをご了承ください。変更がある場合はお知らせします。

■学部生への授業開放について

本科目は、本学通信教育部芸術学部文芸コースの学生に開放しています。そのため授業は文芸コースの
学生と一緒に受講することになります。授業では、大学院生と学部生とで課題が異なる場合がありま
す。

S	芸術環境特論V-8 芸術史：日本芸術史の諸問題 科目コード： 30098
配当年次	1年次～
単位数	1
履修の前提条件	※2018年度以前に「芸術環境特論Ⅱ-4」の単位を修得済みの場合、履修できません。 ※受講にあたっては、美術史・デザイン史など、芸術学の基礎知識を学んでいることが前提です。大学で相当する科目を履修していない場合は、各自で十分に学んでおいてください。
開講日程・ 開講地・定員	芸術環境特論V-8(日本芸術史の諸問題) 開催日程：2019年4月20日（土）～ 2019年4月21日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：30
担当者	三上美和

科目概要と到達目標

日本芸術史の諸問題について、特に近代の芸術の蒐集者（コレクター）、支援者（パトロン）であった原三溪を取り上げ、三溪を手がかりに近代美術史の重要な問題について論じます。三溪は自筆の美術蒐集記録を残しているため、旧蔵美術品が具体的に分かる点で希有な存在といえます。芸術の蒐集者、コレクターについて、日本近代美術史では従来あまり掘り下げられていませんが、三溪を軸に見ていくことで当時の美術を取り巻く様相が明らかになります。明治から昭和初期を中心とした日本近代美術史の流れのなかで、芸術家、蒐集者、支援者、批評家といった多角的な視点を学び、自己の研究における柔軟かつ独特な思考方法を身につけることを到達目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか
2. 授業に積極的に参加しているか
3. 試験の答案の文章表記は正しいか
4. 試験の答案で論理的な議論の展開ができているか
5. 試験の答案に独自の視点や新しい知見が認められるか
6. 文献などの情報や資料を活用できているか

以上の評価観点を全体として満たしていることが合格の基準であり、主に授業への取り組みと授業時試験により総合的に評価します。

予習・復習

日本美術史の一般的な通史（栗本徳子編『日本の芸術史造形篇Ⅱ 飾りと遊びの豊かなかたち』藝術学舎、2013年、林洋子編『近現代の芸術史造形篇Ⅱ アジア・アフリカと新しい潮流』藝術学舎、2013年、辻惟雄編『カラー版日本美術史』美術出版社、2002年等）の近代の箇所を事前に読んでおくこと。講義のあとは授業の内容をよく振り返ってください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし（授業中に適宜指示します）
参考文献・URL	田中日佐夫『美術品移動史』（日本経済新聞社出版局、1981年） 日本美術院百年史編纂委員会編『日本美術院百年史』4巻（日本美術院、1994年）

参考文献・URL

佐藤道信『明治国家と近代日本』（吉川弘文館、1999年）
三上美和『原三溪と日本近代美術』（国書刊行会、2017年）

授業計画

4月20日（土） 外苑キャンパス（予定）

- 3講時 原三溪と三溪園
- 4講時 古美術の蒐集者として
- 5講時 近代美術の蒐集者として

4月21日（日） 外苑キャンパス（予定）

- 1講時 近代美術の支援者として（1）
- 2講時 近代美術の蒐集者として（2）
- 3講時 三溪旧蔵作品の検討
- 4講時 次世代の支援者と三溪
- 5講時 まとめ／試験

受講にあたって

●持参物

筆記用具

●その他

■授業の位置づけ

「芸術環境特論V-1～10」は、芸術環境研究領域に関わる諸問題を、主に芸術作品や文化資産の歴史的
研究、地域の芸術遺産の調査・活用、文芸研究、芸術計画の実践という四つの視点から考察する専門性
の高い講義群から構成されます。授業は、各教員のその年々の新しい研究成果を反映した講義となり、
毎年、内容は更新します。各講義内容を的確に理解するとともに、本領域が扱う問題圏と研究手法を学
び、自身の研究活動において深めていくことが求められます。講義の性格上、シラバスに記載した授業
内容と若干変更がある場合があることをご了承ください。変更がある場合はお知らせします。

■学部生への授業開放について

本科目は、本学通信教育部芸術学部芸術学コースの学生に開放しています。そのため授業は芸術学コー
スの学生と一緒に受講することになります。授業では、大学院生と学部生とで課題が異なる場合があり
ます。

S	芸術環境特論V-9 芸術史：西洋芸術史の諸問題 科目コード： 30099
配当年次	1年次～
単位数	1
履修の前提条件	※2018年度以前に「芸術環境特論Ⅱ-5」の単位を修得済みの場合、履修できません。 ※受講にあたっては、美術史・デザイン史など、芸術学の基礎知識を学んでいることが前提です。大学で相当する科目を履修していない場合は、各自で十分に学んでおいてください。
開講日程・ 開講地・定員	芸術環境特論V-9(西洋美術史の諸問題) 開催日程：2019年12月21日(土)～ 2019年12月22日(日) 開催地：京都、受講料： ¥8,000、定員：30
担当者	岡田温司

科目概要と到達目標

「芸術と精神分析」

芸術作品の創造に無意識はいかにかかわっているのか。また、芸術作品を鑑賞し解釈するうえで精神分析はどこまで有効なのか。フロイトを中心にみなさんと考えてみたい。

評価基準と成績評価方法

1. 授業の趣旨を正しく把握・理解しているか
2. 授業に積極的に参加しているか
3. 試験の答案で文章表記は正しいか
4. 試験の答案で論理的な議論の展開ができているか

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。科目の成績は授業への取り組みと授業時試験により総合的に評価します。

予習・復習

講義前に西洋美術に関する書籍をできるだけ読んで予備知識を身につけてください。授業を終えた後は講義ノートをふり返りながら学んだ内容をしっかりと復習して、レポートの作成に向けて準備してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	岡田温司『フロイトのイタリア』（平凡社、2008年）

授業計画

- 12月21日(土) 瓜生山キャンパス
 3講時 フロイト以前——芸術・狂気・夢
 4講時 フロイトの精神分析の形成1——イタリア旅行と芸術
 5講時 フロイトの精神分析の形成2——イタリア旅行と芸術

12月22日(日) 瓜生山キャンパス

- 1講時 フロイトによるレオナルド解釈
- 2講時 フロイトによるミケランジェロ解釈
- 3講時 レオナルド VS ミケランジェロ
- 4講時 フロイト以後における芸術と精神分析の関係 1
- 5講時 フロイト以後における芸術と精神分析の関係 2 / 試験

受講にあたって

●持参物

筆記用具、参考文献（購入者のみ）

●その他

■授業の位置づけ

「芸術環境特論V-1～10」は、芸術環境研究領域に関わる諸問題を、主に芸術作品や文化資産の歴史的
研究、地域の芸術遺産の調査・活用、文芸研究、芸術計画の実践という四つの視点から考察する専門性
の高い講義群から構成されます。授業は、各教員のその年々の新しい研究成果を反映した講義となり、
毎年、内容は更新します。各講義内容を的確に理解するとともに、本領域が扱う問題圏と研究手法を学
び、自身の研究活動において深めていくことが求められます。講義の性格上、シラバスに記載した授業
内容と若干変更がある場合があることをご了承ください。変更がある場合はお知らせします。

■学部生への授業開放について

本科目は、本学通信教育部芸術学部芸術学コースの学生に開放しています。そのため授業は芸術学コー
スの学生と一緒に受講することになります。授業では、大学院生と学部生とで課題が異なる場合があり
ます。

S	芸術環境特論VI-1 社会教育としての芸術	科目コード： 30101
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	※2018年度以前に「芸術環境特論IV-1」の単位を修得済みの場合、履修できません。	
開講日程・ 開講地・定員	芸術環境特論VI-1 開催日程：2019年7月20日（土）～ 2019年7月21日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：30	
担当者	松井利夫、上村博、ほか	

科目概要と到達目標

「社会をつくる、芸術をつくる」

本科目には2種の目標があります。ひとつは社会のなかでの芸術のありかたを反省し、今日の可能性を考察すること、もうひとつは芸術のありかたとして、手を動かしてモノと関わることで、自分の存在を開いていく可能性を探ることです。

そのため、初日は、芸術という社会制度の歴史的な経緯を振り返るとともに、ひと、もの、地域をかたちづくる行為としての芸術の可能性を探究します。

また2日目のグループワークでは、モノと関わるワークショップを経験し、素材と手わざの意義を捉えなおします。

評価基準と成績評価方法

- ・授業の趣旨と内容の理解
- ・授業への積極的な参加
- ・試験での視点の独自性および表現の明快さ

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。

科目の成績は授業への取り組みおよび試験により評価します。

予習・復習

授業前に、それぞれの関わったことのある芸術活動について紹介・発表できるようにまとめておいてください。講義後には、グループワーク時の成果を自分の活動と照らし合わせて反省すると共に、授業中に話題に挙がった著作や事例のなかで関心を持ったものについてより詳しく調査し、今後の活動に生かしてください。

なお、試験では授業中に得られたものについてまとめていただきますので、科目の到達目標を意識しつつ授業に臨んでください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	授業中に随時紹介します

授業計画

●スケジュール

7月20日（土） 外苑キャンパス（予定）

3講時 芸術概念の変遷

4講時 学校教育と文化遺産における芸術

5講時 社会教育としての芸術

7月21日（日） 外苑キャンパス（予定）

1～2講時 松井利夫教員の活動紹介とワークショップ

3～5講時 合評とディスカッション、試験

受講にあたって

●持参物

筆記用具

●諸経費

・2日目ワークショップ教材代として2,000円程度が別途必要です。後日、指定口座より引き落としとなります。

S	芸術環境特論VI-4 地域芸術資源の発掘 科目コード： 30104
配当年次	1年次～
単位数	1
履修の前提条件	なし
開講日程・ 開講地・定員	芸術環境特論VI-4 開催日程：2019年10月26日（土）～ 2019年10月27日（日） 開催地：大阪■、受講料： ¥10,500、定員：30
担当者	伊達伸明*

科目概要と到達目標

石ころ拾って地域創造

本科目では、身の回りの地域資源を探索し、それをもとに芸術活動や芸術教育の可能性を拓ける方法を実践的に学びます。川原に転がっている石は、一見何の変哲もないものですが、その実、人間の活動が依拠する土地の自然環境の歴史をありありと示してくれるものでもあります。そのような、いわば物言わぬ風土記のドキュメントである石を読み解き、人間と環境とのありかたを見つめ直すきっかけを提供することも、芸術活動の役割として大いに期待できます。授業では、実際に石の探索や採取を経て、そこからどのような芸術的展開が可能なのかを、参加者のプランニングの相互レビューを通じて考察します。地域資源の発見と活用について、既存の芸術観にとらわれない思考法を手に入れることが授業目標です。

評価基準と成績評価方法

- ・授業の趣旨と内容の理解
- ・授業への積極的な参加態度
- ・発表内容の独自性および表現の明快さ

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。

予習・復習

下記Webサイトを参照し、訪問先や担当教員の活動について予習しておいてください。スクリーンで授業終了後は、授業で体験した方法を各自の得意とする分野に引きつけて、何かでできるのかを考察してください。また授業の後にはあらためてノートやテキストをふり返り、学んだ内容を整理してしっかり復習してください。

テキストと参考文献・URL

テキスト	担当作成のプリントを授業中に配付します
参考文献・URL	「とつとつとした点描—美術家・伊達伸明さんの仕事」『アネモメトリ』26号 http://magazine.air-u.kyoto-art.ac.jp/feature/79/ 「雲根志 ～国立国会図書館デジタルコレクション」 http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2563667 「神戸で、都市伝説がテーマの展覧会」 https://www.lmaga.jp/news/2017/02/20454/ 仙台セントラルパーク

授業計画

河原にはさまざまな地域情報が含まれており、豊富な種類の鉱物からは地形のなりたちや鉱物資源の存在を、または化石や土器片などからは上流域の古代史や古代の植生などを垣間見ることができます。また人は古来、人智を超えた出来事との因縁を見出した奇岩・巨岩に名前をつけて祀るなどして、大地と人間とのつながりを後世に語り継いできました。石には地域の民俗史や潜在力をひもとくヒントが数多く含まれているといっても過言ではありません。

今回の授業では、まず河原で石をじっくり観察してその造形や色の不思議さを味わい、平行して風景の読み取りを行います。その後、地質や地域史の講義をもとに風土や今に至る生活史、民話の成り立ちなどのリサーチを行ない、土地の特徴を盛り込んだ「現代の民話」の創作を目指します。

現在、メディアを駆使して土地の魅力を発信する方法が各地で数多く試みられていますが、観光産業を中心とした事実情報のみを伝えるそれらの発信方法を見直し、「もの語る」という原点に立ち戻って、創作を含んだ伝承法の可能性と重要性について考察します。

●事前課題

全国の石に関する言い伝えや民話を検索し、内容の写しを5話以上持参すること
書式等自由

●スケジュール

10月26日（土） 1日目 学外（大阪府内） 大阪サテライトキャンパス

09:30-10:00 近鉄「大阪阿部野橋」駅集合後「道明寺」駅へ移動

10:00-12:00 道明寺地域にてフィールドワーク、石の観察

13:00-14:30 各自昼食後、道明寺駅改札口に再集合し、周辺（寺社・古墳等）を見学

14:30-16:30 大阪サテライトキャンパスへ移動

地域に関する講義

10月27日（日） 2日目 大阪サテライトキャンパス

1講時 リサーチ

2講時 リサーチ・民話創作

3講時 民話創作・伝達方法の考案

4講時 発表／講評

受講にあたって

●持参物

- ・筆記具、収集物を入れるビニール袋、軍手やデジタルカメラ等現地取材に必要なもの
- ・色鉛筆、マーカー等の簡単な彩色用具（最終成果物を絵本などにする場合）

●諸経費

- ・「大阪阿部野橋」から「道明寺」への移動交通費、「道明寺」から大阪サテライトキャンパスへの移動交通費は各自清算してください。

●その他

- ・1日目のフィールドワークは小雨決行（荒天時は事前に対応を連絡します）。天候の変化に対応できる服装やスニーカー、リュックサックなどのフィールドワーク適した服装で参加してください。
- ・1日目は学外研修の為、スケジュールが変更になる可能性があります。

S	環境デザイン特論Ⅳ－3	科目コード： 30105
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	建築デザイン分野のみ履修可	
開講日程・ 開講地・定員	環境デザイン特論Ⅳ－3 開催日程：2019年5月18日（土）～ 2019年5月19日（日） 開催地：京都、受講料： ￥8,000、定員：30	
担当者	横内敏人*、岸和郎*、鎌田秀章、豊田保之、安部秀司	

科目概要と到達目標

設計事務所における具体的な業務や設計に臨む態度、実務のプロセスにおける留意点、工事監理の現実的諸問題などに加え、法規や施工、生産に関して具体例に沿った技術的知識を習得する。また、建築現場や建築物の具体例を実地に見学し、建築設計施工の責任の大きさと技術の現在を体感する。建築設計業務を行う上で必要となる技術的知識（技術者倫理、施工の手順、生産の実際、工事監督の要点等）を身につけることを本授業の目的・目標に据える。

評価基準と成績評価方法

- ・講義における重要点を十分理解しているか。
- ・講義や見学で得た知見を技術的知識として定着できているか。

上記項目を総合的に評価する。

予習・復習

授業時の直接対面指導をより効果的なものにするために、不足している知見を事前に十分補い、授業に臨む環境を整えておくこと。授業終了後は、授業時に得たアドバイスを速やかに整理し実践することで次の段階へ結びつける準備を進めること。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	なし

課題

●スクーリングレポート

1. 課題：課題内容はスクーリングにて発表
2. 書式・文字数：A4判・ヨコ書き／1,200～1,600字程度（図表・写真等の添付も可）
3. 提出締切日：5月29日（水）【必着】※airUでの提出は13時まで
4. 提出先：

郵送提出「通信教育部教務課」宛て

窓口提出 瓜生山キャンパス人間館中2階 通信教育部事務局窓口（窓口受付時間内）

※airUマイページから提出する場合は、airU＞本科目ページ＞「事後課題」欄よりpdfファイルで提出

をしてください。
※スクリーングレポートの添削指導や返却は行いません。

授業計画

●1日目（1日目は2講時より開始）

- 2講時 講義（建築現場および建築見学地にて）
- 3講時 講義（素材・構造設計の実務）
- 4講時 講義（設計事務所の実務）
- 5講時 講義（設備設計の実務）

●2日目

- 1講時 講義（建築現場および建築見学地にて）
- 2講時 講義（素材・構造設計の実務）
- 3講時 講義（設計事務所の実務）
- 4講時 講義（法規について）

受講にあたって

●持参物

集合場所等のスケジュール参照（「環境デザイン演習（建築デザイン）」または「環境デザイン研究（建築デザイン）」の【事務局・教員からのお知らせ】に掲載します）。

●諸経費

現場・建築見学等での入場料が発生する場合や、現地までの交通費は各自ご負担ください。実地見学でマイクロバスを使用する場合は後日指定の口座より引き落としとなります。

Q&A

Q1.

A1.

注意事項

このスクリーングは申込手続きが必要です。春期（4, 5, 6月）の申込期間内に所定の申込手続きをおこなってください、先行募集申込は3/26～3/30です。詳細は『学習ガイド』pp. 50～52を参照してください。

また、集合場所等のスケジュールは、「環境デザイン演習（建築デザイン）」または「環境デザイン研究（建築デザイン）」の【事務局・教員からのお知らせ】に掲載しますので、受講前に必ず確認してください。

■開催地の変更について（2019/4/25）

「環境デザイン特論Ⅳ-3」は当初京都での開講を予定していましたが、4/6（土）開催の「環境デザイン演習（建築デザイン）」および「環境デザイン研究（建築デザイン）」内のオリエンテーションで教員より案内のありました通り、二日間とも愛知県での開催となります。詳細は上記【事務局・教員からのお知らせ】を4/26に更新予定ですのでご確認ください。

S	環境デザイン特論IV-4	科目コード： 30106
配当年次	1年次～	
単位数	1	
履修の前提条件	建築デザイン分野のみ履修可	
開講日程・ 開講地・定員	環境デザイン特論IV-4 開催日程：2019年10月12日（土）～ 2019年10月13日（日） 開催地：東京■、受講料： ¥10,500、定員：30	
担当者	堀部安嗣*、伊藤寛*、丸山弾、及川敦子	

科目概要と到達目標

設計事務所における具体的な業務や設計に臨む態度、実務のプロセスにおける留意点、工事監理の現実的諸問題などに加え、法規や施工、生産に関して具体例に沿った技術的知識を習得する。また、建築現場や建築物の具体例を実地に見学し、建築設計施工の責任の大きさと技術の現在を体感する。建築設計業務を行う上で必要となる技術的知識（技術者倫理、施工の手順、生産の実際、工事監督の要点等）を身につけることを本授業の目的・目標に据える。

評価基準と成績評価方法

- ・講義における重要点を十分理解しているか。
- ・講義や見学で得た知見を技術的知識として定着できているか。

上記項目を総合的に評価する。

予習・復習

授業時の直接対面指導をより効果的なものにするために、不足している知見を事前に十分補い、授業に臨む環境を整えておくこと。授業終了後は、授業時に得たアドバイスを速やかに整理し実践することで次の段階へ結びつける準備を進めること。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	なし

課題

●スクーリングレポート

1. 課題：課題内容はスクーリングにて発表
2. 書式・文字数：A4判・ヨコ書き／1,200～1,600字程度（図表・写真等の添付も可）
3. 提出締切日：10月23日（水）【必着】※airUでの提出は13時まで
4. 提出先：

郵送提出「通信教育部教務課」宛て

窓口提出 瓜生山キャンパス人間館中2階 通信教育部事務局窓口（窓口受付時間内）

※airUマイページから提出する場合は、airU＞本科目ページ＞「事後課題」欄よりpdfファイルで提出をしてください。

※スクーリングレポートの添削指導や返却は行いません。

授業計画

●1日目（1日目は2講時より開始）

2講時 講義（建築現場および建築見学地にて）

3講時 講義（素材・構造設計の実務）

4講時 講義（設計事務所の実務）

5講時 講義（設備設計の実務）

●2日目

1講時 講義（建築現場および建築見学地にて）

2講時 講義（素材・構造設計の実務）

3講時 講義（設計事務所の実務）

4講時 講義（法規について）

受講にあたって

●持参物

集合場所等のスケジュール参照（「環境デザイン演習（建築デザイン）」または「環境デザイン研究（建築デザイン）」の【事務局・教員からのお知らせ】に掲載します）。

●諸経費

現場・建築見学等での入場料が発生する場合や、現地までの交通費は各自ご負担ください。実地見学でマイクロバスを使用する場合は後日指定の口座より引き落としとなります。

Q&A

Q1.

A1.

注意事項

このスクーリングは申込手続きが必要です。秋期（10, 11, 12月）の申込期間内に所定の申込手続きをおこなってください、先行募集申込は8/17～8/26です。詳細は『学習ガイド』pp. 50～52を参照してください。また、集合場所等のスケジュールは、「環境デザイン演習（建築デザイン）」または「環境デザイン研究（建築デザイン）」の【事務局・教員からのお知らせ】に掲載しますので、受講前に必ず確認してください。

TX	芸術環境原論 I	科目コード： 30602
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題	
課題提出形態	郵送・窓口	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】 05/11～05/20 【8/20締切分】 08/11～08/20 【11/20締切分】 11/11～11/20 【2/20締切分】 02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	無	
担当者	松井利夫*、上村博、松尾恵、田所克庸、中村裕太	

科目概要と到達目標

芸術環境という語は決して明確な定義づけのもとに使用されてはいません。芸術環境は自明のものとして与えられるわけではなく、人間の活動が周囲との相互作用のなかで生み出されるものです。本科目では、履修者それぞれの居住地における「芸術環境」を発見することが目的となります。「美」は発見されることを待っています。「美」の発現する場を発見し、それを形にすることをとおして、「芸術」を「生きる」ことの意味を考えます。そのため、本科目の課題としては、各自が身の回りの芸術的な経験を見出し、記述するとともに、それを一定のフォーマットにまとめ、図示し、あわせて世界史的な文脈のなかでその経験を位置づけることを試みてもらいます。

評価基準と成績評価方法

- ・未だ芸術として価値付けられていないものを発見する能力があるか。
- ・先行研究や文献を読みとる能力があるか。
- ・そしてそれを自分の言葉で人に伝えることができるか。

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。
本科目の成績評価は課題の評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	なし

第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	A4クリアブック（＝透明式ポケットファイル）に以下を入れて一括送付 1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2. 課題3種
-----------------	--

初回提出物 (一括送付)	3. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手貼付）
再提出物 (一括送付)	1. 再提出課題 2. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 3. 前回提出（=D評価）の添削指導評価書（添削文含む）および課題〔注〕 4. 返送用宛名シール（返送先明記、発送時と同額の切手を貼付） 〔注〕 前回から修正を加えた箇所についてのみ、コピー（白黒でよい）をとった上で、クリアブック内に改善した箇所がわかるような方法で収めて提出してください。

課題の内容

1. あなたの日常や身のまわりの物事の中から「美しい」と感じた物や情景の一つを選び、それを言葉でできるだけ細密に記述しなさい。（記述は400文字程度。）
2. 1の「美しい」と感じた物や情景をできるだけ細密に描写しなさい。（描写はA4画用紙を使用、彩色は色えんぴつまたは水彩絵具とする。）
3. 最後に2の描写をもとに俳句または短歌あるいは詩を詠みなさい。
俳句は五句、短歌は五首以内、詩は400字程度とする。

※1、3について記述レポートは以下のいずれかの形式で作成してください。

- ・手書きの場合：大学指定レポート冊子原稿用紙面または任意の400字原稿用紙、タテ書き
- ・手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》、ヨコ書き

※1～3について記述レポートおよび作品には学籍番号、氏名を明記してください。

学習のポイント

本科目の提出方法は郵送・窓口のみです。

TX	芸術環境原論 II	科目コード： 30603
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題	
課題提出形態	郵送・窓口	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】 05/11～05/20 【8/20締切分】 08/11～08/20 【11/20締切分】 11/11～11/20 【2/20締切分】 02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	無	
担当者	上村博＊、小野暁彦、下村泰史	

科目概要と到達目標

カルトグラフィーの試み：

カルトグラフィー（cartography）とは、一般には地図の作成法を指します。しかし地図は何でも教えてくれるものではありません。地図として表現されたものは地図の目的や抽出する情報の性質と密接に関係しています。さらには我々の環境の把握は、地図的な空間表象の形によって作られるとも言えるでしょう。地図上で見慣れた上下左右の関係なくして、各地の位置関係を想像することは困難ですし、地下鉄の路線図のおかげで、目には見えない移動手段が現実のものとして理解できます。本科目では一定地域の情報抽出とその表現という作業を通じて、自然環境や社会的な関係、また歴史の厚みや生活の中で経験される様々な感覚をどのように空間的に表現し、環境として構想することができるのか、ということが課題となります。

評価基準と成績評価方法

- ・ 地域情報調査の精度
- ・ 作図の意図に対応した視覚的明瞭

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。

本科目の成績評価は課題の評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	なし

第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1、添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2、レポート本文（手書き：大学指定レポート冊子原稿用紙面または任意の400字原
-----------------	--

初回提出物 (一括送付)	稿用紙・ヨコ書き、手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》・ヨコ書き) 3、宛名表紙（レポート冊子に綴込のもの あるいは『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要）
再提出物 (一括送付)	1、再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2、再提出レポート本文 3、前回提出（=D評価）の添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙

課題の内容

一定地域の複数の要素を重ね合わせて見えてくるものを示すことが課題です。そのため、特徴的な主題を見いだせる徒歩圏内（おおむね半径2キロメートル）の任意の場所を選び、現地に足を運んでその特徴を形成する諸要素を考察してください。その考察の結果をふたつの形で提出してください。

1) ひとつは地図です。（A3判用紙1枚片面で作成し、下記のレポートと重ねて左肩で綴じたのち、折りたたんで提出してください。）

地図の上部にその地図のテーマ（何を示そうとしたものか）を明記し、その地域に見られる複数の分布やそれらの要素間のつながりを示す図、あるいはそれらの要素の歴史的変遷を示す図を作成してください。その際に、必ず特定の要素の分布やつながりを規定している条件（他の要素など）を図の中で視覚的に表現してください。

2) もうひとつはレポートです。

まず地図のテーマを明示し、なぜそのテーマを選択したのか、またそのための地図がどのような範囲を扱うのかを記してください（200-400字程度）。

つぎに現地で発見した諸要素（たとえば土地の起伏、日照、風向き、水脈、植生、交通機関、家並み、タヌキの置物、猫の集会所など）のなかから、自分でいくつかの要素をピックアップして、それらが互いにどう関わっているのか（たとえばお地蔵さんの分布が水脈や旧街道とどう関係しているか）を記してください（800-1,000字程度）。

最後に、作図の結果見えてくるものは何かを述べてください（400字程度）。

TX	芸術計画実践Ⅰ	科目コード：30612
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ただし、「芸術計画実践Ⅱ」は、「芸術計画実践Ⅰ」の単位修得後に履修可能。	
履修方法	レポート課題	
課題提出形態	郵送・窓口、airU	
課題数	2	
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】05/11～05/20【8/20締切分】08/11～08/20【11/20締切分】11/11～11/20 第2課題 【8/20締切分】08/11～08/20【11/20締切分】11/11～11/20【2/20締切分】02/11～02/20 第1課題合格後、第2課題提出。郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間	
単位修得試験	無	
担当者	上村博*、松生歩*、岸川謙介*	

科目概要と到達目標

本科目はひとりまたは複数のメンバーの関わる課外の制作・研究活動について、受講生各自がその計画を報告し、講評を受けることで授業とします。地域プロジェクト実施、フィールドワークや現地研修の受講、展覧会運営など、活動の種類は問いません。集団での取り組みを題材とする場合も、レポートはあくまでも個人の資格で分析し、報告を行ってください。教員の自主的な学外活動への参加もレポートの対象としてください。

評価基準と成績評価方法

- ・計画された活動の意義を十分に意識しているか。
- ・自分の計画遂行方法あるいは他者の地域での取り組みの仕方について意識しているか。
- ・活動の結果、得られたものについて十分な反省が加えられているか。

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。
本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	なし

第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1、添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2、レポート本文（手書き：大学指定レポート冊子原稿用紙面または任意の400字原
-----------------	--

初回提出物 (一括送付)	稿用紙3枚程度・ヨコ書き、手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に1,200文字程度・ヨコ書き) 3、宛名表紙（レポート冊子に綴込のもの あるいは『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUから提出する場合は、airUの課題をご確認ください。
再提出物 (一括送付)	1、再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2、再提出レポート本文 3、前回提出（=D評価）の添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙 ※airUから提出する場合は、airUの課題をご確認ください。

課題の内容

【活動の事前報告】

- 1) 修了研究・制作とは別に自分の携わっている芸術活動について、その目的、方法、予定されている日程など、概要を400字ほどでまとめてください。
- 2) その活動にどのような意義があるのか（それによって何が得られると期待しているのか）、またそのためにどのような準備をしているのかを800字ほどでまとめてください。

【課題に加え、airUマイページから参考資料（任意）を添付する場合の基本条件】

紙などに記入・描いた参考資料（任意）を提出する場合はスキャンしPDFファイルにしてください。

Word、Excelの各種アプリケーション、ソフトで作成したデータを提出する場合も、PDFファイルで提出してください。

写真の場合はJPGファイルで提出してください。

ファイル名は「学籍番号_氏名_pdfまたはjpg」とし、複数アップロードする場合は氏名の後ろに付番を行ってください。

1ファイルあたりのデータの上限は1MB、ファイル数は最大8個までアップロードが可能です。

第2課題

課題コード：21

初回提出物 (一括送付)	1、添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2、レポート本文（手書き：大学指定レポート冊子原稿用紙面または任意の400字原稿用紙5枚程度・ヨコ書き、手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字
-----------------	--

初回提出物 (一括送付)	×30行》に2,000文字程度・ヨコ書き) 3、宛名表紙(レポート冊子に綴込のもの あるいは『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要) ※airUから提出する場合は、airUの課題をご確認ください。
再提出物 (一括送付)	1、再提出用添削指導評価書(『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入) 2、再提出レポート本文 3、前回提出(=D評価)の添削指導評価書(添削文含む)、レポート本文、宛名表紙 ※airUから提出する場合は、airUの課題をご確認ください。

課題の内容

【活動報告書】

活動の終了後あるいは年度末(年度最終提出締切日まで)に、2,000字程度の報告を出してください。その際、当初の目的が達成できたか、あるいはどこまで達成できたか、またその理由と自らの今後の課題について必ず記してください。

【課題に加え、airUマイページから参考資料(任意)を添付する場合の基本条件】

紙などに記入・描いた参考資料(任意)を提出する場合はスキャンしPDFファイルにしてください。Word、Excelの各種アプリケーション、ソフトで作成したデータを提出する場合も、PDFファイルで提出してください。

写真の場合はJPGファイルで提出してください。

ファイル名は「学籍番号_氏名_pdfまたはjpg」とし、複数アップロードする場合は氏名の後ろに付番を行ってください。

1ファイルあたりのデータの上限は1MB、ファイル数は最大8個までアップロードが可能です。

TX	芸術計画実践Ⅱ	科目コード： 30613
配当年次	2年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	「芸術計画実践Ⅰ」の単位修得後に履修可能。	
履修方法	レポート課題	
課題提出形態	郵送・窓口、airU	
課題数	2	
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】05/11～05/20【8/20締切分】08/11～08/20【11/20締切分】11/11～11/20 第2課題 【8/20締切分】08/11～08/20【11/20締切分】11/11～11/20【2/20締切分】02/11～02/20 第1課題合格後、第2課題提出。郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	無	
担当者	上村博*、松生歩*、岸川謙介*	

科目概要と到達目標

本科目はひとりまたは複数のメンバーの関わる課外の制作・研究活動について、受講生各自がその計画を報告し、講評を受けることで授業とします。地域プロジェクト実施、フィールドワークや現地研修の受講、展覧会運営など、活動の種類は問いません。集団での取り組みを題材とする場合も、レポートはあくまでも個人の資格で分析し、報告を行ってください。教員の自主的な学外活動への参加もレポートの対象としてください。

評価基準と成績評価方法

- ・計画された活動の意義を十分に意識しているか。
- ・自分の計画遂行方法あるいは他者の地域での取り組みの仕方について意識しているか。
- ・活動の結果、得られたものについて十分な反省が加えられているか。

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。
本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	なし

第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1、添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2、レポート本文（手書き：大学指定レポート冊子原稿用紙面または任意の400字原稿用紙3枚程度・ヨコ書き、手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字》
-----------------	--

初回提出物 (一括送付)	×30行》に1,200文字程度・ヨコ書き) 3、宛名表紙(レポート冊子に綴込のもの あるいは『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要) ※airUから提出する場合は、airUの課題をご確認ください。
再提出物 (一括送付)	1、再提出用添削指導評価書(『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入) 2、再提出レポート本文 3、前回提出(=D評価)の添削指導評価書(添削文含む)、レポート本文、宛名表紙 ※airUから提出する場合は、airUの課題をご確認ください。

課題の内容

【活動の事前報告】

- 1) 修了研究・制作とは別に自分の携わっている芸術活動について、その目的、方法、予定されている日程など、概要を400字ほどでまとめてください。
- 2) その活動にどのような意義があるのか(それによって何が得られると期待しているのか)、またそのためにどのような準備をしているのかを800字ほどでまとめてください。

【課題に加え、airUマイページから参考資料(任意)を添付する場合の基本条件】

紙などに記入・描いた参考資料(任意)を提出する場合はスキャンしPDFファイルにしてください。

Word、Excelの各種アプリケーション、ソフトで作成したデータを提出する場合も、PDFファイルで提出してください。

写真の場合はJPGファイルで提出してください。

ファイル名は「学籍番号_氏名_pdfまたはjpg」とし、複数アップロードする場合は氏名の後ろに付番を行ってください。

1ファイルあたりのデータの上限は1MB、ファイル数は最大8個までアップロードが可能です。

第2課題

課題コード : 21

初回提出物 (一括送付)	1、添削指導評価書(『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入) 2、レポート本文(手書き:大学指定レポート冊子原稿用紙面または任意の400字原稿用紙5枚程度・ヨコ書き、手書き以外の場合:任意のA4用紙《1枚あたり40文字
-----------------	--

初回提出物 (一括送付)	×30行》に2,000文字程度・ヨコ書き) 3、宛名表紙(レポート冊子に綴込のもの あるいは『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要) ※airUから提出する場合は、airUの課題をご確認ください。
再提出物 (一括送付)	1、再提出用添削指導評価書(『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入) 2、再提出レポート本文 3、前回提出(=D評価)の添削指導評価書(添削文含む)、レポート本文、宛名表紙 ※airUから提出する場合は、airUの課題をご確認ください。

課題の内容

【活動報告書】

活動の終了後あるいは年度末(年度最終提出締切日まで)に、2,000字程度の報告を出してください。その際、当初の目的が達成できたか、あるいはどこまで達成できたか、またその理由と自らの今後の課題について必ず記してください。

【課題に加え、airUマイページから参考資料(任意)を添付する場合の基本条件】

紙などに記入・描いた参考資料(任意)を提出する場合はスキャンしPDFファイルにしてください。Word、Excelの各種アプリケーション、ソフトで作成したデータを提出する場合も、PDFファイルで提出してください。

写真の場合はJPGファイルで提出してください。

ファイル名は「学籍番号_氏名_pdfまたはjpg」とし、複数アップロードする場合は氏名の後ろに付番を行ってください。

1ファイルあたりのデータの上限は1MB、ファイル数は最大8個までアップロードが可能です。

TX	芸術環境特論III-1 科目コード： 30614
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし
履修方法	airU
課題提出形態	レポート課題
課題数	1
課題提出期間	第1課題 【8/20締切分】08/11～08/20 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。
単位修得試験	無
担当者	笠原広一*、生井亮司、上村博

科目概要と到達目標

本科目では、社会教育として捉えた芸術活動について、基本的な考え方を学びます。「芸術」という語には本来、自己教育という含意があります。作品を創造することだけが芸術ではありません。また芸術は「癒し」や「興奮剤」でもありません。芸術活動によって、人間や社会は自らの能力と可能性を伸長することができます。

授業では、芸術と人間の成長との関係について著された文献の読解と2本の動画の視聴を通じて、課題に取り組みます。またairU上で所定の期日までにレポート発表を行うとともにそこで受けた他の学生、教員からのコメントを踏まえて、レポートを提出してください。

芸術活動を教育的観点から考察するための基盤と思考力を身につけます。

評価基準と成績評価方法

airU上の発表と意見交換およびレポート課題によって、以下の観点を総合的に評価します。

- ・授業の趣旨・内容を理解しているか。
- ・ディスカッション等を通じて課題に主体的に取り組んでいるか。
- ・事項や知識の列挙ではなく、考察や解釈に力を入れているか。
- ・自分自身の「論」として構成・叙述されているか。

テキストと参考文献・URL

テキスト	松田道雄『社会教育としての芸術』 上村博「芸術・言語・自然 一身体図式の自己疎外と芸術教育」京都造形芸術大学紀要、2014年 笠原広一「芸術教育におけるコミュニケーション研究の試論：感性的コミュニケーションの視点から」『美術教育学』33、美術科教育学会、2012年
参考文献・URL	佐藤学、今井康雄編『子どもたちの想像力を育むーアート教育の思想と実践』東京大学出版会、2003年 アーサー・D・エフランド、ふじえみつる監訳『美術と知能と感性ー認知論から美術教育への提言』日本文教出版、2011年 鷺田清一『素手のふるまいーアートがさぐる〈未知の社会性〉』朝日新聞出版、

第1課題

課題コード：11

課題の内容

本科目は以下のスケジュールで進行します。
年に一度のディスカッションと提出機会なので、くれぐれも各期間には注意してください。

ディスカッション用課題提出期間

2019/05/31 13:00 ～ 2019/07/14 13:00

ディスカッション期間

2019/07/14 13:00 ～ 2019/07/31 13:00

レポート提出期間

2019/08/11 13:00 ～ 2019/08/20 13:00

■レポート課題

動画2を視聴し、また教員の全体講評を読んだうえで、先の発表に加筆して3200字程度のレポートを作成します。

まず、参考文献の要約を400字から800字程度でまとめてください。そして、みなさんの考えた芸術的な活動が社会教育としてどのような意義があるのかを考え、その目標（どのような問題を解決しようとしているのか）と活動を選択した理由を2400字から2800字程度でまとめ、提出してください。

■動画内の文献について

ハーバート・リード『芸術による教育』

V. ローウェンフェルド『美術による人間形成』

川俣正『セルフ・エデュケーション時代』

以上の3冊は、課題を説明する動画のなかで名前が挙がっていますが、入手困難なため「課題1」にある400字の要約を行う文献の選択肢からは外してください。

要約はシラバスに挙がっている以下の4冊のいずれかについて行ってください。

佐藤学、今井康雄編『子どもたちの想像力を育む—アート教育の思想と実践』東京大学出版会、2003年
アーサー・D・エフランド、ふじえみつる監訳『美術と知能と感性—認知論から美術教育への提言』日本文教出版、2011年

鷺田清一『素手のふるまい—アートがさぐる〈未知の社会性〉』朝日新聞出版、2016年

大坪圭輔『美術教育資料研究』武蔵野美術大学出版局、2014年

TX	芸術環境特論III-2	科目コード： 30615
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	airU	
課題提出形態	レポート課題	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【11/20締切分】11/11～11/20 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	無	
担当者	笠原広一、山下麻里、生井亮司、上村博	

科目概要と到達目標

油絵やピアノ曲といったジャンルは過去に多くの優れた作品を生み出してきましたが、そうした既成の芸術作品はいつでもどこでも活動のモデルとして有効なわけではありません。本科目では、与えられた場所に即した芸術活動のありかたを臨機応変に構想するために、芸術活動を身体性を回復する場づくりという観点から捉え、自分や他者の身体を用いてどのような知覚の変容が可能なのかを自他の実践例を参考にしつつ考察します。

授業では、教科書の読解と2本の動画の視聴を通じて、課題に取り組みます。またairU上で所定の期日までにレポート発表を行うとともにそこで受けた他の学生、教員からのコメントを踏まえて、レポートを提出してください。

芸術に関する批判的思考力を身につけるとともに、実践的プログラムを構想する基盤を養うことが目標です。

評価基準と成績評価方法

airU上の発表と意見交換およびレポート課題によって、以下の観点を総合的に評価します。

- ・授業の趣旨・内容を理解しているか。
- ・ディスカッション等を通じて課題に主体的に取り組んでいるか。
- ・事項や知識の列挙ではなく、考察や解釈に力を入れているか。
- ・自分自身の「論」として構成・叙述されているか。

テキストと参考文献・URL

テキスト	松井陽和編『失われた身体を求めて』 『芸術環境特論III-2 課題集』
参考文献・URL	中野民夫『ワークショップ 新しい学びと創造の場』岩波書店、2001年 早川克美編、安斎勇樹『協創の場のデザイナーワークショップで企業と地域が変わる』藝術学舎、2014年 荏宿俊文、佐伯胖、高木光太郎編『ワークショップと学び1 学びをまなぶ』東京大

参考文献・URL	学出版会、2012年 茂木一司『協同と表現のワークショップ 学びのための環境デザイン 第2版』東信堂、2010年 高橋陽一編『造形ワークショップの広がり』武蔵野美術大学出版局、2011年
----------	---

第1課題

課題コード：11

課題の内容

本科目は以下のスケジュールで進行します。
 年に一度のディスカッションと提出機会なので、くれぐれも各期間には注意してください。

ディスカッション用課題提出期間

2019/09/15 13:00 ～ 2019/10/15 13:00

ディスカッション期間

2019/10/15 13:00 ～ 2019/11/01 13:00

レポート提出期間

2019/11/11 13:00 ～ 2019/11/20 13:00

■レポート課題

動画2を視聴し、また教員の全体講評を読んで、課題で選択した活動で得られた芸術活動についての知見をまとめ直すと共に、その知見を20～30名のグループでワークショップする場合にどのように生かすことができるかについて、2400字程度のレポートを作成・提出してください。

提出方法は、ディスカッション用課題の提出と同様です。

TX	芸術環境論特論I	科目コード： 30616
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし ※「芸術環境論特論」4単位を修得済みの方は履修不要	
履修方法	レポート課題	
課題提出形態	郵送・窓口、airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】05/11～05/20【8/20締切分】08/11～08/20【11/20締切分】11/11～11/20 【2/20締切分】02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	無	
担当者	上村博*、田川とも子、岡本万貴子、實淵洋次、大貫菜穂、船木理悠	

科目概要と到達目標

本科目では芸術と環境との関係とはどのようなものであったのか、またそれをどのように考え、どのように作っていくべきかについて、原理的な反省を行うことが目的です。自然的かつ社会的な諸条件に対し、時と所に応じて人間が働きかけてできあがった芸術環境について、まずテキスト読解を踏まえた考察をまとめます。ついで、受講者それぞれの身の回りでの具体的な事例の調査に基づいて、技術的な営みの成立した経緯や伝承の方法について、その環境の特質を分析してもらいます。

評価基準と成績評価方法

- ・個々の芸術制作、研究活動が成立する条件の洞察がすぐれているか。
- ・具体的な事例に則して十分な考察がなされているかどうか。
- ・正確で明快な文章表現がなされているか。

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。
本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『芸術環境を育てるために』（本学テキスト） 松井利夫、上村博編 ※書籍の在庫が底を突いたため、2019年度より出版社と協議の上、最低限必要な箇所をデータでairUの該当科目「テキスト・教材学習」ページにアップロードしています。本科目の履修以外の目的で複製や譲渡はできません。
参考文献・URL	なし

初回提出物 (一括送付)	1、添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2、レポート本文（手書き：大学指定レポート冊子原稿用紙面または任意の400字原稿用紙8枚程度・ヨコ書き、手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き） 3、宛名表紙（レポート冊子に綴込のもの あるいは『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUから提出する場合は、airUの課題をご確認ください。
再提出物 (一括送付)	1、再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2、再提出レポート本文 3、前回提出（=D評価）の添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙 ※airUから提出する場合は、airUの課題をご確認ください。

課題の内容

まず、テキストの第一部（第一章から第四章まで）を読み、各章の概要をそれぞれ400字ずつでまとめてください（1,600字程度）。

つぎに、そこで取り上げられている事例（作品、場所、活動など）をひとつ選んで、それがどのような環境のもとで形成されてきたのか、文化史的・社会史的な状況を踏まえながら考察してください。その際、テキストの執筆者の意見を批判的に参考にしつつ、テキスト以外の文献も適宜利用しながら自分の考えを論述してください（1,600字程度）。

TX	芸術環境論特論II 科目コード： 30617
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし ※「芸術環境論特論」4単位を修得済みの方は履修不要
履修方法	レポート課題
課題提出形態	郵送・窓口、airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。
課題数	1
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】05/11～05/20【8/20締切分】08/11～08/20【11/20締切分】11/11～11/20 【2/20締切分】02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。
単位修得試験	無
担当者	上村博*、田川とも子、岡本万貴子、實淵洋次、大貫菜穂、船木理悠

科目概要と到達目標

本科目では芸術と環境との関係とはどのようなものであったのか、またそれをどのように考え、どのように作っていくべきかについて、原理的な反省を行うことが目的です。自然的かつ社会的な諸条件に対し、時と所に応じて人間が働きかけてできあがった芸術環境について、まずテキスト読解を踏まえた考察をまとめます。ついで、受講者それぞれの身の回りでの具体的な事例の調査に基づいて、技術的な営みの成立した経緯や伝承の方法について、その環境の特質を分析してもらいます。

評価基準と成績評価方法

- ・個々の芸術制作、研究活動が成立する条件の洞察がすぐれているか。
- ・具体的な事例に則して十分な考察がなされているかどうか。
- ・正確で明快な文章表現がなされているか。

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。
本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	『芸術環境を育てるために』（本学テキスト） 松井利夫、上村博編 ※書籍の在庫が底を突いたため、2019年度より出版社と協議の上、最低限必要な箇所をデータでairUの該当科目「テキスト・教材学習」ページにアップロードしています。本科目の履修以外の目的で複製や譲渡はできません。
参考文献・URL	なし

初回提出物 (一括送付)	1、添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2、レポート本文（手書き：大学指定レポート冊子原稿用紙面または任意の400字原稿用紙8枚程度・ヨコ書き、手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き） 3、宛名表紙（レポート冊子に綴込のもの あるいは『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要） ※airUから提出する場合は、airUの課題をご確認ください。
再提出物 (一括送付)	1、再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入） 2、再提出レポート本文 3、前回提出（=D評価）の添削指導評価書（添削文含む）、レポート本文、宛名表紙 ※airUから提出する場合は、airUの課題をご確認ください。

課題の内容

- 居住地あるいは仕事の間など、自分に深いかわりのある場所で、自分以外の芸術家や職人など、何らかの技術を持ったひと（あるいはグループ）がどのような特色ある活動を行っているのかについて調べ、2,000文字程度でまとめてください。もし可能なら作家へのインタビューを行うなど、独自に取材してください。
1. でとりあげた技術について、その成立（発明）と伝承（学習）の環境がどのようなものであるかを1,200文字程度で考察してください。

TX	芸術環境特論I-1	科目コード： 30621
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	airU	
課題提出形態	レポート課題	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】 05/11～05/20 【8/20締切分】 08/11～08/20 【11/20締切分】 11/11～11/20 【2/20締切分】 02/11～02/20 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	無	
担当者	池野絢子*、松井利夫*、五島邦治、加藤志織、加茂瑞穂、田所克庸	

科目概要と到達目標

本科目では、芸術環境に関する研究にとって基本的な文献の解説を通じて、基礎的な知識や問題、研究の手法を学びます。各自の研究の指向性に応じて、3つの文献から課題を選択してください。1、2は比較芸術学分野、3は文化遺産・伝統芸術分野に関する文献となります。

評価基準と成績評価方法

過去の研究や取り組みの事例をとりまく条件とその方法論的な意義が正確に理解できているかどうかを評価基準とし、それを満たしていることを合格の基準とします。
本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	・芸術環境研究領域（比較芸術学分野、文化遺産・伝統芸術分野）の2019年度入学生には、年度始めのガイダンスで配布します。 ・芸術環境研究領域の2016年度以前入学生、芸術環境研究領域（芸術教育分野、芸術環境計画分野）、美術・工芸領域、および環境デザイン領域のかたは、airU上から課題文献をダウンロードしてください。
参考文献・URL	各課題を参照してください。

第1課題

課題コード：11

課題の内容

各自の研究の指向性に応じて、以下の3つから課題を選択して1つに解答してください。

1. 比較芸術学系課題 A
指定教材：

エルヴィン・パノフスキー『イコノロジー研究 上』（ちくま学芸文庫ハ-19-2）序文

課題：

指定教材の序文を読み、作品解釈における三つのレベルについて説明し、さらにその解釈手法の功罪を批判的に論じてください。

課題解説：

美術史学には作品を分析する方法がいくつかありますが、本課題では作品の主題や表現内容に注目した研究方法、とくにイコノロジー（図像解釈学）を取り扱います。20世紀前半、イコノロジーによって、時を経るうちに失われた過去の図像の意味や作品の主題などが次々と明らかにされました。しかし、それはやがてさまざまな弊害を作品分析にもたらします。本課題では、とくにイコノロジーの方法論を理論的に説明した上で、その功罪について検証してください。

参考文献：

ヴァーノン・ハイド・マイナー『美術史の歴史』（ブリュッケ、2003年）第3部15節「美術史を読む——言葉、イメージ、イコノロジー、記号論」

岡田温司『もうひとつのルネサンス』（平凡社ライブラリー605、2007年）第3章「絵画記号の両義性」

2. 比較芸術学系課題 B

指定教材：

『世界を変えるデザイン』 シンシア・スミス編 槌屋詩野〔監訳〕北村陽子〔訳〕英治出版 2009年（pp.22～59）

課題：

1）「アプロプリエート・テクノロジー（適正技術）」とはどんな技術か、事例を二つあげどのような社会的課題をどんな方法で解決しているかを比較し論じてください。

2）「デザインの革命」とは何か、これまでのデザインとどこが違うのか、その変革を支える今日的技術革新や環境に触れた上で明らかにしてください。

なお、課題には上の1と2両方に答えてください。

課題解説：

文章は平易で多くの事例とともに語られていますので特に解説はありませんが、本論のこれまでのデザインに対する考え方と大きく違う点を見だし、各自の身近な課題と比較しながら考察を進めてください。

3. 文化遺産・伝統芸術系課題

指定教材：

保立道久「中世民衆のライフサイクル」（『岩波講座 日本通史』第7巻 中世Ⅰ）

課題：

指定教材の論文を読み、日本の年齢・性別に応じた人のあり方について、童・若・老のいずれかを選んで、社会の中における役割についてあなたの考えを述べなさい（必ず保立論文の論旨から記述を始めること）。

課題解説：

保立氏は、従来の文献史料に絵画資料を援用して、性、しぐさ、服装などから歴史における人の身分・立場を論じて、社会史の一端を開いた。

TX	芸術環境特論I-2	科目コード： 30622
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	airU	
課題提出形態	レポート課題	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】05/11～05/20【8/20締切分】08/11～08/20【11/20締切分】11/11～11/20 【2/20締切分】02/11～02/20 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	無	
担当者	池野絢子*、井上治*、加藤志織、小柏裕俊	

科目概要と到達目標

本科目では、芸術環境に関する研究にとって基本的な文献の解説を通じて、基礎的な知識や問題、研究の手法を学びます。各自の研究の指向性に応じて、3つの文献から課題を選択してください。1、2は比較芸術学分野、3は文化遺産・伝統芸術分野に関する文献となります。

評価基準と成績評価方法

過去の研究や取り組みの事例をとりまく条件とその方法論的な意義が正確に理解できているかどうかを評価基準とし、それを満たしていることを合格の基準とします。
本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	・芸術環境研究領域（比較芸術学分野、文化遺産・伝統芸術分野）の2019年度入学生には、年度始めのガイダンスで配布します。 ・芸術環境研究領域の2016年度以前入学生、芸術環境研究領域（芸術教育分野、芸術環境計画分野）、美術・工芸領域、および環境デザイン領域のかたは、airU上から課題文献をダウンロードしてください。
参考文献・URL	各課題を参照してください。

第1課題

課題コード：11

課題の内容

各自の研究の指向性に応じて、以下の3つから課題を選択して1つに解答してください。

1. 比較芸術学系課題 A
指定教材：

ヴァーノン・ハイド・マイナー『美術史の歴史』ブリュッケ、2003年

第13章「新しい美術史学と視覚文化」（pp. 246～256）

課題：

指定教材を読み、新しい美術史学と視覚文化の方法論を批判的視点を交えて論じてください。

課題解説：

1970年代ごろから従来の美術史学の方法論を批判的に反省し、西洋中心主義への反省や新歴史主義的潮流を踏まえた「新しい美術史学（ニュー・アート・ヒストリーズ）」を提唱する動きが生まれました。さらに、視覚文化一般に開かれた「視覚文化（ヴィジュアル・カルチャー）」の可能性を探求する声も多くなっています。それらが唱えられてきたコンテクストをふまえつつ、その方法の功罪を批判的に論じてください。

参考文献：

三浦篤「西洋美術史学の方法と歴史」『西洋美術史ハンドブック』（高階秀爾、三浦篤編）新書館、1997年、pp.193～217

ジョン・A・ウォーカー、サラ・チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門 美術史を超えるための方法論』晃洋書房、2001年

2. 比較芸術学系課題 B

指定教材：

バルザック「知られざる傑作」『知られざる傑作 他五篇』（水野亮訳）、岩波文庫（pp.141～190）

課題：

指定教材を読んで、自らの解釈を述べてください。特に、「破壊からまぬがれた断片」（p.185）と描写される主人公の作品「美しい諍い女」が何を意味するのか論じてください。

課題解説：

「知られざる傑作」le Chef-d' oeuvre inconnu は2人の実在の画家（プッサン、ポルピュス）と1人の架空の画家（フレンホーフエル）を主要人物とする短編小説です。バルザック自身はこれを「哲学的研究」として分類していますが、さまざまな解釈がなされており、一般には芸術や創作行為についてのアレゴリーとして捉えられています。

訳文は戦前のもので、固有名詞の表記（例えば、「チチアノ」とあるのは「ティツィアーノ」）などに問題がありますが、全体的には原文の独特の呼吸を尊重した良訳です。

課題に取り組む際、画家フレンホーフエルが必ずしも作者バルザックの芸術感を反映していないことに留意してください。

参考文献：

アリストテレス『詩学』（アリストテレス『詩学』・ホラーティウス『試論』岩波文庫、所収）

夏目漱石『草枕』岩波文庫

3. 文化遺産・伝統芸術系課題

指定教材：

倉澤行洋「空の藝術-空即是色の藝境」『叢書 禅と日本文化2 禅と芸術Ⅱ』ぺりかん社、1997年（pp.309～324）

課題：

筆者の言う「空の藝術」にあてはまるとされる芸術作品（絵画、彫刻、建築、舞台表現等、どのような芸術でも可）を挙げ、指定教材が論じている内容を踏まえた上で、その理由を述べてください。

課題解説：

筆者は世阿弥の芸論を軸に、「空の藝術」を「有主風」、「安位」、「闌」といったキーワードをもととして論じています。それぞれのキーワードの意味（筆者の定義）を正確に把握して、感想に終わることなくできるだけ論理的に書くことを心がけてください。

参考文献：

倉澤行洋『増補版・藝道の哲学』東方出版、1987年

TX	美術・工芸特論I-1	科目コード： 30623
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	本科目は1年次に履修しておくことが望ましい。	
課題提出形態	郵送・窓口・airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】05/11～05/20【8/20締切分】08/11～08/20【11/20締切分】11/11～11/20 【2/20締切分】02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着。airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	無	
担当者	上村博*、中野久美子、住田翔子	

科目概要と到達目標

本科目の目標は美術・工芸に関する古典的著作を批判的に読み解くことで、制作・研究者の行為を今日の社会環境のなかに位置づけて考察する力を得ることです。制作活動を成立させているさまざまな社会的背景や制作を取り巻く条件に注意することは大学院で制作行為を探究するものにとって重要な意味があります。それを過去の作家の記述を批判的に読み解くことを通じて行います。

評価基準と成績評価方法

文献の正確な読解、明快かつ客観的な文章、歴史的な反省の有無を重視します。誤字脱字等は若干の減点対象となります。テキストと無関係な一方的な主張は大きく減点されます。

テキストと参考文献・URL

テキスト	①ガスケ『セザンヌ』岩波文庫（2009年）の第一部 ②柳宗悦『民藝とは何か』講談社学術文庫（2006年）の「民藝とは何か」の章 ※テキストは各自で購入してください。
参考文献・URL	

第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書 2. レポート本文（手書き：大学指定レポート冊子の原稿用紙面または任意の400字原稿8枚程度・ヨコ書き、あるいはワープロ使用：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に3,200文字程度・ヨコ書き） 3. 宛名表紙（レポート冊子に綴込のものあるいは『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要）
-----------------	---

初回提出物 (一括送付)	※「airU」から提出する場合は、「airU」の課題をご確認ください。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出レポート 2. 再提出用添削指導評価書 3. 前回提出(=D評価)レポート本体 4. 前回提出(=D評価)添削指導評価書 ※「airU」から提出する場合は、「airU」の課題をご確認ください。

課題の内容

【指定文献の読解】

前ページに記載のテキストのうちいずれか1つを選んで全体を通して読み、次のⅠ～Ⅲの設問に順に答えてください。

Ⅰ. 選んだ文献の主題(「何」を扱っているのか)をまとめてください。(800字以内)

- ①であればセザンヌという人物がどのような時代に何をした人物であるのか。
- ②であれば著者が民藝をどういうものを念頭に置いてどのように定義しているか。

Ⅱ. それぞれの著者が主題について主張していること、またその主張をするに至った経緯や拠りどころにしていることをまとめてください。(1,200～1,600字)

Ⅲ. それぞれの文献の主張の当否を自分なりに考え、理由とともに述べてください。(800～1,200字)

注意：レポート本文を書きはじめる前に、必ず選択した指定文献名を明記してください。

提出先：

郵送先：〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

窓口提出：人間館中2階 通信教育部事務局窓口 ※他の場所での提出はできません

※封筒表面に「美術・工芸特論I-1」レポート在中と明記のこと。

Web提出：airU内、本科目より提出

※airUからの提出は、締切日当日13:00までとなります。

TX	美術・工芸特論I-2	科目コード： 30624
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	本科目は1年次に履修しておくことが望ましい。	
課題提出形態	郵送・窓口	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】05/11～05/20【8/20締切分】08/11～08/20【11/20締切分】11/11～11/20 【2/20締切分】02/11～02/20 郵送・窓口での提出は締切日必着。	
単位修得試験	無	
担当者	上村博*、中野久美子、住田翔子	

科目概要と到達目標

本科目の目標は受講生みずからの制作行為を今日の社会環境のなかに位置づけ、客観的に考察する力を身につけることです。制作という営みは決して個人的な表現内に完結するものではありません。技術という共有物を用い、また言語や感性的規範といった社会的な構成物とともに遂行されます。そうした制作を支えるものに対する洞察を深めつつ、みずからの活動を振り返り、記述する作業を行います。

評価基準と成績評価方法

自分の活動についての明快かつ客観的な文章と歴史的な反省の有無を重視します。誤字脱字等は若干の減点対象となります。各自の制作している作品の良し悪しについては評価外となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	使用しません
参考文献・URL	

第1課題

課題コード：11

初回提出物 (一括送付)	1. 添削指導評価書 2. レポート本文（手書き：大学指定レポート冊子の原稿用紙面または任意の400字原稿用紙10枚程度・ヨコ書き、あるいはワープロ使用：任意のA4用紙（1枚あたり40文字×30行）に4,000文字程度・ヨコ書き） 3. レポート中で取り上げた作品の図版：A4用紙1枚 4. 宛名表紙（レポート冊子に綴込のもの。あるいは『学習ガイド』巻末書式をコピーし、返送先明記・切手不要）
再提出物 (一括送付)	1. 再提出レポート 2. 再提出用添削指導評価書

再提出物 (一括送付)	3. 前回提出 (=D評価) レポート本体 4. 前回提出 (=D評価) 添削指導評価書
----------------	---

課題の内容

【自己の制作研究報告】

みずからの制作研究活動について、以下の5点に留意しながら報告してください。

1. 制作物・研究成果物についての記述：どのような手法、どのような素材で、どのような形態のものを作っているのか、またどのような制度・環境のなかで制作研究を行っているのかを、800文字程度で記してください。
2. 制作研究意図について：どのような課題を自ら引き受けているのかを記してください。技法上の課題なのか、社会的な目的があるのか、あるいは内面的な動機から制作研究しているのか、800文字程度で記してください。
3. 制作研究の歴史的位置づけ：自分の活動が他の歴史上のどのような活動と関連があるのか、またそれとの相違は何かを、800文字程度で示してください。
4. 制作研究の同時代的な位置づけ：自分の活動が国内外の同様の活動に比べてどのような特徴があるのかを、800文字程度で示してください。
5. 自己評価：最後に自分の制作研究活動が上の課題をどこまで解決できたのか、また残された課題は何かを、800文字程度で示してください。

提出先：

郵送先：〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

窓口提出：人間館中2階 通信教育部事務局窓口 ※他の場所での提出はできません

※封筒表面に「美術・工芸特論I-2」レポート在中と明記のこと。

Web提出：airU内、本科目より提出

※airUからの提出は、締切日当日13:00までとなります。

TX	環境デザイン特論I-1	科目コード： 30625
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題	
課題提出形態	airUのみ ※郵送・窓口での提出はできません。	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】 05/11～05/20 【8/20締切分】 08/11～08/20 【11/20締切分】 11/11～11/20 【2/20締切分】 02/11～02/20 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	無	
担当者	町田香*	

科目概要と到達目標

本科目では、「プロジェクト研究」について基礎的資料収集・調査、あるいは教材の精読、および整理・分析を行う。それを通して、自身の修了制作・研究テーマを抽出するための基礎知識および観察力を獲得し、さらには自身の研究を客観的に位置付けることのできる判断力を養うことを目的とする。

評価基準と成績評価方法

- ・切り口の明快さ
- ・自身の修了制作・研究テーマに関して発展的・創造的な問題提起や展望を導きだせているか
- ・参考文献・出典リストを必ずつけて、論述の根拠を明らかにしているか

上記項目を総合的に評価する。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	『庭園学講座8「大名庭園の世界」』 日本庭園・歴史遺産研究センター 『庭園学講座9「宮廷の庭」』 日本庭園・歴史遺産研究センター 『造園史』 武居二郎・尼崎博正監修 京都造形芸術大学 『ランドスケープデザイン原論』 中村一・尼崎博正監修 京都造形芸術大学

第1課題

課題コード：11

課題の内容

「プロジェクト研究（日本庭園）」
京都における庭園文化は、宮廷の存在によって高められたともいえる。平安時代に全盛期を迎えた宮廷

庭園は、戦国時代に衰退するが江戸時代に入ると息を吹き返し、桂離宮や修学院離宮が造営されるなど華やかな宮庭庭園文化が復活した。宮庭庭園と共に回遊式庭園として発展した大名庭園も江戸時代の所産である。庭園は文化の表象の一つである。ここでは、庭園が造営される歴史的（文化史・美術史・精神史など）背景、また社会・制度などとの関係を考察した上で、近世に造られた庭園、特に宮庭庭園及び大名庭園について、空間構成・利用実態・歴史的役割や意義など、自由な着眼点のもとに論述しなさい。また、宮庭庭園と大名庭園を共に手掛けた造園家・小堀遠州などを対象とした作家論としてもよい。

本課題は、修士論文・報告書作成の練習を兼ねています。レポートは、タイトルを付け、章立てを行い、適宜注を付すなど、体裁を整えること。文献のまとめではなく、独自の考察を求めます。

●提出物

1. レポート本文（4800文字程度）
2. 事例の図表、写真等（必要な場合。写真・図を添付する場合はレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。）

●提出にあたっての注意事項

写真・図を添付する場合はレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。添付ファイルは1～4枚までで、それぞれ30字以内の説明（キャプション）を付けてください。添付ファイルの提出は必須ではありません。

添付ファイルのデータ形式は（PDF、JPG）、ファイル容量は（5MB以下）です。

※レポート文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

TX	環境デザイン特論I-2	科目コード： 30626
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題	
課題提出形態	airUのみ ※郵送・窓口での提出はできません。	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】 05/11～05/20 【8/20締切分】 08/11～08/20 【11/20締切分】 11/11～11/20 【2/20締切分】 02/11～02/20 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	無	
担当者	吉村龍二*	

科目概要と到達目標

本科目では、「工法・技法研究」について基礎的資料収集・調査、あるいは教材の精読、および整理・分析を行う。それらを通して、自身の修了制作・研究テーマを抽出するための基礎知識および観察力を獲得し、さらには自身の研究を客観的に位置付けることのできる判断力を養うことを目的とする。

評価基準と成績評価方法

- ・切り口の明快さ
- ・自身の修了制作・研究テーマに関して発展的・創造的な問題提起や展望を導きだせているか
- ・参考文献・出典リストを必ずつけて、論述の根拠を明らかにしているか

上記項目を総合的に評価する。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	『史跡等整備のてびきー保存と活用のために』 文化庁文化財部記念物課監修 第一法規 『月刊文化財2006年4月号 庭園の保護』 第一法規 『庭園学講座1～24』 日本庭園・歴史遺産研究センター 『名勝平等院庭園保存修復事業報告書』 『特別史跡・特別名勝醍醐寺三宝院庭園保存修理報告書』 『名勝滴翠園庭園保存修理報告書』 各都道府県、市町村の図書館・資料館に所蔵されている史跡整備報告書・保存管理計画（参考URL）文化庁、国指定文化財等データベース http://www.bunka.go.jp/bsys/index.asp 『名勝諸戸氏庭園保存修理事業中間報告書』

課題の内容

「工法・技法研究（日本庭園）」

私たちが目にする文化財庭園は、作庭当時の時代性と地方色豊かな文化を背景として作庭され、今でもその優美な姿をわれわれに見せている。それら文化財庭園は、長い年月を経過しており、日常的な管理と定期的な修理が継続的に行われることによって維持されている。それら文化財庭園においては、その時代の所有者の意向によって、機能の改善や時代の好みなど庭園が改修されていることが多く、中には重層的に何度も改変を受けているものも少なくない。近年修理された平等院庭園は、江戸時代に作られた石積み護岸から作庭当初である州浜の景観が復元され、浄土庭園としての庭園空間が再現された事例であり、京都の醍醐寺三宝院庭園や智積院庭園、平泉の毛越寺庭園、横浜の三溪園など全国各地で文化財庭園の修復事業が進められている。ここでは、保存修復が行われた（行われている）文化財庭園（史跡を含む）を事例とし、その庭園・史跡を保存修復する為の工法や技法、維持管理手法について必要となる条件や技術、体制などについて理解した上で、自らの視点で評価し、その意義について取りまとめること。説明に必要な図面、写真などの資料を添付すること。なお、参考とした文献は番号を付して文末にして掲げること。

●提出物

1. レポート本文（4800文字程度）
2. 事例の図表、写真等（必要な場合。写真・図を添付する場合はレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。）

●提出にあたっての注意事項

写真・図を添付する場合はレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。添付ファイルには30字以内の説明（キャプション）を付けてください。添付ファイルの提出は必須ではありません。添付ファイルのデータ形式は（PDF、JPG、PNG、GIF）、ファイル容量は（5MB以下）です。
※レポート文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

TX	環境デザイン特論II-1	科目コード： 30627
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】05/11～05/20【8/20締切分】08/11～08/20【11/20締切分】11/11～11/20 【2/20締切分】02/11～02/20 受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	無	
担当者	松隈洋*、藤田慶、尼崎博正*	

科目概要と到達目標

本科目では、①「建築論」②「日本庭園論」について教材の精読、参考文献の精読および整理・分析を行う。

それらを通して、自身の修了制作・研究テーマを定着するための基礎理論および応用力を獲得し、さらには客観的に位置付けられた自身の研究を説得力のあるものとする実践力を養うことを目標とする。

評価基準と成績評価方法

- ・課題主旨の理解
- ・切り口の明快さ
- ・発展的・創造的な問題提起や展望を導きだせているか
- ・註）および参考文献・出典リストを必ずつけて、論述の根拠を明らかにしているか

上記項目を総合的に評価する。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	【学習のポイント】欄を参照。

第1課題

課題コード：11

課題の内容

【1】、【2】よりいずれかを選択し、その調査結果、整理・分析結果のレポートを提出してください。
(所属分野問わず選択可)

なお、レポート冒頭には選択した課題名「建築論」「日本庭園論」を記載すること。

【1】「建築論」 （添削担当：松隈洋、藤田慶）

●課題内容

現代建築の隆盛に隠れて、近代建築（Modern Architecture）の果たした歴史的な意味は見えにくくなっているのかもしれない。しかし、2016年にユネスコの世界文化遺産にル・コルビュジエの仕事が登録されたことに象徴されるように、20世紀のモダニズム建築は、それまでの建築とは次元の異なる歴史的な使命を担っていたに違いない。それは、ル・コルビュジエが語ったように、「機械文明に生きる人間に心の健康と喜びを与えること」、すなわち、工業化を前提により良い生活環境をつくり上げることだったのである。時代は移り、ポスト・モダンの潮流を経て、再びモダニズム建築とは何だったのか、が問われる中で、今一度、参考文献をひとつの手がかりとしながら、それぞれが具体的な建築や建築家の仕事を見つめ直すことを通して、現代において継承すべき「モダニズムの精神」とは何か、について発見したことを論じてほしい。

●提出物

1. レポート本文（4800文字程度）
2. 図版・写真等（提出は任意）

※レポート冒頭に選択課題名「建築論」と記載すること。

●図版・写真の提出方法

図版・写真を提出する場合はレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。図版・写真に出典がある場合は「参考文献」入力欄に出典リストを作成してください。（添付ファイルの提出は必須ではありません。）

（出典リストの記入例）

fig.01：『〇〇』〇〇著 ●●出版

fig.02：『〇〇』（URLアドレス）

- ・添付ファイルはJPEG形式とし、ファイル名は「学籍番号_fig.jpg」を用いてください。
（例：34567890_fig01.jpg）
- ・また、画像には30文字以内の説明（キャプション）をつけてください。
（例：fig.01：「〇〇〇〇〇」）
- ・ひとつあたりのファイルの容量は5MB以下とし、ファイルは最大8つまで提出できます。
- ・レポート文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

【2】「日本庭園論」 （添削担当：尼崎博正）

●課題内容

日本庭園は「人と自然の共同作品」であるとともに、暮らしの中に息づく「生活文化」でもある。つまり、「壮大な自然の輪廻」と「創造的な人の営み」が融合する一断面として捉えることができよう。また日本庭園の歴史を振り返ってみると、「いつの時代にも創造的であったものだけが伝統となり、その伝統が弛まなく新たな創造性を刺激し続けてきた」という“創造する伝統”の姿が浮かび上がってくる。

一方、現場では発掘調査によって、外見ではわからなかった庭園の構造や施工法などが次々と明らかにされ、その蓄積が文化財庭園の保存修復に不可欠な基本情報を提供している。そこで大切なのは、空間的・意匠的・技術的に多彩な様相を呈している情報から何を読み取るかであろう。時代性、地域性（風土性）、場所性（固有性）は勿論だが、最も大切なことは、実際に現場で仕事に携わった人々のセンスと創意工夫を「我もの」となし、そこに込められた情念を共有することである。

以上のような視点を念頭におきつつ、「日本庭園の本質とは何か」について思索をめぐらせて得た独自の考えを論述しなさい。

●提出物

1. レポート本文（4800文字程度）

2. 事例の図表、写真等（任意）

※レポート冒頭に選択課題名「日本庭園論」と記載すること。

●写真・図表の提出方法

図版・写真を添付する場合はレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。図版・写真に出典がある場合は「参考文献」入力欄に出典リストを作成してください。（添付ファイルの提出は必須ではありません。）

（出典リストの記入例）

fig.01：『○○』○○著 ●●出版

fig.02：『○○』（URLアドレス）

- ・添付ファイルはJPEG形式とし、ファイル名は「学籍番号_fig.jpg」を用いてください。
（例：34567890_fig01.jpg）
- ・また、画像には30文字以内の説明（キャプション）をつけてください。
（例：fig.01：「○○○○○○」）
- ・ひとつあたりのファイルの容量は5MB以下とし、ファイルは最大8つまで提出できます。
- ・レポート文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

TX	環境デザイン特論II-2	科目コード： 30628
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】05/11～05/20【8/20締切分】08/11～08/20【11/20締切分】11/11～11/20 【2/20締切分】02/11～02/20 受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	無	
担当者	井口勝文*、倉知徹、加藤友規*	

科目概要と到達目標

本科目では、【1】「都市論」、【2】「ランドスケープ論」について教材の精読、参考文献の精読および整理・分析を行う。
それらを通して、自身の修了制作・研究テーマを定着するための基礎理論および応用力を獲得し、さらには客観的に位置付けられた自身の研究を説得力のあるものとする実践力を養うことを目標とする。

評価基準と成績評価方法

- ・課題主旨の理解
- ・切り口の明快さ
- ・発展的・創造的な問題提起や展望を導きだせているか
- ・註）および参考文献・出典リストを必ずつけて、論述の根拠を明らかにしているか

上記項目を総合的に評価する。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	【学習のポイント】欄を参照。

第1課題

課題コード：11

課題の内容

【1】 【2】 よりいずれかを選択し、その調査結果、整理・分析結果のレポートを提出してください。
（所属分野問わず選択可）
なお、レポート冒頭には選択した課題名「都市論」「ランドスケープデザイン論」を記載すること。

【1】「都市論」（添削担当：井口勝文、倉知徹）

●課題内容

メソポタミア、地中海由来のヨーロッパなどの建築は庭が無く直接道路に接している。隣家との間に隙間は無い。道路に沿って建築のファサードが連続するから、建築を設計することはそのまま都市を設計することになる。これが街並みの基本形だ。だからヨーロッパなどでは都市景観が建築家の責任であり、そのことが社会の常識になっている。

一方、日本の建築は（一部の町家を除いて）農家や武家屋敷を原型とする庭付き1戸建てが普通であった。だから道を歩いていると、塀や生け垣、庭の木立が見えて、庭の奥に建築が控えている。隣家との間にはゆとりがあるから、建築のファサードはそれぞれが好きな方向を向いて建っている。つまり街並みを形成する要素はまず塀や生け垣、庭の木立である。建築が前面に出てくるのはせいぜい門構えくらいで、都市と建築は庭を挟んで間接的に関わることになる。これが日本の街並みの本来的な基本形だ。日本の建築家が都市景観に無関心になり、無責任でいられるのもそれなりの訳があった。

しかし高層、高密度の都市が普通になると、庭付き1戸建ての昔の伝統に安住していて良いはずがない。安住しているうちに我が国の都市はどこも見るに堪えない醜い風景になってしまった。日本も今は、建築のファサードが都市の景観形成の主役であることを自覚しなければならない。そして自然の風景が美しいように、都市もまた美しい風景をつくれることを自覚しなければならない。我々は日本の美しい街並みをどのように行けば良いのだろうか？参考文献を読んで考えてください。「建築の立場から都市にどう貢献するか」ではなく、「都市の立場から建築はどうあるべきか」を考えてください。対象は住宅街としても良く、都市一般としても良いです。

●提出物

1. レポート本文（4800文字程度）

2. 事例の図版・写真等（任意）

※レポート冒頭には「都市論」と記載し、レポートの主旨を表すタイトルをその後に記すこと。

●図版・写真の提出方法

図版・写真を提出する場合はレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。図版・写真に出典がある場合は「参考文献」入力欄に出典リストを作成してください。（添付ファイルの提出は必須ではありません。）

（出典リストの記入例）

fig.01：『〇〇』〇〇著 ●●出版

fig.02：『〇〇』（URLアドレス）

・添付ファイルはJPEG形式とし、ファイル名は「学籍番号_fig.jpg」を用いてください。

（例：34567890_fig01.jpg）

・また、画像には30文字以内の説明（キャプション）をつけてください。

（例：fig.01：「〇〇〇〇〇」）

・ひとつあたりのファイルの容量は5MB以下とし、ファイルは最大8つまで提出できます。

・レポート文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

【2】「ランドスケープ論」（添削担当：加藤友規）

●課題内容

「石をたてん事、まづ大旨をこゝろふべき也」と、平安時代編纂の『作庭記』は作庭についての指南書で、そこにみる作庭の技と心は現在にも通じるものが少なくない。さらに、自然に倣うことを基本とする姿勢も読み取れ、造園の仕事がそれに携わる人々にどのように受け継がれてきたのかが見ることができ、大変興味深い貴重な資料である。

ところで、近代に入るまでは庭石の運搬は非常に大きな課題であったが、それゆえ遠方から到来する石

は高価で貴重であったことが『毛吹草』（1645）や『和漢三歳図会』（1713）からも伺える。しかしながら、石ばかりでなく、物資などの移動が容易ではなかった時代、近隣に産するものや近場で調達できるものを使用することが常で、庭園においては永らく地産地消の原則が大前提であった。例えば、京都の慈照寺の「銀沙灘」と「向月台」は土地の性質を活かして人の手によって創り出された代表的な造形、景色である。

日本の近代は、激変する社会情勢の中で人々の暮らしや生活環境も変化してきた。私たちの生活に関わるあらゆる物、目にする風景など、それらを構成する物資の多くに経済性が優先され、地産であることの合理性が薄れてきた。流通経済の発達により様々な物資や情報が大量に供給されるようになり、それは創造性あふれる新たな時代の活動である一方で、風土の中で歳月をかけて育まれてきた風景を損ないかねない一因ともなっている。さらに、地球規模での気象や自然環境の変化、自然災害の多発は、私たちが折々に営んできた風情ある文化的な営みや、風土の中で培われた文化的な景観を守るためには大きな困難を伴うようになり、その課題と向き合うことなしで、進むことができない状況となってきた。この課題では、まず、皆さん自身を取り巻く環境や現代の私たちが目にする景観に目を向けて、それが長い歴史の中でどのように形成されてきたのかということに思いを馳せてもらいたい。冒頭で『作庭記』を取り上げたのは、人々が暮らす環境の中に庭を、風景をつくるということの原点をそれぞれに探ったうえで、今後、皆さんが取り組んでいく自身の修了制作・研究テーマを定めて行ってもらいたいと考えたからである。私たちの生きる現代は、技術、情報、経済をはじめあらゆる面において発達を遂げてきた先端にあり、ここから先の未来に向かう出発点でもある。

以上を踏まえ、自らを取り巻く環境に眼差しをむけ、自身が現在抱く修了制作・研究テーマに向かうアプローチを行ってもらいたい。「風土の中で100年後の未来の風景を育む、私のランドスケープ計画」をテーマとするレポートを取りまとめること。レポート作成にあたっては参考文献【2】欄の文献を適宜参考にしながら、自らも様々な史資料を新たに探しそれに触れ、あなたの問題意識や得意分野に立脚した自己の立場を明らかにすること。

1. レポート本文（4800文字程度）

2. 事例の図版・写真等（任意）

※レポート冒頭に「ランドスケープデザイン論」と記載すること。

●図版・写真の提出方法

図版・写真を提出する場合はレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。図版・写真に出典がある場合は「参考文献」入力欄に出典リストを作成してください。（添付ファイルの提出は必須ではありません。）

（出典リストの記入例）

fig.01：『○○』○○著 ●●出版

fig.02：『○○』（URLアドレス）

・添付ファイルはJPEG形式とし、ファイル名は「学籍番号_fig.jpg」を用いてください。

（例：34567890_fig01.jpg）

・また、画像には30文字以内の説明（キャプション）をつけてください。

（例：fig.01：「○○○○○○」）

・ひとつあたりのファイルの容量は5MB以下とし、ファイルは最大8つまで提出できます。

・レポート文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

TX	環境デザイン特論III-1	科目コード： 30629
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】05/11～05/20【8/20締切分】08/11～08/20【11/20締切分】11/11～11/20 【2/20締切分】02/11～02/20 受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	無	
担当者	鎌田秀章*、豊田保之、及川敦子、丸山弾、安部秀司、半海宏一、中山大介	

科目概要と到達目標

本科目では「プロジェクト研究」について、基礎的資料収集・調査、あるいは教材の精読、および整理・分析を行う。それらを通して建築設計業務に関するインターンシップに関連する知識を身につけることを目的とする。さらには、自身の修了制作のテーマを抽出するための基礎知識や観察力を獲得し、自身の設計を客観的に位置づけることのできる判断力を養うことを目的とする。

評価基準と成績評価方法

- ・課題主旨の理解
- ・切り口の明快さ
- ・具体的事例に即して十分に技術の分析が行われているか。
- ・自身の設計活動に反映できるような技術的知識として定着できているか。
- ・参考文献・出典リストを必ずつけて、論述の根拠を明らかにしているか。

上記項目を総合的に評価する。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	『現代住宅研究』塚本由晴・西沢大良著 INAX出版 『現代住居コンセプト—117のキーワード』プロスペクター監修 INAX出版 『建築家は住宅で何を考えているのか』難波和彦・山代悟著 PHP新書 『建築論事典』日本建築学会編 彰国社 （レポートの書き方）については【学習のポイント】を参照

第1課題

課題コード：11

課題の内容

●課題名

「プロジェクト研究（建築）」＜計画・歴史・社会＞

●内容

ある設計者あるいはプロジェクトについて想いを巡らせる時、自分自身の設計手法を模索するにあたって、時として大きな啓示を得ることがある。ここでは先達たちの成果をいかにして自分の武器にできるかを考えながら、彼らの作品の空間構成の分析と考察を行うことを求めている。ただし、建築プロジェクトは歴史的位置付けや社会・制度と無関係であることはないので、それらも含めて捉える必要がある。この課題が自身の建築家としての方向性を、客観的に見つめ直すよい契機になればと考えている。設計者およびプロジェクトは単独でも複数でも構わないし、住宅でなくても構わないが、主観的な印象論にとどまることは避け、図面や写真などの資料を用いた分析を行うこと。小論文としての体裁が整えられていることは望ましいが特にはこだわらない。自身の論を展開するにあたって、その根拠を示すために参考書籍から引用することはよいが、自分の言葉を主とし引用は従とすること。できる限り自分自身の着眼点と問題意識とに根ざしたユニークで新鮮な考察をなによりも期待している。

●提出物

1. レポート本文（4800文字程度）
2. 事例の図版、写真等（必須）

●図版・写真の提出方法

図版・写真等はレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。

- ・図版・写真に出典がある場合は「参考文献」入力欄に出典リストを作成してください。

（出典リストの記入例）

fig.01：『〇〇』〇〇著 ●●出版

fig.02：『〇〇』（URLアドレス）

- ・添付ファイルはJPEG形式とし、ファイル名は「学籍番号_fig.jpg」を用いてください。

（例：34567890_fig01.jpg）

- ・また、画像には30文字以内の説明（キャプション）をつけてください。

（例：fig.01：「〇〇〇〇〇」）

- ・ひとつあたりのファイルの容量は5MB以下とし、ファイルは最大8つまで提出できます。
- ・レポート文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

TX	環境デザイン特論III-2	科目コード： 30630
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	なし	
履修方法	レポート課題	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】05/11～05/20【8/20締切分】08/11～08/20【11/20締切分】11/11～11/20 【2/20締切分】02/11～02/20 受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	無	
担当者	鎌田秀章*、豊田保之、及川敦子、丸山弾、安部秀司、半海宏一、中山大介	

科目概要と到達目標

本科目では「工法・素材研究」について、基礎的資料収集・調査、あるいは教材の精読、および整理・分析を行う。それらを通して建築設計業務に関するインターンシップに関連する知識を身につけることを目的とする。さらには、自身の修了制作のテーマを抽出するための基礎知識や観察力を獲得し、自身の設計を客観的に位置づけることのできる判断力を養うことを目的とする。

評価基準と成績評価方法

- ・課題主旨の理解
- ・切り口の明快さ
- ・具体的事例に即して十分に技術の分析が行われているか。
- ・自身の設計活動に反映できるような技術的知識として定着できているか。
- ・参考文献・出典リストを必ずつけて、論述の根拠を明らかにしているか。

上記項目を総合的に評価する

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	【学習のポイント】欄を参照。

第1課題

課題コード：11

課題の内容

- 課題名
「工法・素材研究（建築）」＜構造・工法・環境・生産＞

●内容

あるプロジェクトについて、構造や工法あるいは素材を中心にまとめる。自分自身の設計を進めるにあたって、どのような構造や素材を選択するかは大変重要なファクターである。その選択が設計コンセプト全体に影響を及ぼすこともあれば、逆に設計コンセプトから構造や素材が決定されることもあるであろう。ここでは、先達たちの成果をいかにして自分の武器にできるかを考えながら、主としてその構造や工法あるいは素材とその空間コンセプトとの関係性に対して分析と考察を行うことを求めている。そしてそのことが自身の方向を客観的に見つめ直すよい契機になればと考えている。

設計者およびプロジェクトは単独でも複数でも構わないし、住宅でなくても構わないが、主観的な印象論にとどまることは避け、図面や写真などの資料を用いた分析を行うこと。小論文としての体裁が整えられていることは望ましいが特にはこだわらない。自身の論を展開するにあたって、その根拠を示すために参考書籍から引用することはよいが、自分の言葉を主とし引用は従とすること。できる限り自分自身の着眼点と問題意識とに根ざしたユニークで新鮮な考察をなによりも期待している。

●提出物

1. レポート本文（4800文字程度）
2. 事例の図版、写真等（必須）

●図版・写真の提出方法

図版・写真等はレポート本文とは別に添付ファイルとして提出してください。

- ・図版・写真に出典がある場合は「参考文献」入力欄に出典リストを作成してください。

（出典リストの記入例）

fig.01：『〇〇』〇〇著 ●●出版

fig.02：『〇〇』（URLアドレス）

- ・添付ファイルはJPEG形式とし、ファイル名は「学籍番号_fig.jpg」を用いてください。
（例：34567890_fig01.jpg）
- ・また、画像には30文字以内の説明（キャプション）をつけてください。
（例：fig.01：「〇〇〇〇〇」）
- ・ひとつあたりのファイルの容量は5MB以下とし、ファイルは最大8つまで提出できます。
- ・レポート文中に写真・図版をレイアウトして提出することはできません。

TX	芸術環境特論I-3 科目コード： 30631
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	なし ※芸術環境研究領域の比較芸術学分野、文化遺産・伝統芸術分野の学生は芸術環境演習Ⅰの8月度のスクーリングを履修後に履修することが望ましい。
履修方法	レポート課題
課題提出形態	郵送・窓口、airU ※再提出の場合の提出方法は、初回提出方法に準ずる。
課題数	1
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】05/11～05/20【8/20締切分】08/11～08/20【11/20締切分】11/11～11/20 【2/20締切分】02/11～02/20
単位修得試験	無
担当者	池野絢子*、井上治ほか

科目概要と到達目標

本科目は、研究系の大学院生が修士論文を執筆するために必要なスキルを実践的に身につけることを目的としています。修士論文では、ただ事実を連ねて書くのではなく、これまでにその分野でどのような研究がなされてきたのかを説明し、それを批判的に検討した上で自らの意見を述べる必要があります。そのためには、関連する先行研究を的確に分析し、その内容を適切に説明するとともに、それを踏まえて自らの研究上の立場を改めて考えるなければなりません。本科目では、そのような研究系の大学院生にとって必須の基礎的な能力を身につけることを到達目標とします。

評価基準と成績評価方法

1. 課題の趣旨を正しく把握・理解しているか
2. 先行研究の内容を正確に理解できているか
3. 自分の意見を適切に説明できているか
4. 自分の言葉で具体的に論述できているか
5. 文章表現は正確かどうか、誤字・脱字はないか

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	河野哲也『レポート・論文の書き方入門』（慶應義塾大学出版会、2002年）

第1課題

課題コード：11

初回提出物	1. 添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を記入）
-------	--------------------------------------

(一括送付)	2. レポート本文 手書きの場合：大学指定レポート冊子の原稿用紙面8枚程度・ヨコ書き、 手書き以外の場合：任意のA4用紙《1枚あたり40文字×30行》に 3,200文字程度・ヨコ書き 3. 宛名表紙（レポート冊子綴込み、または『学習ガイド』巻末書式をコピーし、 返送先明記・切手不要） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 添削指導評価書と3. 宛名表紙は不要 です。
再提出物 (一括送付)	1. 再提出用添削指導評価書（『学習ガイド』巻末書式をコピーし、必要事項を 記入） 2. 再提出レポート本文 3. 前回提出（=D評価）のレポート（添削指導評価書（添削文含む）、レポート 本文、宛名表紙） ※airUマイページから提出する場合、上記の1. 再提出用添削指導評価書と3. 前回提 出レポートは不要です。

課題の内容

まず、自分の研究テーマに関連した先行研究を三つ集め、精読してください。そして①自分の研究テーマを記し、②集めた三つの論文について、以下に挙げる二つの課題に取り組んでください。

1. 各論文の内容を要約する（各600字程度）。冒頭に必ず、各論文についての書誌情報を記載すること。

例）【雑誌論文の場合】上村博「記念のかたち——今日の真正さをめぐって」、『京都造形芸術大学紀要Genesis』、17号、2013年、111-121頁

【論文集のなかの論文の場合】ジョナサン・クレーリー「近代化する視覚」ハル・フォスター編『視覚論』、樽沼範久訳、平凡社、2000年、53-74頁

2. 三つの先行研究それぞれを批判的に検証し、自身の見解を述べる（1400字程度）。

TX	超域制作学特論I-1	科目コード： 30641
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	超域プログラムのみ履修可	
履修方法	レポート課題	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】05/11～05/20【8/20締切分】08/11～08/20【11/20締切分】11/11～11/20 【2/20締切分】02/11～02/20 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	無	
担当者	池野絢子*、笈菜奈子	

科目概要と到達目標

●授業概要

インターネットの普及やグローバル化の進行とともに、芸術と芸術をとりまく環境は大きく変化しつつあります。そうした状況にあって現在進行形の芸術について思考するためには、近現代芸術の批評言語とその思想的・歴史的背景を自ら学び、考える力を身につける必要があります。この授業では、現代芸術の理解に必須の二つの課題を用意しています。課題をまず確認し、参考文献を手掛かりに、関連資料を調査し答えをまとめてください。この作業を通じて、現代芸術のありかたについて主体的に考え、自ら表現する力を養うことを目指します。

●授業目標

近現代芸術の基本的な批評言語とその思想的背景を理解し、それについて自ら考えること。

評価基準と成績評価方法

- ・授業の趣旨・内容を理解しているか。
- ・課題に主体的に取り組んでいるか。
- ・事実や知識の列挙ではなく、考察や解釈が十分に展開されているか。

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。

本科目の成績評価は課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	『批評空間（臨時増刊号） モダニズムのハード・コア：現代美術批評の地平』浅田彰、岡崎乾二郎、松浦寿夫共編、太田出版、1995年 パブロ・エルゲラ『ソーシャリー・エンゲイジド・アート入門 アートが社会と深く関わるための10のポイント』フィルムアート社、2015年

参考文献・URL	尾崎信一郎『絵画論を超えて』東信堂、1999年 クレメント・グリーンバーグ『グリーンバーグ批評選集』藤枝晃雄訳、勁草書房、2005年
----------	---

第1課題

課題コード：11

課題の内容

以下の二つの設問に対し、それぞれ1,600字程度で答えてください。

1. クレメント・グリーンバーグのフォーマリズム批評とはどのようなものか説明し、その限界や有効性について自分の考えを述べてください。（1,600字程度）
2. ソーシャリー・エンゲイジド・アート(Socially Engaged Art)とは何でしょうか。作品を一つ取り上げて説明し、それがなぜ「芸術」と呼べるのか、考察してください。（1,600字程度）

TX	超域制作学特論I-2	科目コード： 30642
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	超域プログラム領域のみ履修可	
履修方法	レポート課題	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】05/11～05/20【8/20締切分】08/11～08/20【11/20締切分】11/11～11/20 【2/20締切分】02/11～02/20 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間。	
単位修得試験	無	
担当者	池野絢子*、笥菜奈子	

科目概要と到達目標

●授業概要

デザインは、人間の思考だけではなく、時代や社会とも深い関わりを有しています。この授業では近現代のデザインにおける重要な概念、運動を課題として取り上げ、その思想的・歴史的背景について理解を深めるとともに、自ら考える力を身につけます。近現代のデザインを理解する上で重要な二つの課題を用意しています。課題をまず確認し、参考文献を手掛かりに、関連資料を調査し答えをまとめてください。この作業を通じて、現代のデザインについて思考し、自身の考えを表現する力を養うことを目標とします。

●授業目標

デザインの基本的な批評言語とその思想的背景を理解し、それについて自ら考えること。

評価基準と成績評価方法

- ・ 授業の趣旨・内容を理解しているか。
- ・ 課題に主体的に取り組んでいるか。
- ・ 事実や知識の列挙ではなく、考察や解釈が十分に展開されているか。

以上の評価観点を全体として満たしていることを合格の基準とします。

成績評価はレポート課題結果と単位修得試験結果の平均です。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	ヘレン・アームストロング『未来を築くデザインの思想 ポスト人間中心デザインへ向けて読むべき24のテキスト』久保田晃弘監訳、村上彩訳、BNN新社、2016年 パウル・クレイ『造形思考 上・下』土方定一・菊盛英夫・坂崎乙郎訳、ちくま学芸文庫、2016年

参考文献・URL	トーマス・ハウフェ『近代から現代までのデザイン史入門 1750-2000年』藪亨訳、晃洋書房、2007年 ジリアン・ネイラー『アーツ・アンド・クラフツ運動』みすず書房、2013年 三井秀樹『美の構成学 バウハウスからフラクタルまで』中公新書、1996年
----------	---

第1課題

課題コード：11

課題の内容

以下の二つの設問に対し、それぞれ1,600字程度で答えてください。

1. アーツ・アンド・クラフツ運動の基本的理念とその時代背景についてまとめ、この運動の現代的意義について考察してください。（1,600字程度）
2. バウハウスは、建築からインダストリアルデザイン、タイポグラフィまで、現代のデザインとアートに広い影響を及ぼしました。その活動内容を説明し、それが後のデザインやアートに与えた影響について、例を挙げて論じてください。（1,600字程度）

TX	超域制作学特論II-1	科目コード： 30643
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	超域プログラムのみ履修可	
履修方法	発表およびディスカッション→レポート課題提出	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【8/20締切分】08/11～08/20【2/20締切分】02/11～02/20 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間（なお、課題提出前に発表およびディスカッションがあります）。	
単位修得試験	無	
担当者	加藤淳*	

科目概要と到達目標

●科目概要

サイト・スペシフィック・アートについて、特に香川県直島での例をもとに、理論的な反省を行います。「サイトスペシフィック・アート」は、「パブリック・アート」以上に、場所固有の自然的、文化的な文脈を尊重しつつ、強い意味を持った芸術的な場を構築します。授業では直島のサイト・スペシフィック・アートの事例を1つ選び、その事例に関する学生の発表と、それを巡るディスカッションを中心に進めます。

●到達目標

芸術の社会性について、また公共的な場での芸術活動についての批判的考察力を養うことが目標です。

評価基準と成績評価方法

airU上の発表と意見交換によって、以下の観点を総合的に評価します。

- ・授業の趣旨・内容を理解しているか。
- ・ディスカッション等を通じて課題に主体的に取り組んでいるか。
- ・事項や知識の列挙ではなく、考察や解釈に力を入れているか。
- ・自分自身の「論」として構成・叙述されているか。

レポートとコメントの総合評価

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	公益財団法人 福武財団『Becoming』 2013年

第1課題

課題コード：11

課題の内容

ディスカッションの結果をうけて、最初のレポートに加筆修正し、完成させた1600字程度のレポートを提出し、レポートへの教員からの講評も確認してください。

TX	超域制作学特論II-2	科目コード： 30644
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	超域プログラムのみ履修可	
履修方法	発表およびディスカッション→レポート課題提出	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】05/11～05/20【11/20締切分】11/11～11/20 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間（なお、課題提出前に発表およびディスカッションがあります）。	
単位修得試験	無	
担当者	加藤淳*	

科目概要と到達目標

●科目概要

サイトスペシフィックアート作品の制作について、香川県直島や様々なアートプロジェクトでの例をもとに、理論的な反省を行います。サイトスペシフィックアート作品の制作では、通常の作品制作とは異なり、社会性や場所固有の自然的・文化的な文脈を尊重することで、強い意味を持った芸術的な場が構築されます。実際に、作品を場との関係性を取り込んだ社会的なものとして完成させるには必要不可欠な要素がいくつかあります。授業では、各自が参考文献を参照し、必要不可欠と考えた要素を3点以上抽出し、必要と考えた根拠と事例とともに発表し、それを巡るディスカッションを中心に進めます。

●到達目標

公共の場で社会性を持った作品を制作するための理論的、批判的、実践的な考察力を養うことが目標です。

評価基準と成績評価方法

airU上の発表と意見交換によって、以下の観点を総合的に評価します。

- ・授業の趣旨・内容を理解しているか。
- ・ディスカッション等を通じて課題に主体的に取り組んでいるか。
- ・事項や知識の列挙ではなく、考察や解釈に力を入れているか。
- ・自分自身の「論」として構成・叙述されているか。

レポートとコメントの総合評価

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	公益財団法人 福武財団『Becoming』 2013年 福武総一郎、安藤忠雄著『直島 瀬戸内アートの楽園』新潮社 2011年 藤田直哉編著『地域アート 美学/制度/日本』堀之内出版 2016年

第1課題

課題コード：11

課題の内容

ディスカッションの結果をうけて、最初のレポートに加筆修正し、完成させた1600字程度のレポートを提出してください。

レポートへの教員からの講評も確認してください。

TX	超域制作学特論III-1 科目コード： 30645
配当年次	1年次～
単位数	2
履修の前提条件	超域プログラムのみ履修可
履修方法	発表およびディスカッション→レポート課題提出
課題提出形態	airU
課題数	1
課題提出期間	第1課題 【8/20締切分】08/11～08/20【2/20締切分】02/11～02/20 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間（なお、課題提出前に発表およびディスカッションがあります）。
単位修得試験	無
担当者	山口潤、渡邊仁史、日野圭*

科目概要と到達目標

●科目概要

先端技術との融合により、アートの多様化が進んでいる。本科目では、インタラクティブアート、Virtual Reality、Mixed Reality、ロボティクス、サイバネティクスといった先端技術のサーベイを通じて、多様化する表現方法の開発手法や、コンテンツとするための企画手法等を議論する。

●到達目標

先端技術サーベイを通して、情報源の要約能力を身につける。また、サーベイを元に議論し、先端技術をどのようにアプリケーション化・コンテンツ化するか、企画開発する能力を養う。

評価基準と成績評価方法

airU上の発表と意見交換によって、以下の観点を総合的に評価します。

- ・授業の趣旨・内容を理解しているか。
- ・課題に主体的に取り組んでいるか。

レポートとコメントの総合評価

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	A. インタラクティブアート NTT INTERCOMMUNICATION CENTER http://www.ntticc.or.jp/ja/ アルス エレクトロニカ https://www.aec.at/about/jp/ チームラボ http://www.team-lab.com/ ライゾマティクス

参考文献・URL	https://rhizomatiks.com/ B. Virtual Reality・Augmented Reality・Mixed Reality exiii EXOS http://exiii.jp mogra VR（ニュースサイト） http://www.moguravr.com/ Oculus Rift https://www.oculus.com/rift/ HTC Vive https://www.vive.com/jp/ Playstation VR http://www.jp.playstation.com/psvr/ Leap Motion https://www.leapmotion.com/ HoloLens https://www.microsoft.com/ja-jp/hololens C. ロボティクス・サイバネティクス Softbank robot http://www.softbank.jp/robot/ 安川電機 https://www.yaskawa.co.jp/product/robotics ファナック http://www.fanuc.co.jp/ boston dynamics http://www.bostondynamics.com/ Schaft https://robotstart.info/2016/04/08/news-schaft_robot_nest2016.html 産業用ロボティクス、CYBERDYNE、アスラテック、バンダイナムコ、サンライズ
----------	--

第1課題

課題コード：11

課題の内容

発表した内容と、発表に対するディスカッションの結果をふまえ、発表時の内容に加筆修正し、3,200字程度のレポートを完成させ、レポート提出期間中に提出してください。

TX	超域制作学特論III-2	科目コード： 30646
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	超域プログラムのみ履修可	
履修方法	発表およびディスカッション→レポート課題提出	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】05/11～05/20【11/20締切分】11/11～11/20 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間（なお、課題提出前に発表およびディスカッションがあります）。	
単位修得試験	無	
担当者	山口潤、渡邊仁史、日野圭*	

科目概要と到達目標

●科目概要

IoTプロダクトを製品化するには、非常に多岐にわたる分野への理解が必要となる。
本科目では、配布資料をもとに、それぞれの分野について概論を理解した後、それぞれの分野について、各々のサーベイとディスカッションを通じて、さらに理解を深める。

●到達目標

IoTプロダクトを製品化するまでの全体ロードマップを理解し、必要な分野について、技術者とコミュニケーションを取れるようなレベルまで理解することを期待する。

評価基準と成績評価方法

airU上の発表と意見交換によって、以下の観点を総合的に評価します。

- ・授業の趣旨・内容を理解しているか。
- ・課題に主体的に取り組んでいるか。

レポートとコメントの総合評価

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	

第1課題

課題コード：11

課題の内容

発表した内容と、発表に対するディスカッションの結果をふまえ、発表時の内容に加筆修正し、6,000字程度のレポートを完成させ、レポート提出期間中に提出してください。
なお、レポートへの教員からの講評も確認してください。

TX	超域制作学特論IV-1	科目コード： 30647
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	超域プログラムのみ履修可	
履修方法	発表およびディスカッション→レポート課題提出	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【8/20締切分】08/11～08/20【2/20締切分】02/11～02/20 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間（なお、課題提出前に発表およびディスカッションがあります）。	
単位修得試験	無	
担当者	深井佐和子*	

科目概要と到達目標

●科目概要

本科目はコンテンポラリー・アートの諸文脈を理解するため、学生の発表とそれに対する指導講評を通じて指定された文献の読解を行います。現代アートは常にその時代を反映し有機的に変化しています。本授業では、そうした現在進行形の芸術について思考するために近現代芸術の研究書を取り上げ、現在起こっている変化、その背景となった現代美術史の理解を深めます。それにより、現代の芸術について考え、自身の言葉で表現する力を養うことを目標とします。

●到達目標

現代芸術の基本的な動向・状況とその思想的背景を理解すること。

評価基準と成績評価方法

airU上の発表と意見交換によって、以下の観点を総合的に評価します。

- ・授業の趣旨・内容を理解しているか。
- ・ディスカッション等を通じて課題に主体的に取り組んでいるか。
- ・事項や知識の列挙ではなく、考察や解釈に力を入れているか。
- ・自分自身の「論」として構成・叙述されているか。

本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	・本科目に取り組むためには、課題で指定されている1点以上の教材（文献）の入手が必要です。 ニコス スタンゴス『20世紀美術 フォーヴィズムからコンセプチュアル・アートまで』パルコ出版、1985年 ハンス・ウルリッヒ・オブリスト『キュレーション 「現代アート」をつくった

参考文献・URL	キュレーターたち』フィルムアート社、2013年 トニー・ゴドフリー『コンセプチュアル・アート』岩波書店、2001年 Terry Smith 『Talking Contemporary Curating』 Independent Curators Intl Dap、2015年
----------	--

第1課題

課題コード：11

課題の内容

ディスカッションの結果をうけて、最初のレポートに加筆修正し、完成させた1600字程度のレポートを提出してください。

なお、レポートへの教員からの講評も確認してください。

TX	超域制作学特論IV-2	科目コード： 30648
配当年次	1年次～	
単位数	2	
履修の前提条件	超域プログラムのみ履修可	
履修方法	発表およびディスカッション→レポート課題提出	
課題提出形態	airU	
課題数	1	
課題提出期間	第1課題 【5/20締切分】05/11～05/20【11/20締切分】11/11～11/20 airUでの提出は受付開始日の13:00から締切日の13:00までが提出期間（なお、課題提出前に発表およびディスカッションがあります）。	
単位修得試験	無	
担当者	深井佐和子*	

科目概要と到達目標

●授業概要

本科目では現代アートの諸文脈を理解した上で自らの研究ポイントを定め、その点について深く研究・考察した結果としてレポートを執筆いただきます。経済や政治の動向を受けて変化していく現代アートの歴史を踏まえた上で私たちがいるアートの「現在地」を確認・共有し、その上で現代の芸術について自らが探求したいと思うテーマを執筆を通して深めていきます。

●授業目標

現代芸術の基本的な動向・状況とその思想的背景を理解し、また自分の言葉で考察ポイントをまとめ発表すること。

評価基準と成績評価方法

airU上の発表と意見交換によって、以下の観点を総合的に評価します。

- ・授業の趣旨・内容を理解しているか。
- ・ディスカッション等を通じて課題に主体的に取り組んでいるか。
- ・事項や知識の列挙ではなく、考察や解釈に力を入れているか。
- ・自分自身の「論」として構成・叙述されているか。

本科目の成績評価は全課題の総合評価となります。

テキストと参考文献・URL

テキスト	なし
参考文献・URL	・本科目に取り組むためには、課題で指定されている1点以上の教材（文献）の入手が必要です。 - ニコス スタンゴス『20世紀美術 フォーヴィズムからコンセプチュアル・アートまで』パルコ出版、1985年 - ハンス・ウルリッヒ・オブリスト『キュレーション 「現代アート」をつくった

参考文献・URL	キュレーターたち』フィルムアート社、2013年 トニー・ゴドフリー『コンセプチュアル・アート』岩波書店、2001年 Terry Smith 『Talking Contemporary Curating』 Independent Curators Intl Dap、2015年
----------	--

第1課題

課題コード：11

課題の内容

ディスカッションの結果をうけて、最初のレポートに加筆修正し、完成させた1,600字程度のレポートを提出してください。

なお、レポートへの教員からの講評も確認してください。